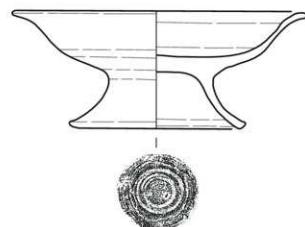


平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



二〇一九

2019

平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2019

水戸市教育委員会





原色図版 1



三ノ町遺跡調査状況（北から）



軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡 SB01 柱穴 P2 遺物検出状況（西から）



原色图版 2



軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑 SK07 遺物検出状況（南から）



軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑 SK07 土層断面（南から）





ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成21年度に水戸市内において実施した国庫補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成21年度に実施した試掘・確認調査は96件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査を5件、開発に伴う工事立会調査を14件実施しました。この数は県内でもトップクラスです。本書には、これらの調査によって得られた縄文時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果が盛り込まれております。

仙光内遺跡（第3地点）において実施した工事立会調査では、本遺跡において初見となる古墳時代後期の土師器や平安時代の須恵器が出土するとともに、近世から近代にかけての土器や陶磁器などが出土しました。

下入野富士山遺跡（第1地点）において実施した試掘調査では、本市でも調査事例の乏しい11世紀代の竪穴建物跡が検出され、平安時代半ば頃の庶民の生活の一端を垣間見ることのできる成果が得られました。

丹下ノ牧野馬士手跡では、土塁と共に並行する堀跡を検出するとともに、18世紀頃の土器・陶磁器類が出土し、第9代水戸藩主徳川齐昭により開設された桜野枚の一部を構成するものである可能性が高いことが判明しました。

本市が力を注いでいる歴史まちづくり事業のひとつである横山大観生誕の地整備事業に伴い実施した、三ノ町遺跡（第1地点）の確認調査においては、17世紀後半から19世紀前半にかけての生活面と武家屋敷の伴う土器・陶磁器類が大量に検出され、横山大観が生まれた酒井家の屋敷の遺構・遺物が地下に良好な状態で保存されていることが確認されました。

それぞれの調査面積・期間はさざやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねていくことにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、郷土の歴史的資源を活かした風格のあるまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつをいたします。

平成31年3月

水戸市教育委員会
教育長 本多 清峰





例　　言

1. 本書は平成 21 年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査時の体制は以下のとおりである。

(平成 21 年)

事　務　局	鰐岡　武　水戸市教育委員会教育長 内田秀泰　水戸市教育委員会事務局教育次長 宮崎賢司　同文化振興課大申貝塚ふれあい公園所長 山戸祐子　同嘱託員 大津郁子　同嘱託員 荒時周平　同嘱託員
整理担当者	川口武彦　同文化財主事 色川順子　同嘱託員
3. 整理作業は以下の体制で平成 22 年以降も継続して実施した。	
事　務　局	本多清経　水戸市教育委員会教育長（平成 24 年 10 月 5 日～） 会沢俊郎　水戸市教育委員会事務局教育次長（平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日） 中里誠志郎　同教育次長（平成 25 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日） 七字裕二　同教育次長（平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日） 増子孝伸　同教育次長（平成 30 年 4 月 1 日～）
	五上義隆　同埋蔵文化財センター所長（平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） 飯村博史　同埋蔵文化財センター所長（平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日） 長谷川仁　同埋蔵文化財センター所長（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 間口慶久　同埋蔵文化財センター所長（平成 29 年 4 月 1 日～） 渥美賢吾　同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹（平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） 新垣貴賀　同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹（平成 28 年 4 月 1 日～） 廣松滉一　同埋蔵文化財センター文化財主事（平成 30 年 4 月 1 日～） 金子千秋　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日） 三浦健太　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日） 額賀大輔　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） 鈴木達也　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） 鈴木　学　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日） 尾　志穂　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 26 年 4 月 1 日～） 丸山優香里　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 26 年 6 月 1 日～） 下山はる奈　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 柴井千佳　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 29 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日） 松浦史明　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 29 年 4 月 1 日～） 大津郁子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日） 田中恭子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日） 木村貴子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日） 木本雪佳　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日） 大谷純奈　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日） 菅谷瑛尔　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 27 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 有田洋子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 29 年 4 月 1 日～） 山戸祐子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 18 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日） 杉山祥子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日） 整理担当者　米川暢敬　同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹（平成 22 年 4 月 1 日～） 色川順子　同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）



坂本幸子 同埋蔵文化財センター嘱託員（平成24年10月1日～平成25年3月31日）

本田有里乃 同埋蔵文化財センター嘱託員／主事（平成25年4月1日～平成29年3月31日）

4. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

石川 勉，石崎寿子，石崎洋子，櫻澤由紀江，海老原四郎，岡野政雄，小山司農夫，片西登美江，加藤利男，川又恵美子，河原井俊吉郎，久保木きよ子，久保田馨，栗原芳子，黒須昭明，鈴木潤一，高柳悦子，高安幸且，飛田とし子，富田 仁，中山忠雄，廣水一真，福原雅美，三浦健太，皆川明子，皆川幸子，村上巧兒，山崎武司，渡辺恵子

整理作業參加者

安島町子，飯田貴代子，石原幸子，小澤弥代，柏千枝子，郡司由紀子，斎藤千左乃，杉崎明美，鈴木加代子，須藤裕美，田上雪枝，橋本祥子，人見よね子，平根真由美，広瀬文子，深澤貞子，三浦悦子，山戸祐子，和田正治

5.本書の執筆は、各現場の担当者が分担して行ない、全体の編集には米川・間口・色川・坂本があたった。出土遺物については図化および解説表作成、解説文執筆を色川・坂本・渥美・米川・間口・川口が分担した。

6. 本書に関する資料は、水戸市教育委員会が保管している。

7. 遺構の写真撮影は現場担当者が行った。

8. 登録調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く感謝する。

謝いたします（五十音順・敬称略）。

【個人】青山俊明，福田健一，今尾文昭，梅田由子，大塚初重，大橋泰夫，岡本東三，川崎純徳，瓦吹堅，木本朝嗣，黒澤彰哉，小杉山谷，後藤一成，後藤孝行，後藤道雄，斎藤弘道，佐々木義則，鈴木素行，田中裕，谷口陽子，日高慎，吹野富美夫，三井猛，宮内良蔵，谷伸俊雄，山中敏史，横倉要次

【機関】文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課

凡例

- 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
 - 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
 - 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2000年版）に従った。
 - 引用・参考文献は、一括して本文の最後に提示した。
 - 表紙に使用した遺物の実測図は、下入野富士山遺跡（第1地点）出土の土師器（足高台窯）である。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成21年度の発掘調査と概要	1
第2章 開発に伴う発掘調査／確認調査／個人住宅建築に伴う本発掘調査	9
第1節 酒門・吉田地区	
2-1-1 酒門小学校遺跡（第2地点）	10
2-1-2 大鶴町遺跡（第11地点）	11
2-1-3 谷田古墳群（第11地点）	12
2-1-4 吉田古墳群（第7地点第1次～第3次）	13
2-1-5 吉田古墳群（第8地点）	14
2-1-6 刷知外（吉田古墳群近接）	15



2-1-7	福沢古墳群（第3地点）	16
2-1-8	福沢古墳群（第4地点）	17
2-1-9	福沢古墳群（第5地点）	18
2-1-10	福沢古墳群（第8地点）	19
2-1-11	薬王院東遺跡（第2地点第3次）	20
2-1-12	乗越沢遺跡（第1地点）	21
第2節 緑岡地区		
2-2-1	若林遺跡（第1地点第3次）	22
2-2-2	若林遺跡（第1地点第4次）	23
2-2-3	杏掛遺跡（第2地点）	25
2-2-4	杏掛遺跡（第4地点）	26
第3節 赤塚地区		
2-3-1	高天原遺跡（第2地点）	27
2-3-2	坪遺跡（第11地点第1・2次）	28
2-3-3	坪遺跡（第13地点）	30
2-3-4	赤塚遺跡（第5地点第2次）	32
2-3-5	河和田城跡（第11地点）	34
2-3-6	河和田城跡（第12地点）	35
2-3-7	周知外（河和田城跡近接）	36
2-3-8	仙光内遺跡（第3地点）	36
2-3-9	丹下一ノ牧野馬土手跡	39
第4節 山根地区		
2-4-1	南仲坪遺跡（第5地点）	42
2-4-2	新田遺跡	43
2-4-3	般若寺遺跡	43
第5節 渡里地区		
2-5-1	文京1丁目遺跡（第1地点）	44
2-5-2	西原遺跡（第1地点）	46
2-5-3	堀遺跡（第14地点）	47
2-5-4	堀遺跡（第19地点）	47
2-5-5	堀遺跡（第20地点）	48
2-5-6	堀遺跡（第21地点）	50
2-5-7	西原古墳群（第14地点）	51
2-5-8	渡里町遺跡（第10地点（台渡里第53次））	52
2-5-9	台渡里官衛遺跡（台渡里第43次）	54
2-5-10	アラヤ遺跡（台渡里第55次）	55
2-5-11	台渡里庵寺跡（台渡里第57次）	56
2-5-12	アラヤ遺跡（台渡里第59次）	58
2-5-13	台渡里庵寺跡（台渡里第61次）	64
第6節 国田地区		
2-6-1	南台遺跡（第2地点）	65
第7節 飯富地区		
2-7-1	大井古墳群（第1地点）	66
2-7-2	馬場尻跡	67
2-7-3	大部平太郎屋敷跡（第1地点）	68
第8節 旧市内・その他・市街地		
2-8-1	三ノ町遺跡（第1地点）	69
2-8-2	偕楽園（常磐公園）	74





第9節 常澄地区	75
2-9-1 上平遺跡	75
2-9-2 高原遺跡（第3地点）	76
2-9-3 下入野富士山遺跡（第1地点）	77
第10節 内原地区	
2-10-1 遠台遺跡（第4地点）	78
2-10-2 舟塚古墳（第1地点）	79
2-10-3 田島古墳群（第1地点）	80
2-10-4 一戦塚遺跡（第1地点第2次）	83
2-10-5 息栖台遺跡（第1地点）	84
第3章 平成20年度の発掘調査追加報告（補遺）	85
3-1 周知外（安楽寺遺跡近接）	86
3-2 葉王院東遺跡（第2地点第2次）	86
3-3 平ナ山窓跡群	88
3-4 中河内遺跡（第3地点）	88
3-5 寺内遺跡（第2地点）	89
3-6 軍民坂遺跡（第4地点）	90
引用・参考文献	132

図版目次

第1図 調査対象となった遺跡の位置	5
第2図 道構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(1)	6
第3図 道構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(2)	7
第4図 道構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(3)	8
第5図 道構・遺物が検出されなかった遺跡の位置(4)	9
第6図 酒門小学校遺跡（第2地点）の位置	10
第7図 酒門小学校遺跡（第2地点）のレンチ配置	10
第8図 酒門小学校遺跡（第2地点）出土遺物	10
第9図 大鶴町遺跡（第11地点）の位置	11
第10図 大鶴町遺跡（第11地点）の位置	11
第11図 大鶴町遺跡（第11地点）出土遺物	11
第12図 谷田古墳群（第11地点）の位置	12
第13図 谷田古墳群（第11地点）のレンチ配置	12
第14図 谷田古墳群（第11地点）出土遺物	12
第15図 吉田古墳群（第7地点第1次）の位置	13
第16図 吉田古墳群（第7地点第1次）のレンチ配置	13
第17図 吉田古墳群（第7地点第1次）出土遺物	13
第18図 吉田古墳群（第8地点）の位置	14
第19図 吉田古墳群（第8地点）のレンチ配置・遺物出土状況	14
第20図 吉田古墳群（第8地点）出土遺物	14
第21図 周知外（吉田古墳群近接）の位置	15
第22図 周知外（吉田古墳群近接）のレンチ配置・遺物出土状況	15
第23図 福沢古墳群（第3地点）の位置	16
第24図 福沢古墳群（第3地点）のレンチ配置	16
第25図 福沢古墳群（第4地点）の位置	17
第26図 福沢古墳群（第4地点）のレンチ配置	17
第27図 福沢古墳群（第5地点）の位置	18
第28図 福沢古墳群（第5地点）のレンチ配置	18
第29図 福沢古墳群（第5地点）出土遺物	18
第30図 福沢古墳群（第8地点）の位置	19
第31図 福沢古墳群（第8地点）のレンチ配置	19
第32図 葉王院東遺跡（第2地点第3次）の位置	20
第33図 葉王院東遺跡（第2地点第3次）のレンチ配置	20
第34図 葉王院東遺跡（第2地点第3次）出土遺物	20
第35図 乗越沢遺跡（第1地点）の位置	21
第36図 乗越沢遺跡（第1地点）のレンチ配置	21
第37図 乗越沢遺跡（第1地点）出土遺物	21
第38図 若林遺跡（第1地点第3次）の位置	22
第39図 若林遺跡（第1地点第3次）のレンチ配置	22
第40図 若林遺跡（第1地点第4次）の位置	23
第41図 若林遺跡（第1地点第4次）のレンチ配置	23
第42図 若林遺跡（第1地点第4次）出土遺物	24
第43図 奇掛遺跡（第2地点）の位置	25
第44図 奇掛遺跡（第2地点）のレンチ配置	25
第45図 奇掛遺跡（第4地点）の位置	26
第46図 奇掛遺跡（第4地点）のレンチ配置・遺物出土状況	26

第 47 図	高天原遺跡（第 2 地点）の位置	27
第 48 図	高天原遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	27
第 49 図	坪遺跡（第 11 地点第 1・2 次）の位置	28
第 50 図	坪遺跡（第 11 地点第 1・2 次）のトレンチ配置	28
第 51 図	坪遺跡（第 11 地点第 1・2 次）出土遺物	29
第 52 図	坪遺跡（第 13 地点）の位置	30
第 53 図	坪遺跡（第 13 地点）のトレンチ配置	30
第 54 図	坪遺跡（第 13 地点）出土遺物	31
第 55 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）の位置	32
第 56 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）のトレンチ配置	32
第 57 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）出土遺物	33
第 58 図	河和田城跡（第 11 地点）の位置	34
第 59 図	河和田城跡（第 11 地点）のトレンチ配置	34
第 60 図	河和田城跡（第 12 地点）の位置	35
第 61 図	河和田城跡（第 12 地点）のトレンチ配置	35
第 62 図	周知外（河和田城跡近接）の位置	36
第 63 図	周知外（河和田城跡近接）採集遺物	36
第 64 図	仙光内遺跡（第 3 地点）の位置	36
第 65 図	仙光内遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置・断面図	37
第 66 図	仙光内遺跡（第 3 地点）出土遺物	38
第 67 図	丹下ノ一牧野馬手土跡の位置	39
第 68 図	丹下ノ一牧野馬手土跡の調査範囲	39
第 69 図	丹下ノ一牧野馬手土跡のトレンチ配置・断面図	40
第 70 図	丹下ノ一牧野馬手土跡の断面図・トレンチ配置図	40
第 71 図	丹下ノ一牧野馬手土跡出土遺物	41
第 72 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）の位置	42
第 73 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置	42
第 74 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）出土遺物	42
第 75 図	新田遺跡の位置	43
第 76 図	新田遺跡採集遺物	43
第 77 図	般若寺遺跡の位置	43
第 78 図	般若寺遺跡採集遺物	43
第 79 図	文京一丁目遺跡（第 1 地点）の位置	44
第 80 図	文京一丁目遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	44
第 81 図	西原遺跡（第 1 地点）の位置	46
第 82 図	西原遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	46
第 83 図	西原遺跡（第 1 地点）出土遺物	46
第 84 図	堀遺跡（第 14 地点）の位置	47
第 85 図	堀遺跡（第 14 地点）のトレンチ配置	47
第 86 図	堀遺跡（第 19 地点）の位置	47
第 87 図	堀遺跡（第 19 地点）のトレンチ配置	48
第 88 図	堀遺跡（第 20 地点）の位置	48
第 89 図	堀遺跡（第 20 地点）のトレンチ配置	49
第 90 図	堀遺跡（第 14・19・20 地点）出土遺物	49
第 91 図	堀遺跡（第 21 地点）の位置	50
第 92 図	堀遺跡（第 21 地点）のトレンチ配置	50
第 93 図	西原古墳群（第 14 地点）の位置	51
第 94 図	西原古墳群（第 14 地点）のトレンチ配置	51
第 95 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））の位置	52
第 96 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））のトレンチ配置	52
第 97 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））出土遺物	53
第 98 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）の位置	54
第 99 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）のトレンチ配置	54
第 100 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）出土遺物	54
第 101 図	アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）の位置	55
第 102 図	アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）出土遺物	55
第 103 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 57 次）の位置	56
第 104 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 57 次）のトレンチ配置	56
第 105 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 57 次）出土遺物	57
第 106 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の本发掘調査範囲	58
第 107 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の本发掘区画断面図	59
第 108 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構上層断面図(1)	60
第 109 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構上層断面図(2)	61
第 110 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構上層断面図(3)	60
第 111 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）出土遺物	62
第 112 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 61 次）の位置	64
第 113 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 61 次）のトレンチ配置	64
第 114 図	台渡里廢寺跡（台渡里第 61 次）出土遺物	64
第 115 図	南台遺跡（第 2 地点）の位置	65
第 116 図	南台遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	65
第 117 図	大井古墳群（第 1 地点）の位置	66
第 118 図	大井古墳群（第 1 地点）のトレンチ配置	66
第 119 図	馬場尻遺跡の位置	67
第 120 図	馬場尻遺跡採集遺物	67
第 121 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）の位置	68
第 122 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）のトレンチ配置	68
第 123 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）出土遺物	68
第 124 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）の位置	69
第 125 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	69
第 126 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物 (1)	70
第 127 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物 (2)	71
第 128 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物 (3)	72
第 129 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物 (4)	73
第 130 図	偕楽園（常磐公園）の位置	74
第 131 図	偕楽園（常磐公園）の現状変申請地とトレンチ配置	74
第 132 図	偕楽園（常磐公園）出土遺物	75
第 133 図	上平遺跡の位置	75
第 134 図	上平遺跡採集遺物	75
第 135 図	高原遺跡（第 3 地点）の位置	76
第 136 図	高原遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置	76
第 137 図	高原遺跡（第 3 地点）出土遺物	76
第 138 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）の位置	77
第 139 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	77
第 140 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）出土遺物	77
第 141 図	遠台遺跡（第 4 地点）の位置	78
第 142 図	遠台遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置	78



第143図	舟塚古墳（第1地点）の位置	79	第165図	軍民遺跡（第4地点）掘立柱建物柱穴及び土坑（1）	97
第144図	舟塚古墳（第1地点）のトレンチ配置	79	第166図	軍民遺跡（第4地点）第6号土坑（SK06）	98
第145図	田島古墳群（第1地点）の位置	80	第167図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑（SK07）	99
第146図	圓古墳群（第1地点）のトレンチ配置・過構造記入	81	第168図	軍民遺跡（第4地点）第10号土坑（SK10）	100
第147図	田島古墳群（第1地点）出土遺物	82	第169図	軍民遺跡（第4地点）第11号土坑（SK11）	101
第148図	一戦塚遺跡（第1地点 第2次）の位置	83	第170図	軍民遺跡（第4地点）第12号土坑（SK12）	102
第149図	一戦塚遺跡（第1地点 第2次）のトレンチ配置	83	第171図	軍民遺跡（第4地点）第15号土坑（SK15）	103
第150図	息柄台遺跡（第1地点）の位置	84	第172図	軍民遺跡（第4地点）第5号土坑出土遺物	103
第151図	息柄台遺跡（第1地点）のトレンチ配置	84	第173図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（1）	104
第152図	息柄台遺跡（第1地点）出土遺物	84	第174図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（2）	105
第153図	平成20年度追加報告遺跡の位置	85	第175図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（3）	106
第154図	周知外（安楽寺遺跡近接）出土遺物	86	第176図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（4）	107
第155図	葉王院東遺跡（第2地点第2次）出土遺物	87	第177図	軍民遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（5）	108
第156図	平力山窓跡群採集遺物	88	第178図	軍民遺跡（第4地点）第11号土坑出土遺物	109
第157図	中河内遺跡（第3地点）出土遺物	89	第179図	軍民遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（1）	110
第158図	寺内遺跡（第2地点）出土遺物	89	第180図	軍民遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（2）	111
第159図	軍民遺跡（第4地点）の遺構配置	90	第181図	軍民遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（3）	112
第160図	軍民遺跡（第4地点）第1号挖立柱建物（S01）	92	第182図	軍民遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（4）	113
第161図	軍民遺跡（第4地点）掘立柱建物柱穴及びピット	92	第183図	軍民遺跡（第4地点）第15号土坑出土遺物	114
第162図	軍民遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物柱穴及び土坑	94	第184図	軍民遺跡（第4地点）第3・6・10・19・ 20・22・23・26・36号土坑出土遺物	114
第163図	軍民遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡	96	第185図	軍民遺跡（第4地点）出土石器（1）	116
第164図	軍民遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡・ 遺構外出土古代遺物	96	第186図	軍民遺跡（第4地点）出土石器（2）	117

表目次

第1表	開発に伴う試掘・確認調査一覧	1/3	第8表	SB05 柱穴一覧表	91
第2表	個人住宅建築に伴う本发掘調査一覧	4	第9表	SB01 柱穴一覧表	93
第3表	開発に伴う工事立会調査一覧	4	第10表	軍民遺跡（第4地点）縄文時代遺構一覧表	95
第4表	アラヤ遺跡（台波里第59次）検出遺構一覧	63	第11表	土器・陶磁器・瓦觀察表	118/131
第5表	SB02柱穴一覧表	90	第12表	石器觀察表	131
第6表	SB03柱穴一覧表	91	第13表	金属器觀察表	131
第7表	SB04柱穴一覧表	91	第14表	錢貨觀察表	131



第1章 平成21年度の発掘調査と概要

平成21年度の水戸市内遺跡発掘調査は、59遺跡90地点（周知外5地点含む）がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査96件であった。

開発に係わる試掘・確認調査では、24遺跡34地点で遺構が検出され、32遺跡46地点（周知外1地点含む）で遺物が出土した（第1表）。事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、大半は工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは慎重工事の扱いとなり、本発掘調査の実施が必要であると判断されたものは5件であった（第2表）。確認調査のうち、台渡里官衙遺跡（台渡里第54次）の調査成果については、別途刊行している概要報告書（源美・川口 2011）に収録している。

本発掘調査の対象となった5件のうち、堀遺跡（第9地点）については、区画毎に報告すると、全体像が不鮮明になるため、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行を予定している報告書に収録する。

同様に台渡里官衙遺跡（第56次・58次）の調査成果についても、平成20年度に実施した台渡里官衙遺跡（台渡里第41次）調査と同一遺構を地点を追って調査した内容であり、一体的に報告すべき内容であるため、別途刊行する報告書に収録する予定である。

アラヤ遺跡（台渡里第59次）の調査成果については本書に収録した。また、工事立会の扱いとなり、立会調査の際に遺構・遺物が出土した地点が4箇所ある（第3表）。遺構・遺物が検出されなかった遺跡（地点）の位置は第2～5図のとおりである。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積(m ²)	調査担当者	遺構	遺物	契約賃
1	西門小学校遺跡 (第1地点)	西門町1427-1	2月10日	個人住宅建築	4.5	源美賀子	—	—	
2	西門小学校遺跡 (第2地点)	西門町千字東1436-3の一部	3月10日	個人住宅建築	8.64	米川暢哉	—	○	10
3	周知外 (西門小学校遺跡近傍)	西門町1453-2	9月24日	個人住宅建築	6	米川暢哉	—	—	
4	大瀬町遺跡 (第11地点)	元吉町4丁字町2341-13, 2342-8,-13	11月12日	個人住宅建築	27	川口武志・ 源美賀子	○	○	11
5	高人原遺跡 (第2地点)	河和田1丁目1541-2	2月19日	土地調査	9.35	源美賀子	○	○	27
6	井遺跡 (第11地点第1次)	河和田1丁目12430-1, 2432, 2433	6月18日～19日	土地調査	50.25	米川暢哉	○	○	28
7	井遺跡 (第11地点第2次)	河和田1丁目12430-1, 2431, (第12地点)	9月2日	高齢者施設併用住宅	43	米川暢哉	—	○	28
8	小遺跡 (第12地点)	河和田町2507, 2508-1	10月13日	共同住宅建築	24	米川暢哉	—	—	
9	小遺跡 (第13地点)	河和田1丁目1637-1, 1638	2月10日	共同住宅建築	12.8	源美賀子	○	○	30
10	古林遺跡 (第1地点第3次)	見附3丁目1389-1	7月21日	個人住宅建築	6	米川暢哉	○	○	22
11	古林遺跡 (第1地点第4次)	見附3丁目1389-6～10,-15	7月28日～29日	宅地造成工事	36	米川暢哉	○	○	23
12	古林遺跡 (第1地点第5次)	見附3丁目1389-13	10月13日	個人住宅建築	6	米川暢哉	—	—	
13	文京1丁目遺跡 (第1地点)	文京1丁目1898-6外3番	8月26日～27日	土地調査	112	源美賀子・ 米川暢哉	○	○	44
14	内河遺跡 (第1地点)	渡里町3387-50,-131	10月23日	個人住宅建築	5.4	源美賀子	—	○	46
15	内河遺跡 (第2地点)	上国町4丁目4079-2	4月28日	個人住宅建築	8	源美賀子	○	○	65
16	東郷宮地内遺跡 (第2地点)	宮町1丁目6	9月29日	個人住宅建築	6	米川暢哉	—	—	
17	東郷宮地内遺跡 (第3地点)	宮町2-73-1	2月8日	社務所建設	30	岡口慶久	—	—	
18	赤塚遺跡 (第5地点-2次)	河和田3丁目2536	6月16日～18日	市役所建替	274.3	米川暢哉	○	○	32
19	柳河町遺跡 (第1地点)	柳河町381	1月18日	個人住宅建築	6	米川暢哉	—	—	
20	内大野B遺跡 (第1地点)	東大野町大久保前343之3,-4	6月1日	個人住宅建築	10.1	源美賀子・ 米川暢哉	—	—	
21	茨城高等学校遺跡 (第2地点)	八幡町7-7	12月25日	個人住宅建築	3.74	岡口慶久	—	—	



No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (m²)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
22	城跡 (第1地点) [面積約9]	瀬里町字高野町 3309-1	12月 15日	個人住宅建築	11	間口慶久	○	○	
23	城跡 (第2地点) [面積約10]	瀬里町字高野町 3314-5	7月 13日	個人住宅建築	12.5	瀬美賀吉・ 米川暢敬	○	○	
24	城跡 (第3地点) [面積約11]	瀬里町字高野町 3314-4	8月 24日	個人住宅建築	11.75	瀬美賀吉	○	○	
25	城跡 (第4地点)	瀬里町字馬場東 342-2, -3	4月 27日	個人住宅建築	13	瀬美賀吉	○	○	47
26	城跡 (第19地点)	瀬町 235-1, -8	10月 23日	個人住宅建築	12.24	瀬美賀吉	○	○	47
27	城跡 (第20地点)	瀬町字前ノ内 395-1	11月 24日	共同住宅建築	38	間口慶久	—	○	48
28	城跡 (第21地点)	瀬里町字西野町 3228-7, -10, -11	12月 15日	個人住宅建築	10.5	間口慶久・ 米川暢敬	—	—	50
29	下見跡 (第5地点)	萩葉台 4丁目 243-21	4月 21日	宅地造成工事	87.8	間口慶久・ 米川暢敬	—	—	
30	下見跡 (第6地点)	萩葉台 4丁目 243-43, -139	9月 9日	個人住宅建築	11.5	米川暢敬	—	—	
31	内山古墳群 (第10地点)	谷町街 763-3, 773-5	7月 28日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
32	内山古墳群 (第11地点)	酒門町 587.5, 589.4, -6	8月 25日	共同住宅建築	37	米川暢敬	—	○	12
33	内山古墳群 (第12地点)	元吉町 107.1	4月 16日	個人住宅建築	10	瀬美賀吉	—	—	
34	内山古墳群 (第13地点) [次]	元吉町 84-10	8月 12日	宅地造成工事	15	米川暢敬	○	○	13
35	内山古墳群 (第14地点) [次]	元吉町 84-16	10月 30日	個人住宅建築	6	瀬美賀吉	—	—	
36	内山古墳群 (第15地点) [次]	元吉町 84-10, -12, -17	10月 30日	個人住宅建築	6	瀬美賀吉	—	—	
37	内山古墳群 (第16地点)	元吉町 102-1	9月 24日～25日	宅地造成工事	74	米川暢敬	○	○	14
38	福岡古墳群 (第1地点)	米沢町 429-7	4月 16日	個人住宅建築	6	瀬美賀吉	—	○	16
39	福岡古墳群 (第4地点)	米沢町 429-1, -4, -8, -10	6月 9日～10日	共同住宅建築	132.5	米川暢敬	○	—	17
40	福岡古墳群 (第5地点)	米沢町 421-1, -3	6月 8日	個人住宅建築	12.6	米川暢敬	—	○	18
41	福岡古墳群 (第6地点)	米沢町 421-1, -420-5	6月 8日	個人住宅建築	7.92	米川暢敬	—	—	
42	福岡古墳群 (第7地点)	米沢町 421-1, -3, 420-5	6月 8日	個人住宅建築	7.26	米川暢敬	—	—	
43	福岡古墳群 (第8地点)	米沢町上船 420-1	11月 12日	個人住宅建築	28.5	田中武英・ 瀬美賀吉	○	○	19
44	愛宕山古墳群 (第1地点)	愛宕町 2023-1	5月 15日	個人住宅建築	14	米川暢敬	—	—	
45	愛宕山古墳群 (第2地点)	愛宕町 222001, -2	12月 7日	一戸建住宅(賃貸) 建築	6	米川暢敬	—	—	
46	大井古墳群 (第1地点)	御前町 3516.1～3482	9月 10日	狭あい道路整備工事	13	米川暢敬	—	○	66
47	竹原市古墳跡 (台地帯第 54 次)	瀬里町字長者山 3119 番	7月 8日～8月 28日	重直轄地開拓課調査会	189.4	川口武英・ 笠原清志	○	○	
48	河和山古墳 (第11地点)	河和町 486.1, -3, 485.1,- 3, 484.1, -3	5月 18日～20日	宅地造成工事	216	間口慶久・ 米川暢敬	○	○	34
49	河和山古墳 (第12地点)	河和町字平道 3810.4, -5, 3810.4 の一部	5月 19日	個人住宅建築	12.6	瀬美賀吉	—	○	35
50	網野外 (河和山古墳群後接)	河和町 2894.4, -40	9月 7日～8日	桜川公民館建工事	117	米川暢敬	—	—	
51	南仲呼遺跡 (第5地点)	加茂町字元光山 341.6, 340.3	6月 4日	事務所兼工場建設	30	米川暢敬	○	○	42
52	瀬里町古墳群 (第53地点)	瀬里町字前原 2819-1	7月 13日～15日	共同住宅建築	90	瀬美賀吉・ 米川暢敬	○	○	52
53	清水遺跡 (第1地点)	大塚町 2011-2	11月 9日	個人住宅建築	6	間口慶久	—	—	
54	東上院東遺跡 (第2地点) [次]	元吉町字東原 573-2	12月 16日	宅地造成工事	142.5	間口慶久	—	○	20
55	網野外 (二ノ見探古墳群近接)	田野町 1798	6月 29日～7月 1日	墓地造成工事	30.25	米川暢敬・ 瀬美賀吉	—	—	
56	網野外 (二ノ見探古墳群近接)	田野町 1798	3月 24日	墓地造成工事	19	米川暢敬	—	—	
57	北原道路 (第1地点)	中丸町 515-1	8月 19日	携帯電話通信基地設 建設	4	米川暢敬	—	—	
58	奥越証跡群 (第1地点)	元石町 645-6, -3	6月 1日	個人住宅建築	9.75	瀬美賀吉・ 米川暢敬	—	○	21



No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (m ²)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
59	赤堀2丁目	赤堀2丁目 2030-23	8月4日	個人住宅建築	10.95	米川暢敬	—	—	
60	開口宿遺跡	開口町長田1567番の一部	11月9日	個人住宅建築	18	開口慶久	—	—	
61	加賀开原遺跡	加賀町字原1297-2	1月26日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
62	内藤遺跡	見川町 2563-212	7月21日	個人住宅建築	6	米川暢敬	○	—	25
63	内藤遺跡	見川町 2563-373	1月18日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
64	内藤遺跡 (第2地点)	見川町 2570-1, -4	1月21日	宅地分譲	41.25	米川暢敬	○ ○	—	26
65	下人野町西崎群 (第1地点)	下人野町字水走 1923-3, -5	2月24日	障害者介護施設建設	44.6	米川暢敬	—	—	
66	大原平野尾原跡 (第1地点)	飯塚町 3621-4	9月10日	個人住宅建築	6	米川暢敬	○ ○	—	68
67	朝隈塙の遺跡 (第1地点と2次)	大塔町字津井 1756-3, 1757-4, -8	3月8日	個人住宅建築	11.68	米川暢敬	—	—	
68	大塚新鹿越跡 (第10地点)	大塚町 238-1	8月10日	個人住宅建築	10.5	米川暢敬	—	—	
69	小畠遺跡 (第1地点)	元石町 2252-4	7月31日	個人住宅建築	15.6	米川暢敬	—	—	
70	高須遺跡 (第1地点)	大塔町 1101-1	4月2日	個人住宅建築	8.8	瀬美賀吉	— ○	—	76
71	下人野町上山遺跡 (第1地点)	下人野町字富山 2013-1	7月6日～8日	土砂採取	12.5	米川暢敬	○ ○	—	77
72	台廻里(佐倉)遺跡 (台廻里第26次第2次)	廻里町 2873-2 5-8 番	12月4日	商業施設建設	23.76	開口慶久	—	—	
73	台廻里(佐倉)遺跡 (台廻里第52次)	廻里町字今佐 1253-1	4月22日	個人住宅建築	6	瀬美賀吉	—	—	
74	アラヤ遺跡 (台廻里第55次)	廻里町 2953-3	7月16日	個人住宅建築	23	米川暢敬	○ ○	—	55
75	台廻里寺跡 (台廻里第57次)	廻里町字昭和 3001-3, 2998-4	10月23日, 11月17日～18日	個人住宅建築	11.5	瀬美賀吉	— ○	—	56
76	台廻里寺跡 (台廻里第61次)	廻里町字前原 2844-2	1月25日	共同住宅建築	21.75	瀬美賀吉	○ ○	—	64
77	周知外 (竹原町内連接近接)	福岡市立原 1075-11号2番	1月6日	轟音帯状埋蔵文化遺跡	74	米川暢敬	—	—	
78	舟塚跡 (第1地点)	城東 2-8-51 (横川家敷地跡)	6月22日～26日	鶴山古墳群の整備工事に伴う鉱物認証調査	52.5	開口慶久	○ ○	—	69
79	供樂園 (滋賀公園)	御領町 1-5977, 5999	10月27日	現状観察	12.58	開口慶久	— ○	—	74
80	丹下一牧野馬子跡	河和町字 101 無	10月19日～12月2日	宅地造成工事	測量 1.440 試験 12.8	瀬美賀吉	○ ○	—	39
81	通行道跡	杉崎町 221-3	4月10日	個人住宅建築	14	瀬美賀吉	— ○	—	78
82	舟塚古墳跡 (第1地点)	大足町舟塚 1290-2	3月29日	個人住宅建築	10	米川暢敬	— ○	—	79
83	山島古墳群 (第1地点)	三瀬町 982, 大庭町 1526-1, 1508	3月15日～18日	御領町防音木材製	33.4	米川暢敬	○ ○	—	80
84	江川遺跡 (第4地点)	内原町 568-2	7月27日	個人住宅建築	24.75	米川暢敬	—	—	
85	湖加野跡 (第1地点)	三瀬町 436-9, -10	7月22日	個人住宅建築	14	米川暢敬	—	—	
86	三瀬湖跡 (第2地点)	三瀬町 436-6, -7, -12, -13	7月22日	個人住宅建築	9.5	米川暢敬	—	—	
87	一坂厚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町 181-1	4月9日	個人住宅建築	24	瀬美賀吉	○ ○	—	83
88	大城遺跡 (第1地点)	大足町字岡町 1933-1	3月29日	個人住宅建築	6.1	米川暢敬	—	—	
89	周知外 (大城遺跡近接)	大足町 1933-2	9月9日	個人住宅建築	5	米川暢敬	—	—	
90	相崎遺跡 (第2地点)	大足町 522-1	8月24日	店舗建設	9	米川暢敬	—	—	
91	小林遺跡 (第1地点)	小林町 1413-1, 804-2, 1412	2月17日	宅地造成工事	6.8	米川暢敬	—	—	
92	御領東遺跡 (第1地点)	御領町 2745-1	5月15日	個人住宅建築	10.5	米川暢敬	—	—	
93	御領東遺跡 (第2地点)	御領町字三ノ削 2722	1月14日	個人住宅建築	8	米川暢敬	—	—	
94	御領東遺跡 (第1地点)	御領町字一ノ削 1384-3	1月14日	個人住宅建築	10.1	米川暢敬	—	—	
95	御領北遺跡 (第1地点)	御領町 1119-2, 1124	6月4日	個人住宅建築	12	米川暢敬	— ○	—	84
96	後遺跡 (第1地点)	面田町字後 424-1	12月7日	個人住宅建築	9	米川暢敬	—	—	



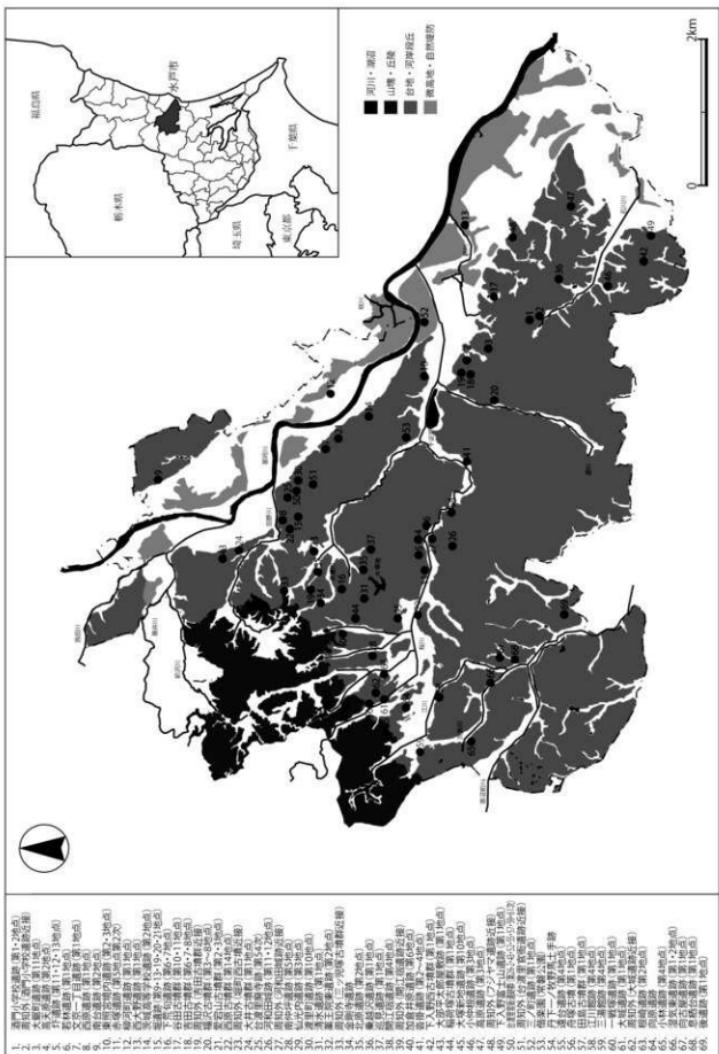
第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積(m ²)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	城跡 (第9地点(西面 No.10))	渡里町字高野台3314-5	7月21日～ 8月21日	136	瀬美賀呂	環立柱建物1(奈良),土坑16 (近世以降),ピット95(古代)	土師器・須恵器(奈良・平安),瓦(古代),土器(近世),瓦質(近世)	—
2	城跡 (第9地点(西面 No.9))	渡里町字高野台3309-1	1月19日～ 3月4日	70.55	米川暢敬	環立柱建物1(古代),火葬墓1(中 世),努力其遺構1(中世),地下式 1(中世),土坑1(中世以降),ピット 123(古代以降),瓦格(中世以降)	土師器・須恵器(奈良・平安), 瓦(古代)	—
3	白渡里貞造跡	渡里町 2771-13	9月15日～ 11月17日	73	米川暢敬	遺跡(ピット1)古墳(圓窓・ピット2) 土器(近世),環立柱建物1(近世・平安)	土師器・須恵器(古墳～奈良・平安), 変化系・鉢形・瓦片(近世・平安)	—
4	白渡里貞造跡 (台地第58次)	渡里町 2771-14	12月11日～ 12月24日	90	米川暢敬	墓1(古墳),ピット11(年代不詳)	土師器・須恵器(古墳～奈良・平安)	—
5	アラヤ遺跡 (台地第59次)	渡里町 2953-1	12月15日～ 1月13日	119.5	瀬美賀呂	遺跡(ピット1)古墳(圓窓・ピット2) 土器(近世),環立柱建物1(近世・平安), 瓦(古代),土器(近世),瓦質(近世)	土師器・須恵器(奈良・平安), 瓦(古代)	58

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積(m ²)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	南台遺跡 (第2地点)	上須町字阿田行 4079-2	記録無	個人住宅・雨水浸透防設置工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
2	赤塚遺跡	河和田3丁目地内 河和田1号線	記録無	公共下水道開通工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
3	赤塚遺跡	河和田3丁目地内 法記外道路	記録無	公共下水道開通工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
4	城跡	船町 872-2号、872-5号 渡里 241・258号線	8月17日	公共下水道開通工事	—	米川暢敬	—	—	—
5	周知外	元赤田町内 市道駒場6号線	5月25日	側溝新設工事	2.9	瀬美賀呂	○	—	15
6	内須古墳群 (第14地点)	西平町字3-338731番 市道駒場33号線	4月1日	道路幅縮・側溝新設工事	3.4	瀬美賀呂	—	○	51
7	周知外 (船町古墳群近傍)	船町地内 市道駒場33号線	2月17日	排水路新設工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
8	仙光内遺跡 (第3地点小・兼2-3点)	飯島町地内	6月23日 7月6日-10日	排水路新設工事	—	瀬美賀呂	○	○	36
9	金剛寺遺跡	湖町地内 上中曾32-33・34号線	記録無	狭い道路拡幅工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
10	周知外 (湖町遺跡発見)	湖町 1186-1番 市道駒場247号線	4月13日	河川排水路新設工事	—	瀬美賀呂	—	—	—
11	周知外 (フジヤマ古墳群近傍)	御殿前 1581-3番 市道駒場7-0058号線	6月5日	側溝新設工事	2	瀬美賀呂	—	—	—
12	白渡里貞造跡 (台地第43次)	渡里町 3009-1	6月11日	個人住宅・淨化槽埋設工事	—	瀬美賀呂・ 米川暢敬	○	○	54
13	台渡里貞造跡	渡里町 2944-3番 市道駒場 282号線	4月15日	公共下水道新設工事	7.5	瀬美賀呂・ 米川暢敬	—	—	—
14	向原遺跡	中郷町地内 市道向原 8-2261号線	3月1日	公共下水道工事	—	瀬美賀呂	—	—	—

第1図 調査対象となつた選跡の位置





第2図 遺構・遺物が検出されなかつた遺跡の位置（1）



愛宕山古墳群（第2・3地点）



清水道跡（第1地点）



周知外（三ツ見塚古墳群近接）



北原道跡（第2地点）



遇見道跡（第1地点）



開江宿道跡（第4地点）
工事立会周知外（開江宿道跡近接）



加倉井原道跡（第6地点）



音掛道跡（第3地点）



下入野西古墳群（第1地点）



稲荷塚古墳群（第1地点第2次）



大塚新地道跡（第10地点）

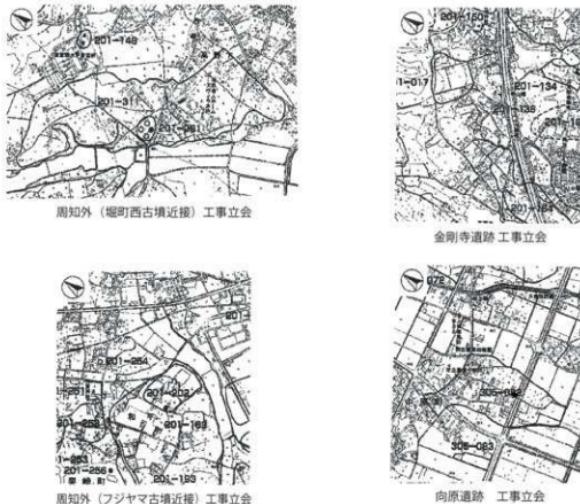


小仲根道跡（第3地点）

第3図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（2）



第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（3）



第5図 遺構・遺物が検出されなかた遺跡の位置（4）

第2章 開発に伴う試掘調査／確認調査／個人住宅建築に伴う本発掘調査

試掘調査 周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を適宜実施した。開発予定地内に数m²の大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）もしくは人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構か否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を適宜設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げた。

確認調査 重要遺跡の範囲・内容確認や整備等の保存を目的として実施するもので、数m²の大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）もしくは人力により、遺構確認面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構の性格や時期を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた。遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、必要最小限を取り上げた。

個人住宅建築に伴う本発掘調査 個人住宅建築に伴う試掘調査の結果と開発内容を照合し、記録保存が必要と判断された場合に、掘削により影響の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機（バックホウ）により、関東ローム層上面まで表土を除去し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は表土一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げた。



第1節 酒門地区

2-1-1 酒門小学校遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市酒門町字千束 1436-3 の一部
 開発面積 265.79 m²
 調査期間 平成 22 年 3 月 10 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを 2 箇所設定し（第7図）、関東ローム層上面を目指に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 2 m × 3 m。地表下 85cm で、本来ソフトローム層の下位にて確認されるはずのハードローム層に到達した。遺構・遺物は確認されなかつた。

トレンチ 2 1.2m × 2.2m。地表下 25cm で、トレンチ 1 と同様、本来ソフトローム層の下位にて確認されるはずのハードローム層が検出された。遺構・遺物は確認されなかつた。（米川）

（2）出土遺物

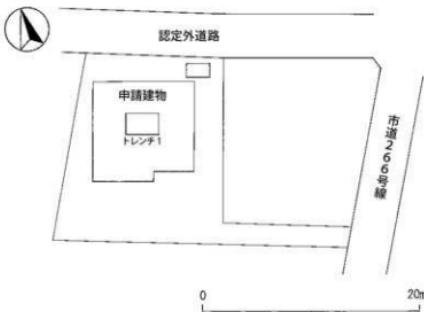
第8図-1 は寛永通報（新寛永）であり、トレンチ以外からの出土である。（坂本）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

調査区壁面の観察から、確認されたローム層の直上は全て宅地造成時の盛土であり、この造成は相応の切土を伴うものであったと判断される。これにより、当該地点に関しては、往時の生活面は残存していないものと判断された。のことから、今般の土木工事については、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第6図 酒門小学校遺跡（第2地点）の位置



第7図 酒門小学校遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第8図 酒門小学校遺跡（第2地点）出土遺物



2-1-2 大鋸町遺跡（第11地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市元吉田町字孤塚 2341-13, 2342-8, -13

開発面積 291.18 m²

調査期間 平成 21 年 11 月 12 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分にトレチを 2 箇所設定し（第7図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレチの概要

トレチ 1 11 m × 1.5 m。地表下 90cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、古墳時代中期後葉～後期初頭頃の竪穴住居跡 1 軒（SI01）および古代以降の所産とみられる溝 1 条（SD01）が検出された。遺物は竪穴住居跡の覆土上層から土師器の环および甕が、トレチ内の構造確認面から近世以降とみられる土師質土器の擂り鉢片、カフラケ片が出土した。

トレチ 2 6 m × 1.5 m。地表下 75cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、近現代の植栽痕とみられるブラン 2 基が確認されたが、近世以前に遡る遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の須恵器・土師器片が少量出土した。（川口・渥美）

（2）出土遺物

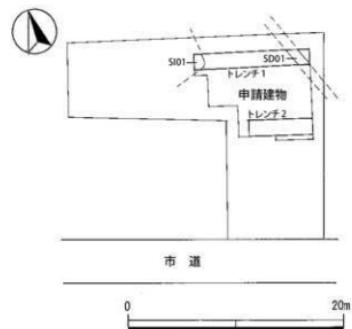
第 11 図-1 は縄文土器である。波状貝殻文が施され、時期は縄文時代前期後半「浮島式」に位置付けられる。2 は SI01 出土の土師器環である。時期は 6 世紀に位置づけられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

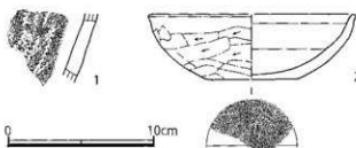
30cm 以上の保護層は確保できるものの、基礎工事の際の掘削が部分的に保護層に及ぶ可能性があることから、工事立会が相当であるとした。（川口・渥美）



第 9 図 大鋸町跡（第 11 地点）の位置



第 10 図 大鋸町跡（第 11 地点）のトレチ配置



第 11 図 大鋸町跡（第 11 地点）出土遺物



2-1-3 谷田古墳群（第11地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市酒門町 587-5, 589-4, -6

開発面積 999 m²

調査期間 平成21年8月25日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 谷田古墳群は、那珂川南岸に位置する谷田台地の先端部から800mほど奥まった地点、標高28~29mの平坦な台地上に立地する。現況は畠地及び山林であり、その中に古墳が散在している。当該古墳群内には、古墳時代前期の集落跡である町付遺跡が存在しており、その範囲を重複している。なお本調査地点は、調査時においては谷田古墳群の包蔵地内であったが、平成24年度実施の水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図改訂の後、町付遺跡の包蔵地内に位置付けられた。掲載している位置図（第12図）は改訂後の遺跡地図である。今般の調査は、開発対象地のうち浄化構造設置部分および申請建物部分にトレンチを2箇所設定し（第12図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削を行った。（米川）

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×5m。掘削深度1.3~1.4mの時点で湧水を確認したため、トレンチの北西・南西にテストピットを設け、下層で状況を確認したところ、遺構確認面への到達前に著しい湧水を確認したため、この深度を以ってそれ以上の調査は続行不可と判断した。この湧水は西側に隣接する水田に起因するものと判断される。旧耕作土中からは古墳時代前期の土師器片が数点出土した。

トレンチ2 1.5m×18m。地表下35cm（西端）~1.2m（東端）で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、耕作に係わる擾乱が所々に入っているのみで、遺構・遺物は確認されなかった。（米川）

（2）出土遺物

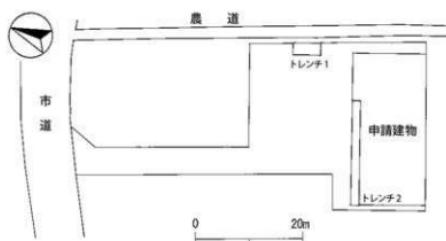
第14図は、土師器の甕である。4世紀後半のものと考えられる。（坂本）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構は確認されず、また調査結果から当該地点は東に向かって下る谷地形であったことが推量され、地形的な制約から土地利用は希薄であったと判断されることから、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第12図 谷田古墳群（第11地点）の位置



第13図 谷田古墳群（第11地点）のトレンチ配置



第14図 谷田古墳群（第11地点）出土遺物



2-1-4 吉田古墳群（第7地点第1次～3次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市元吉田町84-10

開発面積 536.79 m²

調査期間 平成21年8月12日（第1次）

平成21年10月30日（第2・3次）

調査原因 宅地造成工事・個人住宅建築

調査担当 米川暢暉（第1次）

渥美賢吾（第2・3次）

調査概要 本地点では宅地造成工事に基づく第1次調査、個人住宅建築に基づく第2・3次調査と、計3度にわたる調査が行われた。開発対象地のうち、路地状敷地離散部分にトレーニチ1を、宅地予定地内の各申請建物部分にトレーニチ2・3を設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第16図）。

（1）トレーニチの概要

トレーニチ1 1.5m × 10m。地表下90cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、L字状の溝跡1条（SD01）とピット2基（P1・P2）が確認された。遺物はSD01の覆土上層から須恵器片が出土した。（米川）

トレーニチ2 1.5m × 4m。地表下1.5mで遺構確認面と考えられる暗褐色土に到達した。精査の結果、遺構・遺物とともに確認されなかったため、さらに20cm掘り下げたが、遺構・遺物とともに確認されなかつた。

トレーニチ3 1.5m × 4m。地表下1.5mで遺構確認面と考えられる暗褐色土に到達した。精査の結果、遺構・遺物とともに、確認されなかつた。（渥美）

（2）出土遺物

第17図-1～4はSD01出土の弥生土器である。弥生時代後期後半「十王台式」に位置付けられる。5は須恵器の短頭瓶である。時期は9世紀前半で、木葉下座である。（色川）

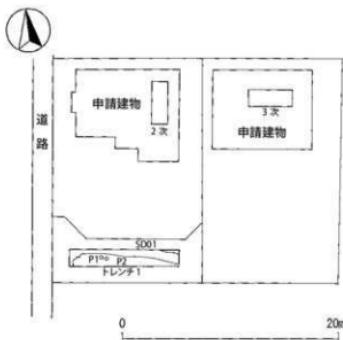
（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

第1次 遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）

第2・3次 遺構・遺物ともに確認されなかつたことから、慎重工事が相当であるとした。（渥美）



第15図 吉田古墳群（第7地点第1～3次）の位置



第16図 吉田古墳群（第7地点第1～3次）のトレーニチ配置

（色川）



第17図 吉田古墳群（第7地点第1次）出土遺物



2-1-5 吉田古墳群（第8地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市元吉田町102-1

開発面積 2,327.57 m²

調査期間 平成21年9月24～25日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し（第19図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1m×25m。地表下15cmで遺構確認面に到達した。

トレンチ南部にて遺構を確認し、性格・帰属年代解明のためトレンチの拡張、遺構の一部掘り込みを実施したところ、須恵器壺が出土し、当該遺構が8世紀後半（奈良時代）の堅穴住居であることが判明した。

トレンチ2 1m×9m。地表下15cmで遺構確認面に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 1m×12m。地表下20cmで遺構確認面に到達し、ピット1基が検出されたが、遺物は確認されなかった。

トレンチ4 1m×10m。地表下15cmで遺構確認面に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 1m×14m。地表下30cmで遺構確認面に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。
(米川)

（2）出土遺物

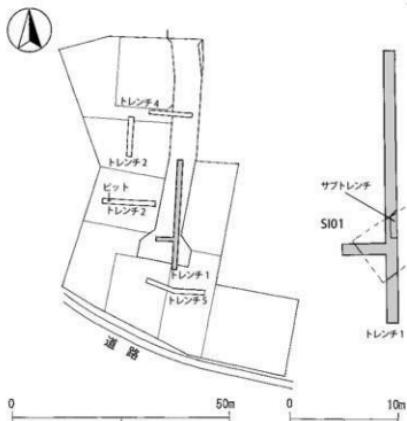
第20図1～5はSI01出土の須恵器である。1～4は無台环、5は蓋である。すべて8世紀後半に位置付けられる。
(坂本)

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

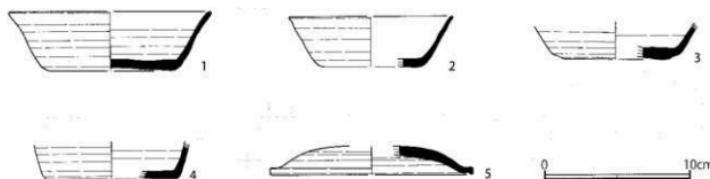
埋蔵文化財が確認され、計画の見直しを図ることとなったため届出は取り下げられた。
(米川)



第18図 吉田古墳群（第8地点）の位置



第19図 吉田古墳群（第8地点）のトレンチ配置・遺構検出状況



第20図 吉田古墳群（第8地点）出土遺物

2-1-6 周知外（吉田古墳群近接）

調査種別 工事立会調査

所 在 地 水戸市元吉田町智内 市道駅南6号線

開発面積 2.9 m²

調査期間 平成21年5月25日

調査原因 側溝新設工事

調査担当 源美賀吾

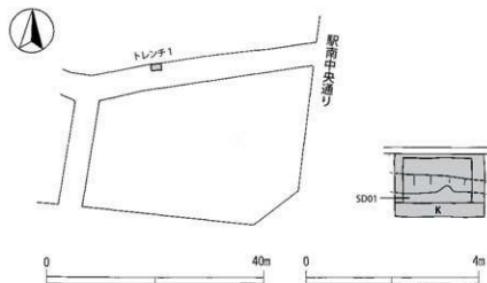
調査概要 今般の土木工事は側溝新設工事である。工事に先立って1.45m×2.0mのトレーニングを設定し（第22図）、掘削を行った。地表下50cmで遺構確認たる関東ローム層上面が確認された。工事立会の結果、溝状遺構（SD01）が55～65cmの幅でトレーニングに並行して確認された。

溝自体は既設の水道管によって搅乱を受けており、溝の実際の幅はさらに広い。溝の深さは確認されたところで30cmを測る。覆土中から近世

の在地系土器の細片と思しきものが僅かに出土した。また覆土の状況は、ほぼ単一の土層をなすことから、その時期は中世以前に遡る可能性は少ないと判断される。（源美）



第21図 周知外（吉田古墳群近接）の位置



第22図 周知外（吉田古墳群近接）のトレーニング配置・遺構検出状況

2-1-7 福沢古墳群（第3地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市米沢町 429-7

開発面積 330.44 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 16 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 源美賢吾

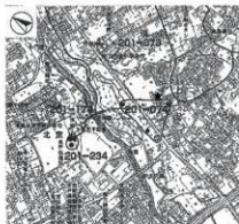
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを 1箇所設定し（第24図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

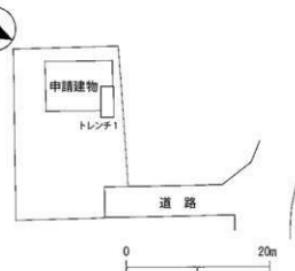
トレンチ 1 1.5 m × 4 m。地表下 80cm で関東ローム層上面が、その直上には 30cm ほどの暗褐色土層とローム層の間の漸移層が検出された。1 層ごとに精査して埋蔵文化財の有無を確認したが、トレンチ南側で確認された自然の落ち込みに被覆した黒褐色土層中から土師器の細片 1 点が出土したほかは、遺構・遺物は確認されることなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。
(源美)



第23図 福沢古墳群（第3地点）の位置



第24図 福沢古墳群（第3地点）のトレンチ配置



2-1-8 福沢古墳群（第4地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市米沢町 429-1, 4, 8, 10

開発面積 2,673 m²

調査期間 平成21年6月9日～10日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレチを2箇所設定し（第26図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削を行った。

（1）トレチの概要

トレチ1 2.5m×45m。地表下80cmで関東ローム層に到達し、検出作業を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

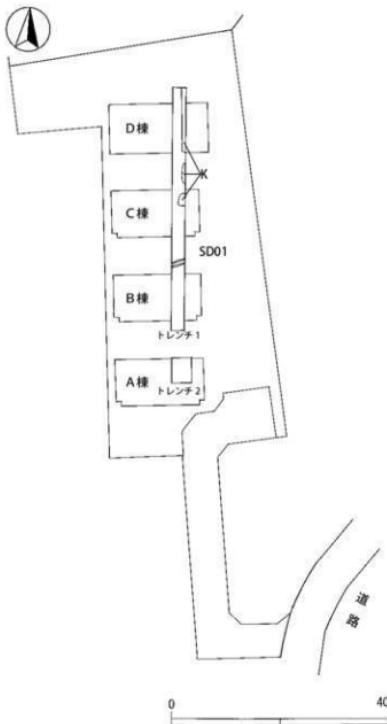
トレチ2 4m×5m。地表下90cmで関東ローム層に到達し、検出作業を行った。溝跡1条（SD01）が確認されたが、それに伴う遺物の出土はなかった。SD01は、覆土の状況から近世以降の根切り溝と考えられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

確認された遺構は近世以降の根切り溝と判断され埋蔵文化財との認定が困難であること、また30cm以上の保護層が確保できることから、給排水管敷設部分については工事立会、そのほかの部分については慎重工事が相当であるとした。（米川）



第25図 福沢古墳群（第4地点）の位置



第26図 福沢古墳群（第4地点）のトレチ配置

2-1-9 福沢古墳群（第5地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市米沢町 421-1, 3

開発面積 210.03 m²

調査期間 平成21年6月8日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第27図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

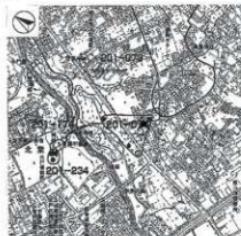
トレンチ1 3m×4.2m。地表下1.0mで関東ローム層に到達し、検出作業を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。（米川）

（2）出土遺物

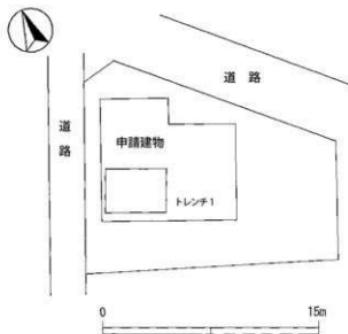
第29図は盛土中から出土した遺物である。1は磁器の碗である。18世紀以降の肥前産である。2は磁器の急須の蓋である。時期は1870年代以降とされる。3はかわらけで、時期は中・近世である。（坂本）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

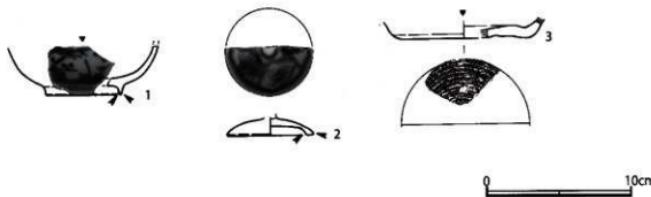
遺構及びそれに伴う遺物は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第27図 福沢古墳群（第5地点）の位置



第28図 福沢古墳群（第5地点）のトレンチ配置



第29図 福沢古墳群（第5地点）出土遺物

2-1-10 福沢古墳群（第8地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市米沢町 420-1

開発面積 443.75 m²

調査期間 平成21年11月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・源美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーナーを2箇所設定し（第30図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーナーの概要

トレーナー1 9.5 m × 1.5 m。地表下80cmで関東ローム層上面が確認されるとともに、近世以降の鉄と見られる溝が検出された。遺物は出土しなかった。

トレーナー2 9.5 m × 1.5 m。地表下1.0 mで関東ローム層上面が確認されるとともに、トレーナー1で確認された近世以降の鉄の延長部分が検出された。遺物は、縄文時代の堆積層中から縄文時代前期の土器片が1点出土した。

（渥美）

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

当該古墳群ではこれまで7地点において試掘・確認調査が行われているが、遺物は数地点で確認されているものの、古墳群に伴う遺構は確認されていない。本地点では縄文土器片が1点出土したものの、近世以前に遡る遺構は確認されていない。のことから、土地利用の希薄な空間であったと考えられ、今般の土木工事については慎重工事が相当であるとした。

（川口） 第31図 福沢古墳群（第8地点）のトレーナー配置



第30図 福沢古墳群（第8地点）の位置



第31図 福沢古墳群（第8地点）のトレーナー配置



2-1-11 薬王院東遺跡（第2地点第3次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市元古田町字東組 573-2

開発面積 1,437.88 m²

調査期間 平成 21 年 12 月 16 日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久

調査概要 本地点は平成 21 年 1 月に試掘調査を実施しており（第2次調査）、弥生時代後期の住居址と奈良・平安時代の住居址がトレンチ 2 より検出されている。今般の調査は第2次調査の結果を踏まえ、埋蔵文化財に影響が及ぼないように検討された造成計画に基づく、再試掘調査である。調査は道路敷設予定部分にトレンチを 2 本設置し（トレンチ 3・4）、



第33図 薬王院東遺跡（第2地点第3次）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ 3 1 m × 30 m。地表下 60 cm で関東ローム層が確認された。確認面は擾乱が著しく、奈良・平安時代の土器片が確認されたものの、遺構は確認されなかった。

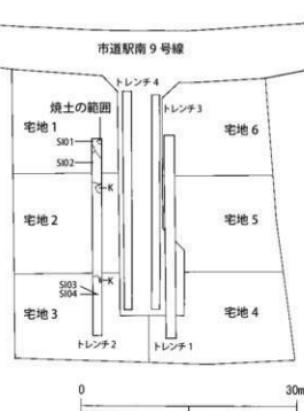
トレンチ 4 1 m × 30 m。地表下 60 cm で関東ローム層が確認された。確認面は擾乱が著しく、奈良・平安時代の土器片が確認されたものの、遺構は確認されなかった。（関口）

（2）出土遺物

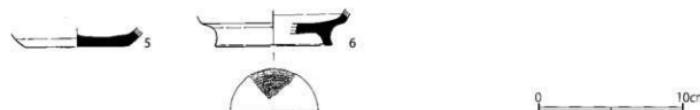
第34図-1・2は弥生土器である。時期は弥生時代後期後半である。3は土師器の环、時期は6世紀である。4は土師器の瓶、時期は古墳時代後期である。5・6は須恵器である。時期は8世紀後半～9世紀前半である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

第2次調査トレンチ 2 で遺構が確認されたことから、今般の土木工事については、宅地 1～3 部分は雨水貯留槽及び排水管設置の際の工事立会が相当であるとした。その他の部分については、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第33図 薬王院東遺跡（第2地点第3次）のトレンチ配置



第34図 薬王院東遺跡（第2地点第3次）出土遺物

2-1-12 乗越沢遺跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市元石川町 654-6,3

開発面積 440.64 m²

調査期間 平成 21 年 6 月 1 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 涼美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーナーを 1 箇所設定し（第 36 図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーナーの概要

トレーナー 1 1.5 m × 6.5 m。地表下 1.0 m で遺構確認面が検出された。遺構・遺物は確認されなかつた。（米川）

（2）出土遺物

調査地点において遺物は確認されなかつたが、周辺の畑地で土師器片や須恵器片が採集された。

第 37 図-1 は須恵器の有台环で、時期は 9 世紀に位置付けられる。2 は瓦質土器で火鉢と考えられる。時期は近世以降とを考えられる。（涼美）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

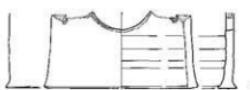
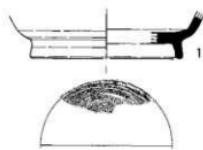
遺構・遺物ともに確認されなかつたことから、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第 35 図 乗越沢遺跡（第 1 地点）の位置



第 36 図 乗越沢遺跡（第 1 地点）のトレーナー配置



第 37 図 乗越沢遺跡（第 1 地点）出土遺物



第2節 緑岡地区

2-2-1 若林遺跡（第1地点第3次）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市見和3丁目1389-1

開発面積 214.38 m²

調査期間 平成21年7月21日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレントを1箇所設定し（第39図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレントの概要

トレント1 2m×3m。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑2基

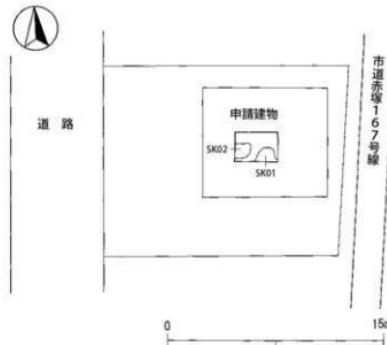
（SK01・02）が検出された。帰属年代確定のため、SK01においてサブトレントを設定し掘り込みを行ったところ、覆土から縄文土器片が出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）



第38図 若林遺跡（第1地点第3次）の位置



第39図 若林遺跡（第1地点第3次）のトレント配置



2-2-2 若林遺跡（第1地点第4次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市見和3丁目 1389-6～-10, 15

開発面積 1,313.45 m²

調査期間 平成21年7月28～29日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 本地点のうち、私道敷設部分においては平成20年度に試掘調査および本発掘調査が実施され、縄文時代中期の住居跡および土坑群、中世の地下式塙、掘立柱跡等が検出されている（第1・2次調査）。今般の調査では、開発対象地のうち宅地部分にトレンチを6箇所設定し（第41図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×3m。地表下75cmで遺構確認面（関東ローム層）に到達し、土坑3基（SK01～03）が検出された。帰属年代特定のため、SK01に対し掘り込みを行ったところ、縄文土器片が出土した。

トレンチ2 2m×3m。地表下65cmで遺構確認面に到達した。竪穴住居跡1軒（SI01）、土坑1基（SK04）が検出された。SI01に対し、サブトレンチを設定し掘り込みを行ったところ、主柱穴を1基（P1）と硬化面を確認したが、遺構の覆土からは縄文土器片が少量出土するに留まった。

トレンチ3 2m×3m。

地表下75cmで遺構確認面に到達し、土坑4基（SK05～08）が検出された。旧耕作土から多量の縄文土器片が出土した。

トレンチ4 2m×3m。

地表下70cmで遺構確認面に到達し、土坑1基（SK09）、ピット1基（P2）が検出された。

トレンチ5 2m×3m。

地表下85cmで遺構確認面に到達したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ6 2m×3m。

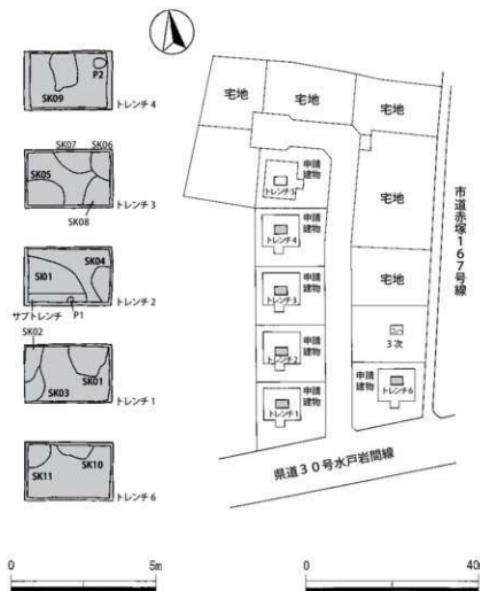
地表下65cmで遺構確認面に到達し、土坑2基（SK10・11）が検出された。

（2）出土遺物

第42図-1はSK01出土、2～9はトレンチ出土の縄文土器である。1～4は隆起線文が施されている。5は沈線文、6は隆起線文と沈線文、



第40図 若林遺跡（第1地点第4次）の位置



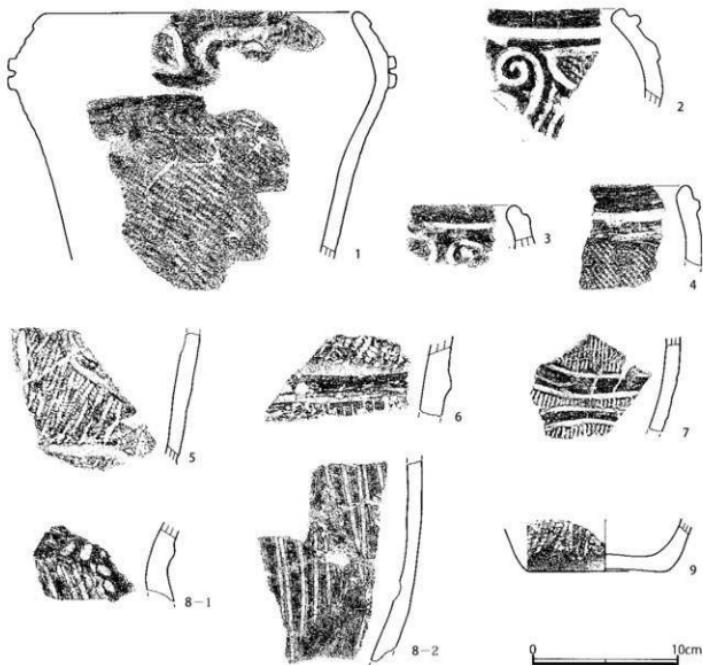
第41図 若林遺跡（第1地点第4次）のトレンチ配置・遺構検出状況



7は沈線文と燃糸文が施されている。8は隆起線文とあわせて棒状工具による刻み、沈線文が施されている。9は沈線文が施され、内面には炭化物が付着している。時期はすべて縄文時代中期である。
(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

全区画中、21年度の届出は1区画のみ（トレンチ4設定箇所）であった。遺構・遺物は確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。
(米川)



第42図 若林遺跡（第1地点第4次）出土遺物



2-2-3 痕掛遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市見川町 2563-212

開発面積 330.57 m²

調査期間 平成 21 年 7 月 21 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーナーを 1箇所設定し（第43図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーナーの概要

トレーナー 1 2 m × 3 m。地表下 70cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑 2 基（SK01・

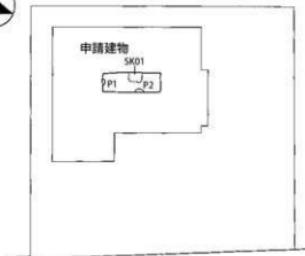
02）が検出された。帰属年代確定のため、SK01においてサブトレーナーを設定し掘り込みを行ったところ、覆土から縄文土器片が出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、30cm 以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）



第43図 痕掛遺跡（第2地点）の位置



市道見川102号線



第44図 痕掛遺跡（第2地点）のトレーナー配置

2-2-4 考古遺跡（第4地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市見川町 2570-1,4

開発面積 688 m²

調査期間 平成 22 年 1 月 21 日

調査原因 宅地分譲

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを 4箇所設定し（第46図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 2 m × 6 m。地表下 55cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑 2 基（SK01・02）、性格不明遺構（SX01）が検出された。SK01 に対して一部掘り込みを実施したが、覆土上層から土器片と判断される土器片が出土したのみで、年代等の確定には至らなかった。

トレンチ 2 1.5 m × 7 m。地表下 85cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、ピット 3 基（P1・2・3）、竪穴住居跡と考えられるプラン（SI01）が検出された。3 基のピットは直線的に並んでおり、掘立柱建物跡である可能性がある。遺物は出土しなかった。

トレンチ 3 1.5 m × 6.5 m。地表下 65cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ 4 1.5 m × 6 m。地表下 30cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。
(米川)

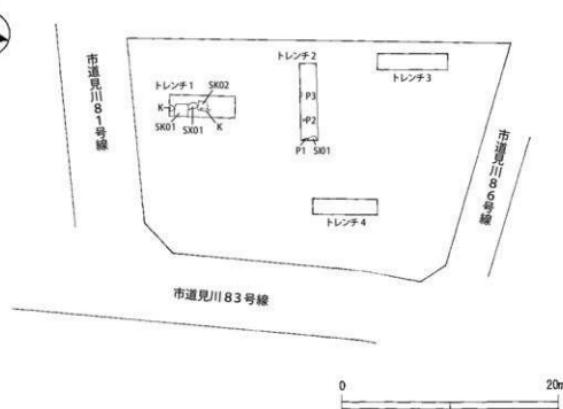
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

今般の土木工事は伐採・伐根工事を伴うものであると同時に、現状で生育している樹木は大変大きなものが多く、その根は相当の深度まで達していると十分に予測されることから、事業主との協議を経てもなお埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断された。よって、遺構が検出されている西側部分（開発地のうち西側 2/3 部分）については、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。遺構が検出されていない東側部分（開発地のうち東側 1/3 部分）については、工事立会が相当であるとした。

(米川)



第45図 考古遺跡（第4地点）の位置



第46図 考古遺跡（第4地点）のトレンチ配置・遺構検出状況



第3節 赤塚地区

2-3-1 高天原遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市河和田1丁目1541-2

開発面積 196 m²

調査期間 平成22年2月19日

調査原因 土地調査

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレントを1箇所設定し（第48図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレントの概要

トレント1 1.7 m × 5.5 m。掘削の結果、深さ1.0 mにわたりて大きく搅乱を受けており、ブロック断片や原付バイクの部品等の現代ごみが混入していた。地表下50～70cm程度のところが本来の遺構確認たる関東ローム層上面とみられるが、今般の試掘トレント内では、おおむね1.0 m程度掘削を行わない視認できない状況であった。ゴミ穴による搅乱は、トレントの東半部でより深く入り込み、西半部ではやや浅い。トレント東半部において、二つの大きく深いゴミ穴により一部破壊されているものの、黒褐色土により埋没した埋蔵文化財を確認した。その性格について詳細は不明であるが、検出の状況から考えて、溝状遺構である可能性が高い（SX01）。なお検出を確認した面より、数点の土師器片の出土が確認された。外面にハケメ痕がみられることから、遺構・遺物ともに古墳時代前期のものであることが判明した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認され、計画の見直しを図ることとなつたため届出は取り下げられた。

（濱美）



第47図 高天原遺跡（第2地点）の位置



0 20m

第48図 高天原遺跡（第2地点）のトレント配置

2-3-2 坑遺跡（第11地点第1・2次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市河和田1丁目 2430-1,2431,2432,2433,2435

開発面積 1,241.03 m²

調査期間 平成21年6月18日～19日（第1次）

平成21年9月2日（第2次）

調査原因 土地調査（第1次）

高齢者専用賃貸住宅建設（第2次）

調査担当 米川暢敬

調査概要 第1次調査の段階では開発目的が未定であったため、対象地内中央やや東によりトレンチを1箇所設定した（1次トレンチ1）。その後開発計画が定まり、第2次調査として防火水槽および消化水槽埋設予定地にトレンチを2箇所設定した（2次トレンチ1・2）（第50図）。調査は、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

（1）トレンチの概要

1次トレンチ1 2.5 m × 12 m, 1.5 m × 9 m, 1.5 m × 4.5 mでクラーク状に設定した。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。トレンチ南部で土坑状遺構が1基検出され、覆土からは縄文土器片が出土した。旧耕作土中からは縄文土器片が出土した。

2次トレンチ1 4 m × 7 m, 地表下40cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。抜根による擾乱が確認されたのみで、遺構・遺物は確認されなかった。

2次トレンチ2 3 m × 5 m, 地表下60cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。抜根による擾乱、ゴミ穴が確認されたのみで、遺構・遺物は確認されなかった。（米川）

（2）出土遺物

第51図-1～7は1次調査の旧耕作土中や2次調査時に表採された等のものである。1～3は縄文土器である。時期は縄文時代中期である。4は近代の焼結陶器である。5は焼結陶器の證明受皿である。18世紀後半以降の在地産である。6は近世～近代の棧瓦である。7は粘板岩製の砥石である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

申請建物部分では遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保可能であり、また防火水槽および消化水槽埋設予定地では遺構・遺物とともに確認されていないことから、今般の工事に際しては工事立会が相当であるとした。（米川）



第49図 坑遺跡（第11地点第1・2次）の位置



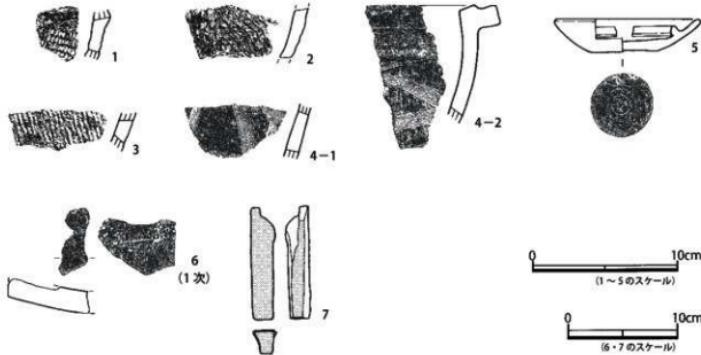
市道147号線



0 20m

第50図 坑遺跡（第11地点第1・2次）のトレンチ配置

申請建物部分では遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保可能であり、また防火水槽および消化水槽埋設予定地では遺構・遺物とともに確認されていないことから、今般の工事に際しては工事立会が相当であるとした。（米川）



第51図 坪遺跡（第11地点第1・2次）出土遺物



2-3-3 坑遺跡（第13地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市河和田1丁目 1637-1,1638

開発面積 644.89 m²

調査期間 平成22年2月10日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 源美賀吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーナーを1箇所設定し（第52図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーナーの概要

トレーナー1 2m × 6.4m。遺構確認面たる関東ローム層上面は、最も浅い西側のところで地表下55cm、最も深い東側のところで地表下90cmを測る。旧地形は西から東へ緩やかに傾斜して低くなっている。

西側では、4つの搅乱が切り合って認められ、トレーナー中央から東にかけて土坑3基（SK01～03）と溝状遺構1条が確認された。土坑の確認面において縄文土器深鉢口縁部片と被燃した拳大の礫が出土した。土坑の覆土は比較的明るい褐色であり、これまでの調査成果と対比して、縄文時代中後期の遺構であると判断される。溝状遺構はこれら土坑群を切っており、覆土は暗い暗褐色を呈している。土坑群より時期は新しいと判断されるが、特定するには至らなかった。

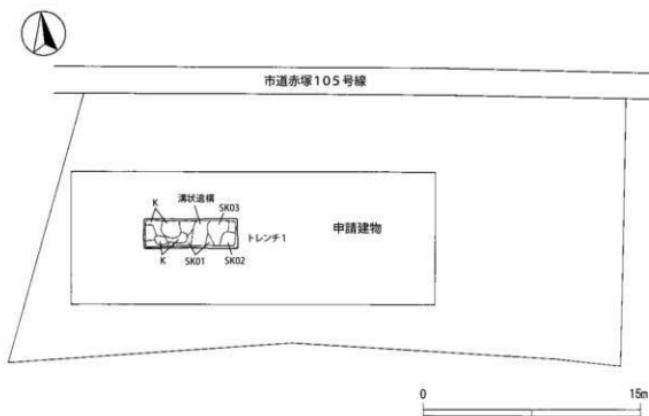
関東ローム層の堆積が示すように、当該地点周辺は、西から東へと緩やかに傾斜しており、この傾斜地に土坑群は営まれている。こうした知見から、おそらく当該地点は縄文時代集落の外縁部に位置するものと考えられる。

（2）出土遺物

第54図-1は内耳銅である。時期は15世紀後半～16世紀である。2は敲石・磨石で、石材は安山岩である。時期は縄文時代である。



第52図 坑遺跡（第13地点）の位置



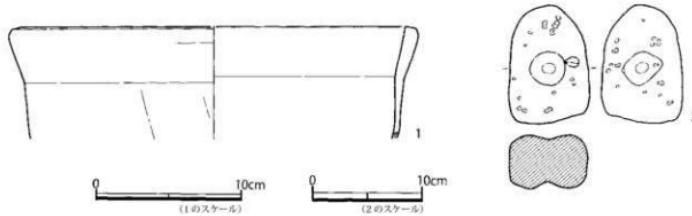
第53図 坑遺跡（第13地点）のトレーナー配置



(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、事業者との協議の結果、現状から 10cm の盛土を行うことで 30cm 以上の保護層が確保できることとなった。よって工事立会が相当であるとした。

(源美)



第 54 図 坯遺跡（第 13 地点）出土遺物



2-3-4 赤塚遺跡（第5地点第2次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市河和田3丁目2536

開発面積 3,200 m²

調査期間 平成21年6月16日～18日

調査原因 市営住宅建替工事

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地にトレンチを6箇所設定し（第56図），関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×22.5m。地表下90cmで造構確認面である関東ローム層に到達し，溝跡1条（SD01），溝状造構1条（SD02），土坑状造構1基（SK01）が検出された。トレンチ中央部，東部で南方に向に拡張を行い，SD01については，南北方向に直線的に延びることが確認された。

トレンチ2 2m×16m。地表下85cmで関東ローム層に到達した。精査を行ったが，造構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ3 1.5m×16m。地表下85cmで関東ローム層が確認された。調査区西端，東端にて溝跡2条（SD03，04），中央南端にて土坑状造構（SK02），ピット3基が確認された。トレンチ東端のSD03については北側に拡張を行い，西へ曲がることが確認され，覆土からはかわらけ片が出土した。検出された溝跡は何らかの区画として機能していた溝とも考えられよう。

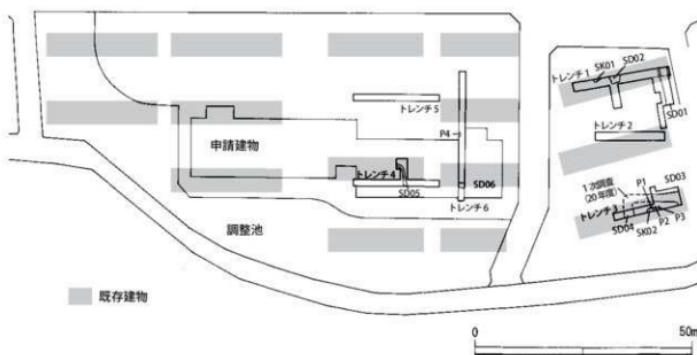
トレンチ4 1.5m×20m。地表下60cmで関東ローム層が確認され，調査区中央で南北方向の溝跡1条（SD05）が検出された。北方向に拡張した結果，西へ曲がることが確認された。トレンチ3で検出された溝跡同様，SD05



第55図 赤塚遺跡（第5地点第2次）の位置



市道河和田27号



第56図 赤塚遺跡（第5地点第2次）のトレンチ配置





も区画として機能していた溝と考えることができよう。

トレンチ5 1.5 m × 20 m。地表下20cmで関東ローム層が確認され、精査を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

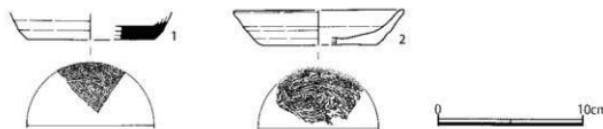
トレンチ6 1.5 m × 30 m。トレンチ北端で地表下15cm、南端で地表下70cmで関東ローム層が確認された。精査の結果、溝跡1条（SD06）、ピット1基（P4）が検出された。SD06からはかわらけ片が出土した。（米川）

(2) 出土遺物

第57図-1は須恵器の环である。2は中～近世のかわらけである。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

事業課との協議の結果、開発計画変更は困難であり、埋蔵文化財への影響が避けられないことから、今般の開発地のうち南部に位置する調整池建設予定地については、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。そのほかの土木工事については、工事立会が相当であるとした。なお、記録保存を目的とした本発掘調査については、発掘調査報告書を刊行済みである（高野・米川 2011b）。（米川）



第57図 赤塚遺跡（第5地点第2次）出土遺物



2-3-5 河和田城跡（第11地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市河和田町 486-1, 3,485-1,484-1,3

開発面積 1,916.59 m²

調査期間 平成 21年 5月 18日～20日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、私道敷設部分にトレンチ1、宅地造成部分にトレンチ2を設定し（第59図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 72 m。地表下70～80cmで関東ローム層が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

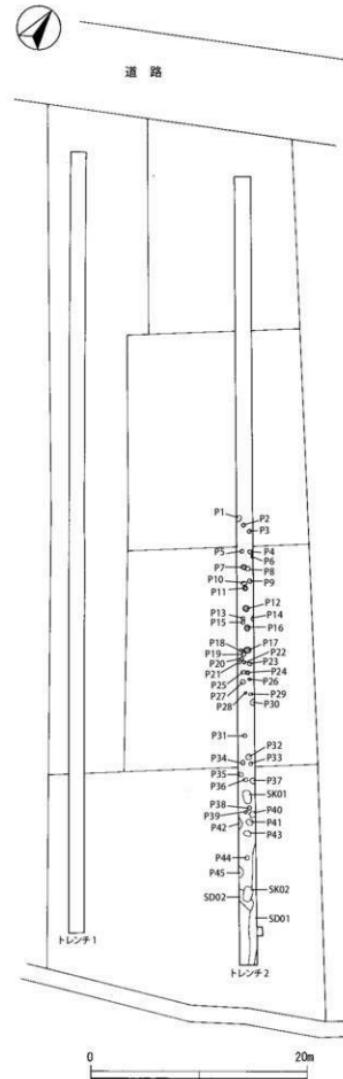
トレンチ2 1.5 m × 72 m。地表下60～80cmで関東ローム層が確認された。遺構は、トレンチ南半でピット群（P1～45）、土坑2基（SK01・02）、溝状遺構2条（SD01・02）が検出された。有意な配列を示すピットとしてはP7・11・12・16・17・24の6基が挙げられ、これらは約2mの間隔で直線的に並び建物跡である可能性が考えられる。遺物はP12覆土から鉄釘、SD01覆土から内耳土器片が出土した。出土遺物から、ピット列は近世、溝状遺構は中世に属するものと考えられよう。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

私道敷設部分で遺構・遺物が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できることから、今般の土木工事については工事立会が相当であるとした。宅地部分については、新たな開発を行う際には文化財保護法第93条第1項の規定に基づき埋蔵文化財発掘の届出が必要とした。
(米川)



第58図 河和田城跡（第11地点）の位置



第59図 河和田城跡（第11地点）のトレンチ配置



2-3-6 河和田城跡（第12地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市河和田町字中道 3810-1,4 の一部、5

開発面積 685.32 m²

調査期間 平成22年2月19日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 源美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽施設埋設部分および申請建物東にトレンチを2箇所設定し（第61図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 6.4 m。地表下40cmで関東ローム層が確認された。擾乱が2箇所で認められたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器細片が1点出土した。

トレンチ2 1m × 3m。地表下95cmで関東ローム層の確認ができた。表土層20cmの直下は、約75cm厚で工業用廃土の堆積が確認された。本来は地表下40～50cm程度のところに遺構確認面があったと推測される。遺構・遺物は確認されなかった。

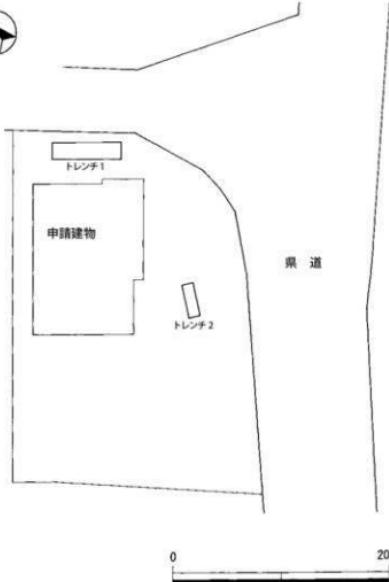
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

設計計画では現地表から30cmの盛土が行われることから、トレンチ1の調査結果から鑑みても申請建物部分については30cm以上の保護層が確保可能である。またトレンチ2の成果から、大きく深い工業廃土を含む擾乱が申請建物直下へ広がっていることが判明している。よって、盛土工事および雨水浸透側設置工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重工事が相当であるとした。

（源美）



第60図 河和田城跡（第12地点）の位置



第61図 河和田城跡（第12地点）のトレンチ配置



2-3-7 周知外（河和田城跡近接）

調査種別 踏査

所 在 地 水戸市河和田町 2894-4, -10

踏査日 平成21年5月12日

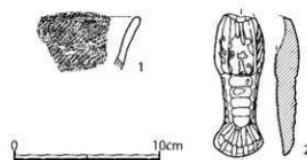
採集者 関口慶久

採集経緯 桜川公民館建替に伴う踏査

採集遺物 第63図-1は縄文土器である。2は海老の形状をした土製品である。型押による成形で、全面に黒色の彩色が施されている。時期は奈良時代から平安時代である。（関口）



第62図 周知外（河和田城跡近接）の位置



第63図 周知外（河和田城跡近接）採集遺物

2-3-8 仙光内遺跡（第3地点）

調査種別 工事立会調査

所 在 地 水戸市飯島町智内

調査期間 平成21年6月23日（第2次）

平成21年7月6日～10日（第3次）

調査原因 排水路新設工事

調査担当 渡美賀吾

調査概要 本地点では計3度の調査が行われている。平成20年10月27日に実施した第1次調査では、開発対象地の東半部分においてトレーニングを2箇所設定し立会調査を行ったが、トレーニング3より民窯系描鉢胸部片が1点出土したほかは、埋蔵文化財と思われるものは確認されなかつた。

第2次調査はトレーニングを2箇所設定し、遺構確認面である関東ローム層上面までに重機を用いて掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。第3次調査はトレーニングを4区設定し、遺構確認面である関東ローム層上面までに重機を用いて掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。

（1）トレーニングの概要

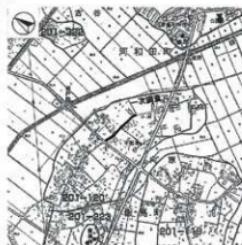
各トレーニングの規模・調査面積は以下のとおりである。

2次 トレーニング1 1.25m × 2.2m

トレーニング2 1.25m × 2.1m

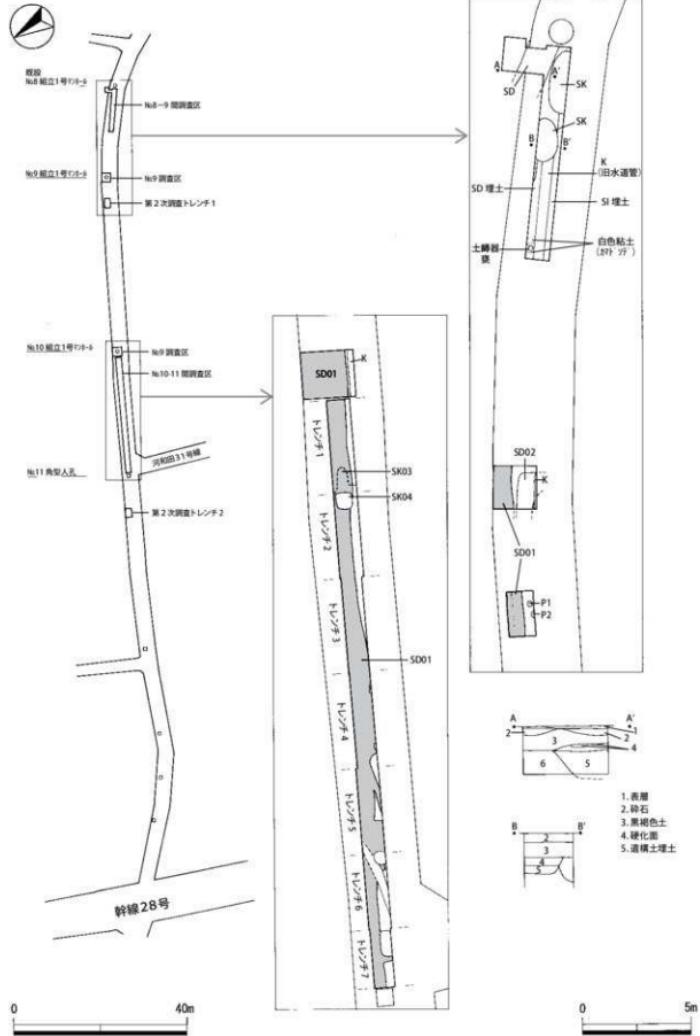
3次 組立マンホールNo.9調査区 2.0m × 2.0m

組立マンホールNo.10調査区 2.5m × 2.0m

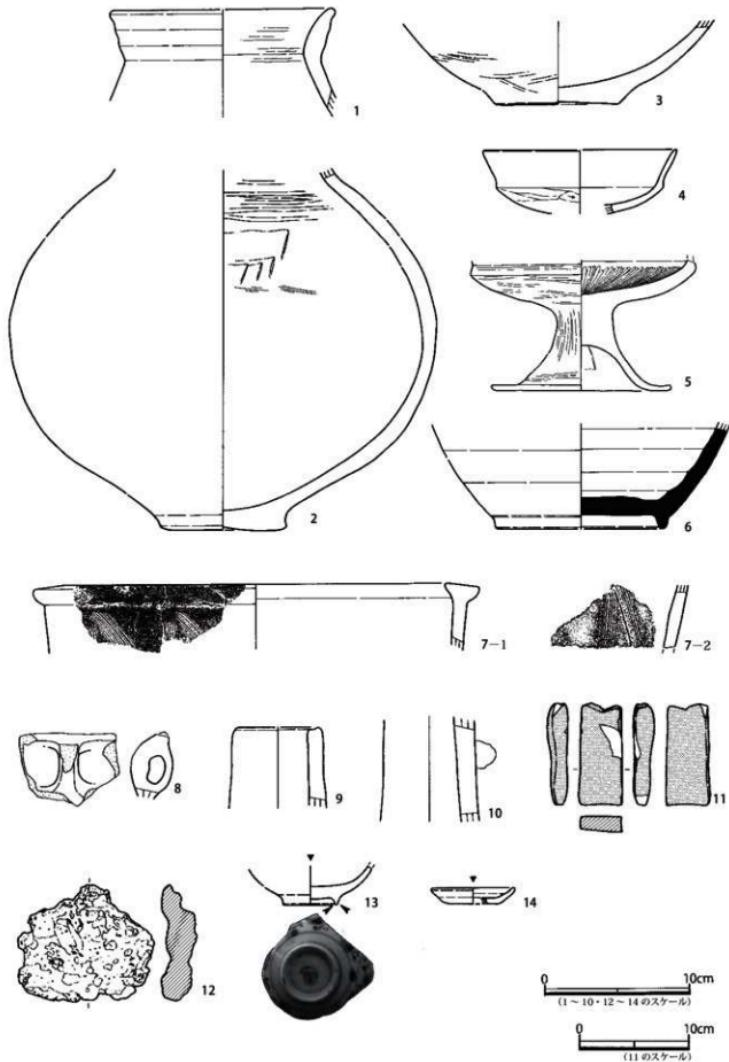


第64図 仙光内遺跡（第3地点）の位置





第65図 仙内遺跡（第3地点）のトレチ配置・遺構検出状況・土層模式図



第 66 図 仙光内遺跡（第 3 地点）出土遺物



組立マンホールNo.8-9 調査区 14.24 m²
組立マンホールNo.10-11 調査区 28.16 m²

(2) 出土遺物

第66図-1～5は6世紀後半の土師器である。1～3は甕、4は壺、5は高环である。6は須恵器の瓶で、時期は9世紀である。7は瓦質土器の火鉢で柳条状工具による文様が施されており、時期は近世～近代である。8は焙烙、9・10は羽口、11は砥石、12は鉄滓である。13は17世紀末～19世紀中頃の肥前産の磁器である。14は中・近世のかわらけである。(渥美)

2-3-9 丹下ノ牧野馬土手跡

調査種別 試掘・測量調査

所在地 水戸市河和田町101外

調査期間 平成21年10月19日～12月2日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 渥美賀吾

調査概要 平成21年6月中旬に、隣接する桜川西団地の居住者から、宅地分譲に伴う開発事業地内に堀があるが文化財ではないかとの通報を受けた。専門職員による現地踏査を行った結果、薬研状の堀と低い土塁が確認された。文献資料調査から、第9代水戸藩主徳川斉昭により天保4年から同6年にかけて開設された桜野牧跡の一部である可能性が高まった。事業用地の隣地の小字名が「丹下ノ牧」であることからも充分に推測された。

調査は、掘削前にまずトータルステーションを活用した平板測量を実施した。主曲線1m、計曲線20cmでコンタを作成し、堀および土塁と思しき地形を図化した(第69図)。その結果、牧跡に伴う堀および土塁である可能性が高まったことから、開発地内にトレンチを1箇所設定し、人力による掘削を行った(第70図)。

(1) トレンチの概要

トレント1 2m×6.4m。表土層30cmの直下に黒色土層が厚く堆積しているのが確認され、この黒色土層内から内耳土器や磁器碗など18世紀頃の土器・陶磁器類が一括で出土した。さらに掘削を行うと、堀底で深さ1.3mのところで砂利交じりの地山層に到達した。堀底幅のやや広い薬研状の堀となることが確認された。(渥美)

(2) 出土遺物

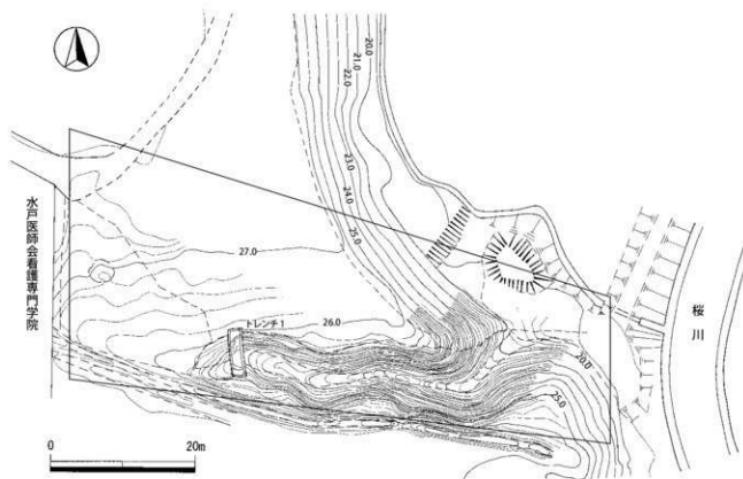
第71図-1は縄文土器である。隆起線文・押引文が施され、時期は縄文時代中期前半で「阿玉台式」に位置づけられる。2は18世紀後半以降の在地産の磁器碗、3は18世紀末葉以降の瀬戸・美濃産の陶器である。4は18世紀後半以降の明石・堺系の焼締陶器・擂鉢である。5は17世紀以降の焙烙である。(坂本)



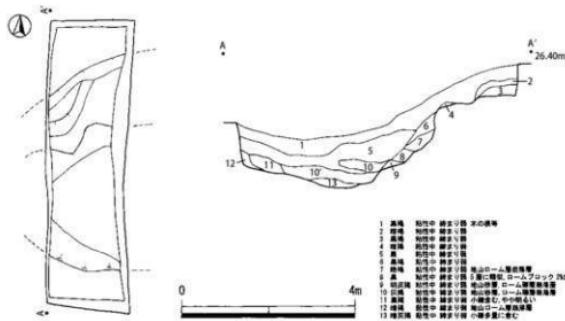
第67図 丹下ノ牧野馬土手跡の位置



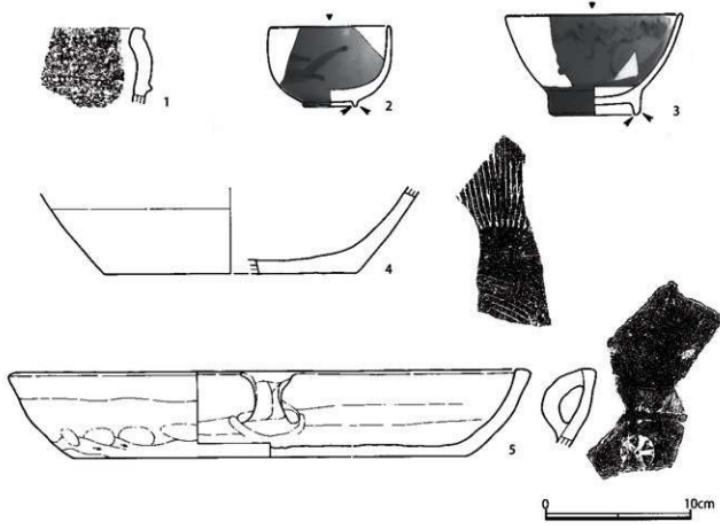
第68図 丹下ノ牧野馬土手跡の調査範囲



第69図 丹下ノ牧野馬土手跡のトレンチ配置・測量調査平面図



第70図 丹下ノ牧野馬土手跡の遺構検出状況・トレンチ1西壁土層断面図



第71図 丹下一ノ牧野馬土手跡出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

開発対象地のうち当該調査地点は、宅地造成に伴って盛上工事されるにとどまることから、必要な記録を作成し埋め戻しを行った。
(渥美)



第4節 山根地区

2-4-1 南仲坪遺跡（第5地点）

調査種別 試掘調査
所 在 地 水戸市加倉井町字元光山341-6, 340-3

調査期間 平成21年6月4日

調査原因 事務所兼工場建設
調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーナーを1箇所設定し（第72図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーナーの概要

トレーナー1 3m×10m。地表下1.7mで関東ローム層に到達し、

精査の結果、溝跡1条（SD01）、ピット2基（P1・2）が確認された。

どちらの覆土からも平安時代の所産と判断される土師器片・須恵器片が出土したことから、これらの遺構は平安時代に属するものと判断される。（米川）

（2）出土遺物

第74図-1・2は須恵器の無台坏である。

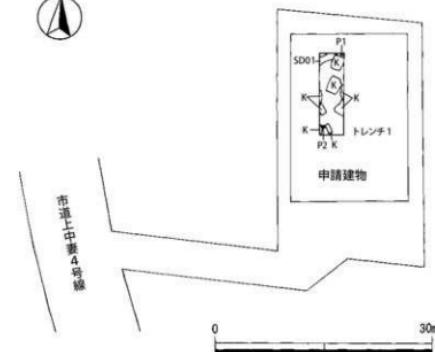
時期は8世紀後半である。3は土師器の甕で、時期は8世紀後半～9世紀である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

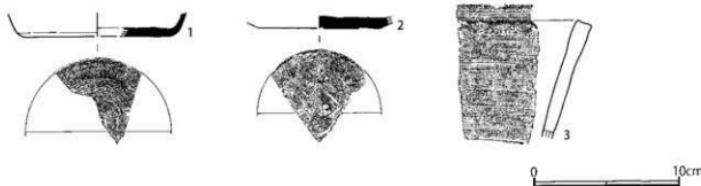
遺構・遺物が確認されたものの、事業者との協議の結果、盛土をすることで30cm以上の保護層が確保できることとなったため、工事立会が相当であるとした。（色川）



第72図 南仲坪遺跡（第5地点）の位置



第73図 南仲坪遺跡（第5地点）のトレーナー配置



第74図 南仲坪遺跡（第5地点）出土遺物



2-4-2 新田遺跡

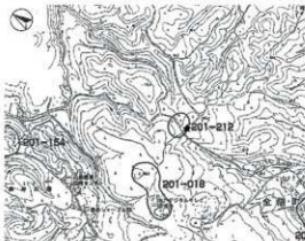
調査種別 踏査

所 在 地 水戸市全閣町

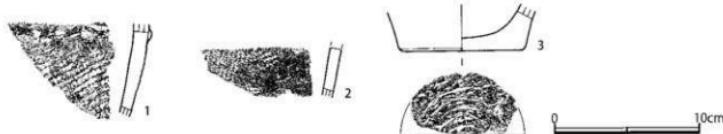
踏 査 日 平成 21 年 6 月 4 日

採 集 者 濱美賢吾

採集経緯 成沢吐水槽建設に伴う発掘調査現場の踏査
採集遺物 第 76 図 1 ~ 3 は茨城県教育財團が実施した発
掘調査区の道を挟んだ北・西側の斜面で採集された縄文土器
である。3 の底面には同心円状に沈線状の痕跡が認められる。
これらの遺物の存在から遺構・遺物の展開は本発掘調査区の
さらに外側へと展開している可能性が高い。(濱美)



第 75 図 新田遺跡の位置



第 76 図 新田遺跡採集遺物

2-4-3 般若寺遺跡

調査種別 踏査

所 在 地 水戸市木葉下町

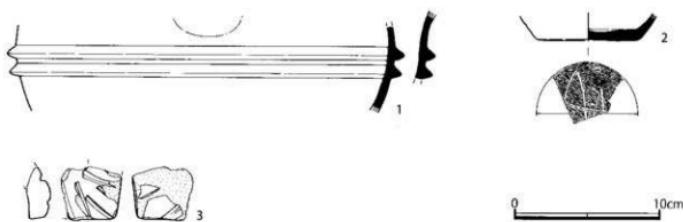
踏 査 日 平成 21 年 11 月 19 日

採 集 者 濱美賢吾

採集経緯 道路拡幅工事予定箇所の踏査
採集遺物 第 78 図 1 は須恵器である。横走する 2 条の降
帯が貼付されており、その直上に直径 5cm ほどの円窓が穿た
れている。2 は須恵器の無台坏で、底面にヘラ記号が見られる。
時期は 8 世紀後半～9 世紀初頭である。3 は瓦塔の屋蓋部片
である。(濱美)



第 77 図 般若寺遺跡の位置



第 78 図 般若寺遺跡採集遺物



第5節 渡里地区

2-5-1 文京1丁目遺跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市文京1丁目 341-6, 340-3

開発面積 641.69 m²

調査期間 平成21年8月26日～27日

調査原因 土地調査

調査担当 濱美賀吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し(第79図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1m×40m。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。ゴミ穴や既存建物の基礎などの搅乱が入っているものの、土坑2基(SK9・10)、古墳に伴う溝(周囲)、性格不明遺構3基(SX02～04)が検出された。

トレンチ2 1m×40m。地表下60cm(西端)～120cm(東端)で遺構確認面である関東ローム層に到達した。既存建物基礎などの搅乱が入っており、特に東端では深く搅乱を受けている。トレンチ内の確認面を平均すると、本来は地表下60～70cmに関東ローム層が存在したものと判断される。検出された遺構は土坑5基(SK04～08)、古墳周囲、性格不明遺構1基(SK01)である。古墳周囲の覆土上層からは、朝顔形埴輪を含む埴輪片が多量に出土し、個体数は1個体に止まるものではないであろう。SK04、07から繩文土器が出土したことから、これらは繩文時代の土坑と考えられよう。

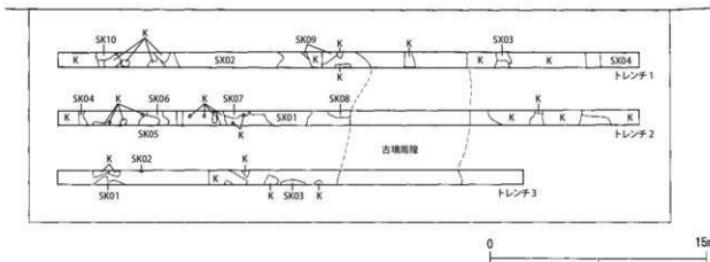
トレンチ3 1m×32m。地表下60cm(西端)～100cm(東端)で遺構確認面である関東ローム層に到達した。ゴミ穴や既存建物の給排水設備などによる搅乱が入っており、特に東端では深く搅乱を受けている。トレンチ内の確認面を平均すると、本来は地表下60～70cmに関東ローム層が存在したものと判断される。検出された遺構は土坑3基(SK01～03)、古墳周囲である。SK01からは繩文土器が出土したことから、繩文時代の土坑と考えられよう。



第79図 文京1丁目遺跡（第1地点）の位置



道 路



第80図 文京1丁目遺跡（第1地点）のトレンチ配置



調査区の制限もあるが、検出面での状況から考えて、円墳であると考えられる。周囲は確認面での計測であるが、上端幅は8.3～8.6m程度である。トレンチ2における埴輪片の出土位置から考えれば、墳丘は周囲の西側に存在していたのであろう。確認された本墳の南方、同一丘陵上には国指定史跡愛宕山古墳をはじめとする愛宕山古墳群が存在しており、本墳もこの古墳群と一連のものと考えられ、愛宕山古墳群の範囲は当該地まで広がる可能性がある。

(渥美)

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

照会者には、調査結果を報告し、開発を行う場合には、文化財保護法第93条第1項の規定に基づき、茨城県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財発掘の届出を提出する必要があること、遺跡の現状保存が困難な場合には、記録保存を目的とした本発掘調査について協力をお願いする旨、回答した。

(渥美)





2-5-2 西原遺跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市渡里町 3387-50, -131

開発面積 253.38 m²

調査期間 平成 21 年 10 月 23 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽埋設部分および申請建物部分にトレンチを 2 箇所設定し（第 82 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1.2 m × 2 m。遺構確認面は地表下 1.0 m のところである。ゴボウ耕作によるトレンチャーの擾乱がみられたほかは、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 1 m × 3 m。遺構確認面は地表下 1.0 m のところである。ゴボウ耕作によるトレンチャーの擾乱がみられたほかは、遺構・遺物は確認されなかった。

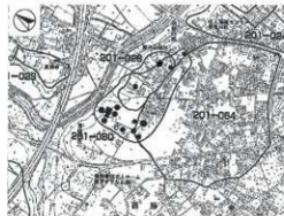
（2）出土遺物

第 83 図-1 は土師器の甕である。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。2～5 は須恵器の無台坏で、時期は、2～4 は 9 世紀、5 は 8 世紀後半に位置付けられる。6・7 は須恵器の有台坏である。時期は、6 は 9 世紀前半、7 は 8 世紀後半～9 世紀前半である。4・5 の底面にはヘラ記号がある。

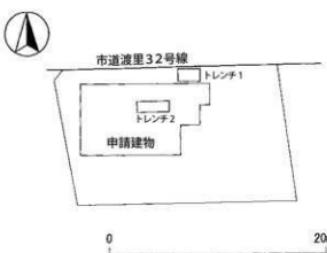
（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかつたことから、慎重工事が相当であるとした。

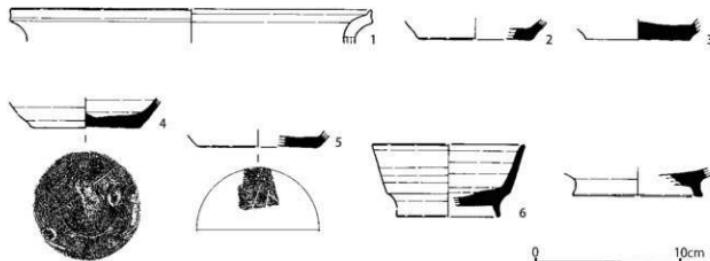
（渥美）



第 81 図 西原遺跡（第1地点）の位置



第 82 図 西原遺跡（第1地点）のトレンチ配置



第 83 図 西原遺跡（第1地点）出土遺物



2-5-3 堀遺跡（第14地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市堀町字馬場東342-2, -3

開発面積 308 m²

調査期間 平成21年4月27日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賀吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第84図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 6 m。遺構確認面は地表下1.1 mのところである。ピット4基（P1～4）が確認された。さらに遺構を精査するため、半截を行った。その結果、掘り込みが浅く（20～30cm）、底面にアタリ痕跡などはみられなかったが、僅かながら須恵器片が出土した。このことにより、これらの遺構は奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。

トレンチ2 1 m × 4 m。遺構確認面は地表下95cmである。遺物の出土はみられなかったが、堅穴住居跡1軒（S101）、ピット1基（P5）が確認された。

（2）出土遺物

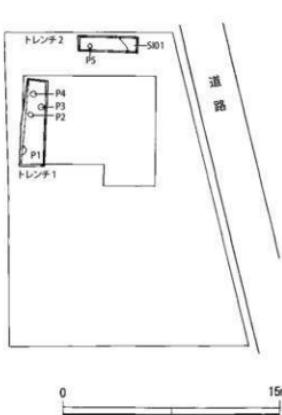
第90図-1は須恵器の環蓋の摘み部で、時期は8世紀前半である。

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できること、浄化槽については埋設位置が変更になったことから、工事立会が相当であるとした。（濱美）



第84図 堀遺跡（第14地点）の位置



第85図 堀遺跡（第14地点）のトレンチ配置

2-5-4 堀遺跡（第19地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市堀町293-1, -8

開発面積 324.27 m²

調査期間 平成21年10月23日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賀吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第87図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第86図 堀遺跡（第19地点）の位置



(1) トレンチの概要

トレンチ1 2 m × 3 m。遺構確認面は地表下50cmのところである。遺物の出土はみられなかったが、ピット1基(P1)が確認された。

トレンチ2 1.2 m × 4.2 mでL字型に設定した。遺構確認面は地表下20cmのところである。ゴボウ耕作等によるトレンチャーの搅乱がみられたほかは、何も確認されなかった。

(2) 出土遺物

第90図-2～7はすべて須恵器である。2～4は無台坏で、3の底面にはヘラ記号がみられる。5は有台坏、6は瓶、7は高盤である。時期はすべて9世紀前半に位置付けられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、盛土工事、雨水浸透樹および排水管埋設工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重工事が相当であるとした。
(渥美)



第87図 堀遺跡（第19地点）のトレンチ配置

2-5-5 堀遺跡（第20地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市堀町字前ノ内395-1

開発面積 754.59 m²

調査期間 平成21年11月24日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第89図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 15 m × 2 m。地表下1.0mで関東ローム層上面が確認された。奈良・平安時代の土師器・須恵器片等が数点、現代耕作土中から出土したが、遺構は検出されなかった。

トレンチ2 4 m × 2 m。地表下80cmで関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

(2) 出土遺物

第89図-8は須恵器の甕である。外面は格子目文叩き、内面は青海波文の当て具痕が残されている。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

隣接する第12地点の試掘・確認調査では、地表下2.0 m～1.4 mにおいて奈良・平安時代の遺構確認面である関東ローム層上面が検出されており、本地点で確認した関東ローム層とのレベル差と遺構展開状況の相関関係は注視すべきといえよう。恐らくは西から東方向へ緩やかな谷が入り込んでいるものと思われ、その緩斜面にわずかながら奈良・平安時代の遺構が点在する、といった景観が想起される。本地点は遺跡の南端にあたり、土地利用が希薄な部分にあたるものと判断される。遺構も確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第88図 堀遺跡（第20地点）の位置



市道波里36号線

市道波里48号線

トレンチ2

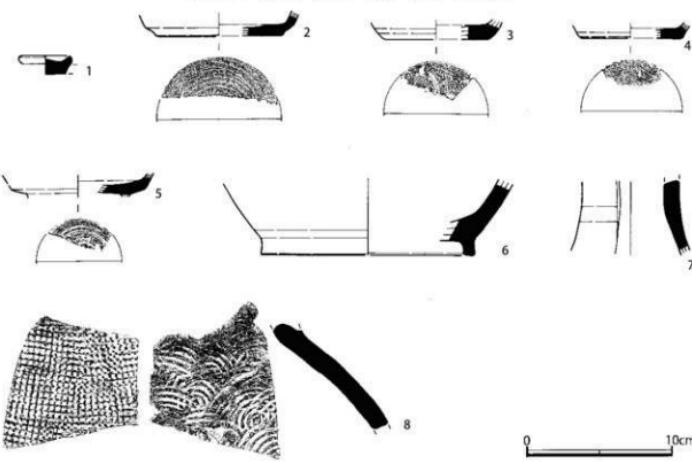
トレンチ1

水路
市道波里40号線

0

20m

第89図 堀遺跡（第20地点）のトレンチ配置



第90図 堀遺跡（第14・19・20地点）出土遺物



2-5-6 堀遺跡（第21地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市渡里町字高台3228-7, -10, -11

開発面積 224.63 m²

調査期間 平成21年12月15日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを1箇所設定し（第92図）、遺構確認たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

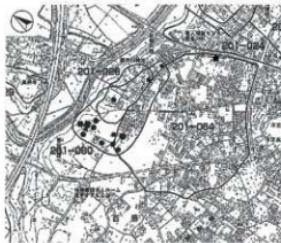
トレンチ1 7m×1.5m。地表下90cmで関東ローム層が確認された。奈良・平安時代の土器片と遺構3基が確認された（1号遺構、

2号遺構・P1・P2）。1号遺構は方形の土坑、2号遺構は振立柱建物跡である。

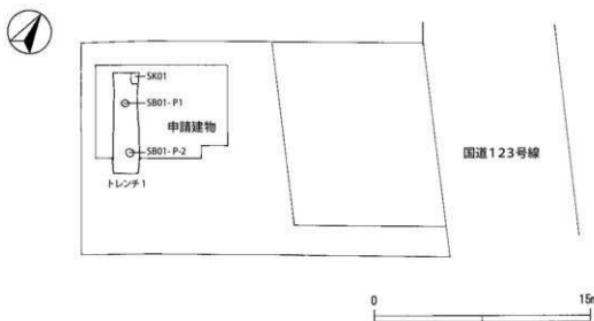
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できるため、雨水浸透樹・給排水管埋設工事および既存建物・ブロック塀基礎撤去工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重事が妥当であるとした。

（関口）



第91図 堀遺跡（第21地点）の位置



第92図 堀遺跡（第21地点）のトレンチ配置

2-5-7 西原古墳群（第14地点）

調査種別 工事立会調査

所 在 地 水戸市渡里町字野木 3387-31 地先～3366-10 地先

調査面積 3.4 m²

調査期間 平成21年4月1日

調査原因 道路拡幅・側溝新設工事

調査担当 濱美賀吾

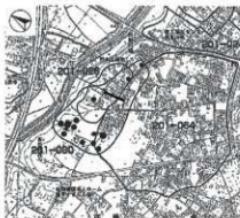
調査概要 今般の土木工事は道路拡幅・側溝新設工事である。工事に先立って、トレンチを2箇所設定し（第94図）、掘削を行った。

（1）トレンチの概要

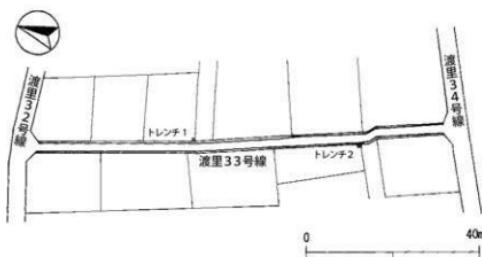
トレンチ1 現況の道路境界線から40cm離し、1.3m×1.3mで設定した。地表下80cmで遺構確認たる関東ローム漸移層が確認された。

遺構の存在は確認されなかったが、この付近周囲では多量の遺物が散布している状況が窺える。その多くは奈良・平安時代の須恵器であることから、この直近に8世紀後半から9世紀前半までの豊穴住居跡を中心とする集落が営まれていた可能性が高い。

トレンチ2 道路境界線に接して0.9m×1.9mで設定した。地表下90cmで関東ローム層上面が確認された。
根穴等の攪乱2基がみられたのみで、埋蔵文化財等の存在は確認されなかった。
(濱美)



第93図 西原古墳群（第14地点）の位置



第94図 西原古墳群（第14地点）のトレンチ配置



2-5-8 渡里町遺跡（第10地点（台渡里第53次））

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市渡里町字前原 2819-1

開発面積 291.26 m²

調査期間 平成21年7月13日～15日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 源美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し（第96図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×15m。トレンチ西側において地表下

80cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。遺構は土坑1基（SK01）、溝跡1条（SD01）、井戸跡1基（SE01）、ピット5基が検出された。SE01については、一部掘り込みを行ったが、掘り込み中に井戸である可能性が高まり、底面までかなりの深度があることが予想されたため、掘り込みを中断している。本遺構からは埴土中から撲跡片などが出土した。旧地形は東に向かって傾斜しており、トレンチの東側部分には谷があり込んでいる。

トレンチ2 2m×15m。トレンチ西側において地表下1.3mで遺構確認面である関東ローム層に到達した。

遺構は、土坑1基（SK02）、溝跡1条（SD01）、ピット2基（P1・2）が検出された。SK02については一部掘り込みを行い、繩文土器片が出土した。SD01はトレンチ1で検出された溝跡と同一のものであると判断される。トレンチ1同様、本トレンチにおいても中央東が谷である。

トレンチ3 2m×15m。トレンチ西側において地表下2.3mで遺構確認面である関東ローム層に到達した。

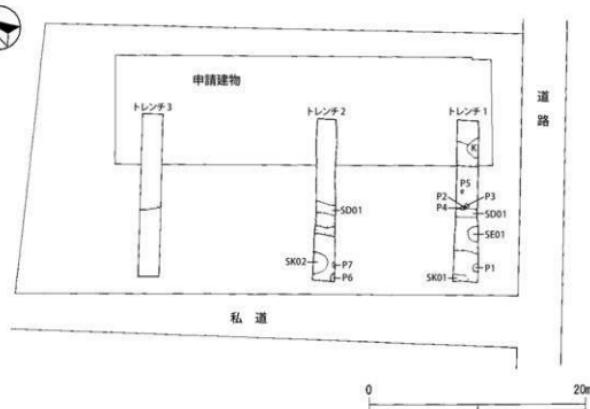
このトレンチは全体が谷の中に位置する。谷はトレンチ中央部から傾斜がやや急になり、最深部では地表下3.4mを測る。遺構・遺物は確認されなかった。（米川）

（2）出土遺物

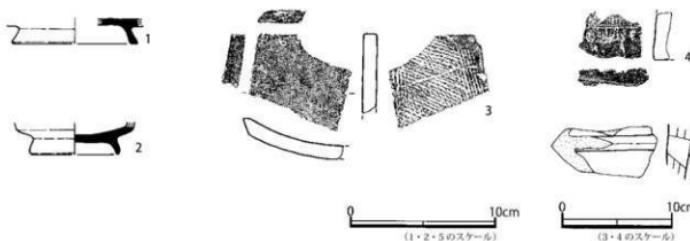
第97図-1・2は須恵器の有台環である。時期は、1が8世紀後半、2が9世紀に位置付けられる。3・4は奈良・



第95図 渡里町遺跡（第10地点（台渡里第53次））の位置



第96図 渡里町遺跡（第10地点（台渡里第53次））のトレンチ配置



第97図 渡里町遺跡（第10地点（台渡里第53次））出土遺物

平安時代の平瓦である。5は近世～近代の瓦質土器の鉢である。

(坂本)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できるため、慎重工事が妥当であるとした。

(米川)

2-5-9 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）

調査種別 工事立会調査

所在地 水戸市渡里町字3009-1

調査面積 8.45 m²

調査期間 平成21年6月11日

調査原因 個人住宅 浄化槽埋設工事

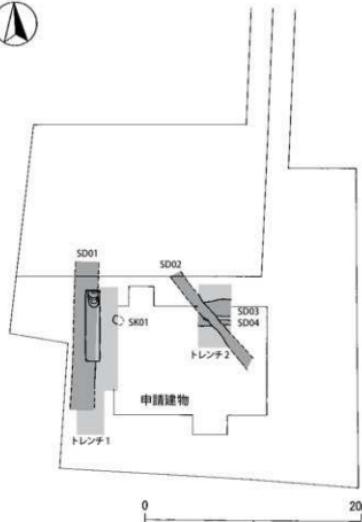
調査担当 源美賢吾・米川暢敬

調査概要 本地点では、個人住宅建築に基づく試掘調査が平成20年7月10日に実施され、トレンチ1においてSD01・SK01が、トレンチ2においてSD02～04が検出されている（源美・色川・川口 2011）。今般の調査は、浄化槽埋設の際の工事立会調査である。

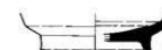
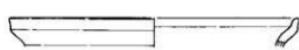
出土遺物 第100図-1は土師器の蓋である。2～4は須恵器で、2・3は有台杯、4は蓋である。時期は、2が7世紀後半～8世紀前半、3・4が8世紀後半に位置付けられる。（色川）



第98図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）の位置



第99図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）のトレンチ配置



第100図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）出土遺物

2-5-10 アラヤ遺跡（台渡里第55次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市渡里町 2953-1

開発面積 339.8 m²

調査期間 平成 21 年 7 月 16 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを 1 箇所設定し（第 102 図）、関東ロード上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

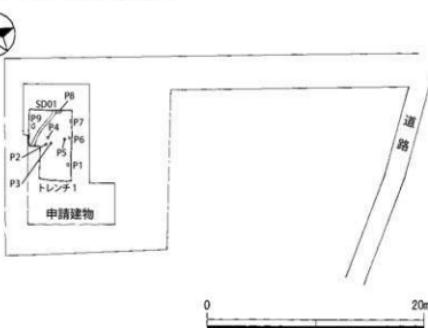
トレンチ 1 3 m × 5 m で設定し、遺構の検出にあわせ拡張を行った。地表下 60cm で遺構確認面である黄褐色土層に到達し、精査を実施した結果、溝跡 1 条（SD01）、ピット 9 基が検出された。帰属年代解明のため、溝跡を一部掘り込んだが、遺物は土師器小片が 1 点出土するに留まった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

今般の土木工事は、基礎工法にパイル工法を採用するため、遺構の破壊は回避できないと判断された。よって、事前に記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。なお、本発掘調査の概要については、本書「2-5-12 アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）」を参照願いたい（米川）



第 101 図 アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）の位置



第 102 図 アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）のトレンチ配置



2-5-11 台渡里廃寺（台渡里第57次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市台渡里町字宿屋敷 3001-3, 2998-4

開発面積 207 m²

調査期間 平成 21 年 10 月 23 日, 11 月 17 日～18 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 源美賢吾・川口武彦

調査概要 本地点では 50 次調査および二度にわたる 57 次調査と、計 3 度の調査が行われた。50 次調査ではトレーンチを 2 箇所設定し（トレーンチ 1・2），地表下 90cm 前後で関東ローム層上面が確認された。大部分はイモ穴・植栽痕といった現代の搅乱で、中世陶器片や数点の古代瓦が搅乱層から出土した以外は、埋蔵文化財の痕跡は確認されなかった（川口武彦・色川順子編 2011）。57 次調査では、浄化槽埋設予定位置に、最終的に 2 箇所のトレーンチを設定し（トレーンチ 3・4）、遺構確認面を目標に重機を用いて掘削した（第 104 図）。

（1）トレーンチの概要

トレーンチ 3 1.2 m × 5 m。地表下 70cm で遺構確認面に達した。後世の搅乱を受けているものの、土坑・ピット 4 基が確認された。遺物は、掘削時に数点の土師器片が出土した。

トレーンチ 4 トレーンチ 3 で遺構が確認されたため、浄化槽埋設位置が計画変更され、新たな埋設予定位置にトレーンチ 4 を 2.4 m × 2.4 m で設定した。地表下 80cm で遺構確認面に達した。トレーンチ内に大きな搅乱があり、これらをすべて除去した結果、その直下より竪穴建物跡の床面と思しき硬面を検出した。遺構の性格を精確に把握するため、さらに調査を進めた結果、覆土は大きく搅乱を受けて遺存状態は悪いものの、竪穴建物跡の南辺を検出し、さらに入出力口ピットと思しきものを確認するに至った。出土遺物は須恵器・土師器・瓦であり、竪穴建物跡の年代は、奈良・平安時代に帰属するものと判断されるが、詳細な年代の特定には至らなかつた。

（源美）

（2）出土遺物

第 105 図-1・8 はトレーンチ 3 出土である。1 は繩文土器、8 は中世以降の鏡で、外面上に炭化物の付着がみられる。2～7 はトレーンチ 4 の SI01 出土である。2 は 7 世紀後半～8 世紀前半の土師器の甕、3・4 は 8 世紀後半の須恵器の甕、有台环である。5～7 は奈良・平安時代の平瓦である。

（川口）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

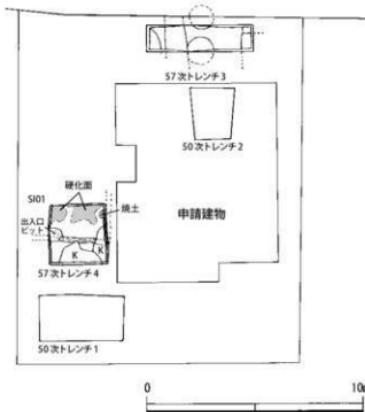
本来であれば、埋蔵文化財が確認されたことから、別途本発掘調査を行う必要があると判断される。しかしながら



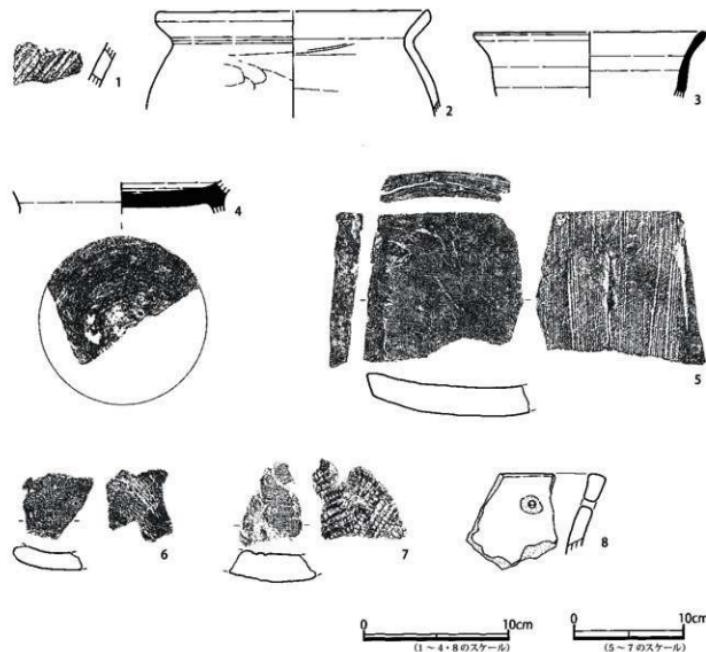
第 103 図 台渡里廃寺跡（台渡里第 57 次）の位置



市道常磐 12 号線



ら、トレンチ4の調査過程で搅乱土層を除去したため、浄化構造設置所の遺構の完掘に至り、これ以上の調査を行う必要性がないことから、工事立会が相當であるとした。
(渥美)



第105図 台渡里廐寺跡（台渡里第57次）出土遺物



2-5-12 アラヤ遺跡（台渡里第59次）

調査種別 本発掘調査

所 在 地 水戸市渡里町 2953-1

開発面積 119.5 m²

調査期間 平成21年12月15日～平成22年1月13日

検出遺構 掘立柱建物跡1、土坑5、ピット47、溝跡3、性格不明遺構2

調査担当 源美賢吾

調査概要

(1) 1号掘立柱建物跡（SB01） 調査区の南東側で検出された。P36、P37、P39、P40は並んでおり、1棟の掘立柱建物跡を構成する可能性がある。桁行2間以上、梁間1間以上、桁行柱間は4.6尺、梁間柱間は6尺とみられる。柱穴はいずれも円形を呈し、直径0.25m～0.3m、深さは0.2mから0.32m程度である。さほど規模の大きい3×2間程度の側柱式の掘立柱建物の存在が想定される。

(2) 土坑（SK01～SK05） 合計5基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。いずれも規格性のある形状をなしておらず、遺物が出土したのはSK03のみである。

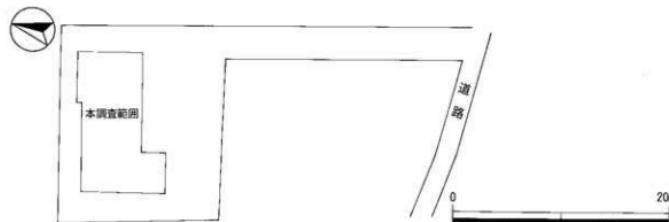
(3) ピット 合計47基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物が出土したのはピット6のみである。

(4) 溝跡（SD1～SD3） 合計3条が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物の出土がないため、時期は不明であるが、主軸もそれぞれ異なっており、形状や規模からみて近世以降の可能性がある。

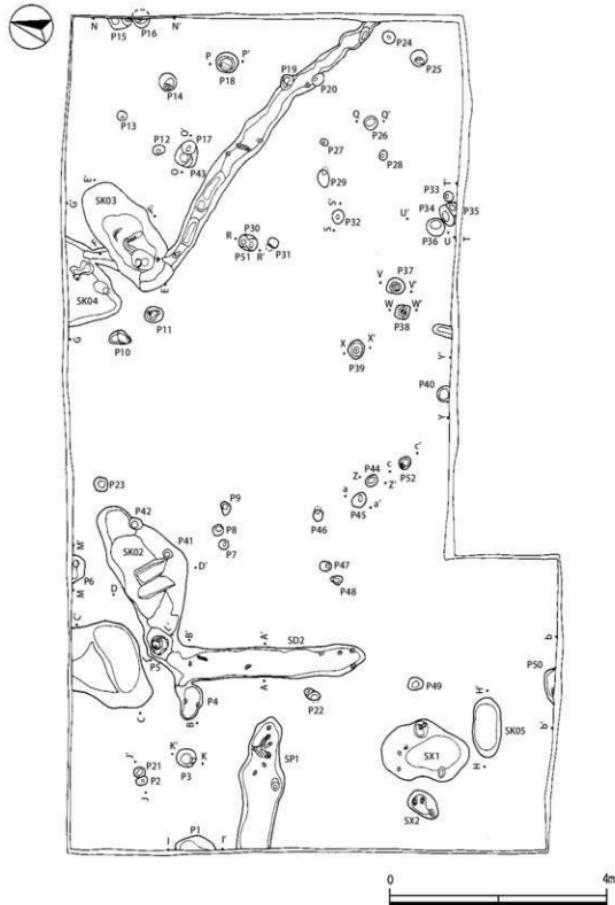
(5) 性格不明遺構（SX1～SX2） 合計2基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物が出土したのはSX01のみである。

出土遺物 第110図-1～8は須恵器である。1～4は無台环、5～7は有台环である。1の底面にはヘラ記号と糊正痕が、3の底面にヘラ記号が見られる。8は甕で、平行線文の叩きが施されている。出土位置は、1がSK03確認面、5がSK03上層、4がSX01、7がピット6である。2・3・6・8は表土中の出土と表探資料である。

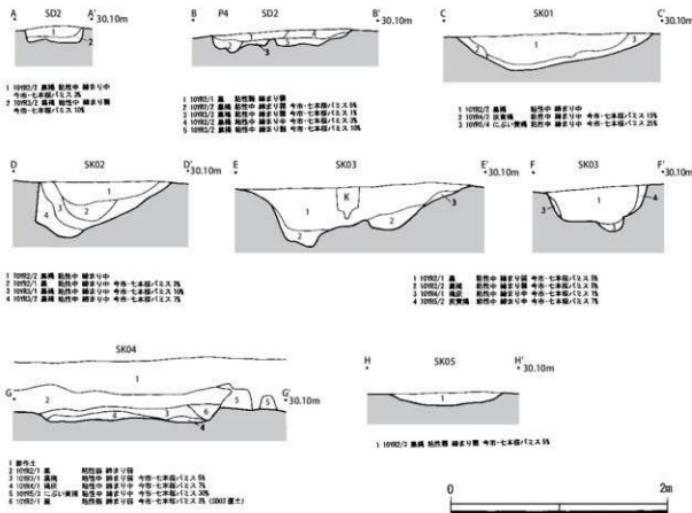
9～13は奈良・平安時代の瓦で、9～12は平瓦、13は丸瓦である。9はSK03下層とピット6中層出土のものが接合した資料である。凹面に布目压痕を有し、凸面には長櫛叩きが施されており、凹面の系切痕と側面の形状から一枚作りと考えられる。10は凹面に布目压痕、凸面に梯子状格子叩きが施されている。11は凹面に布目压痕、凸面にヘラ削り痕を有する。12は凹面に糸切り痕と見られる痕跡を有し、凸面はヘラ削りが施されている。13は凹凸面ともにヘラ削り痕が見られる。8・10～13は表土中の出土である。（渥美）



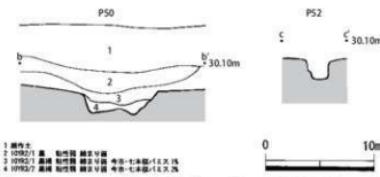
第106図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）の本発掘調査範囲



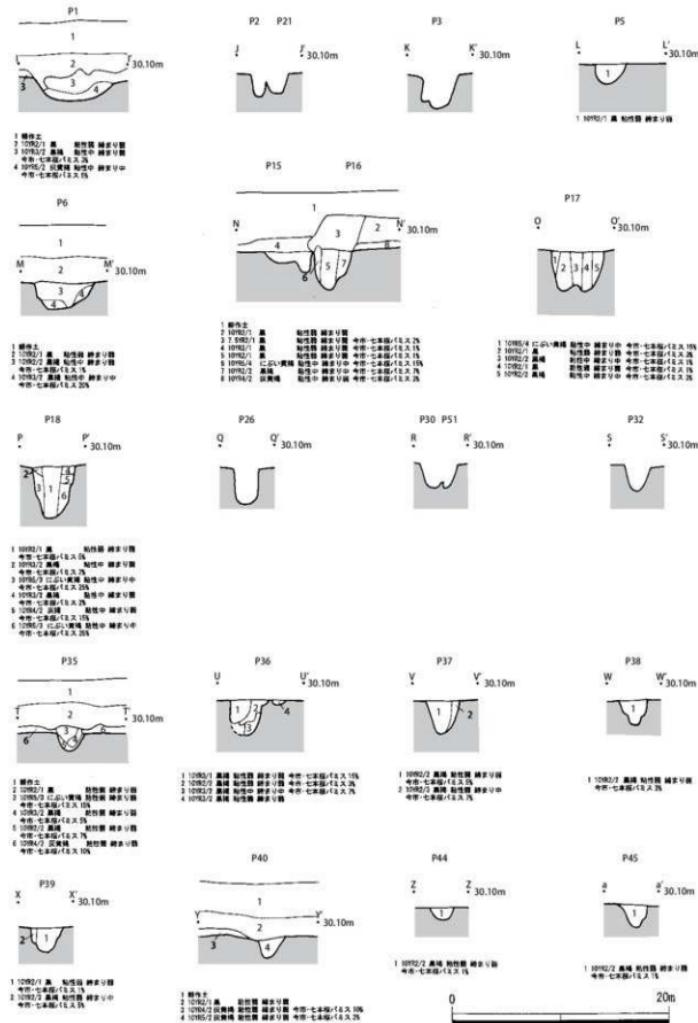
第107図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）の本発掘調査区遺構配置



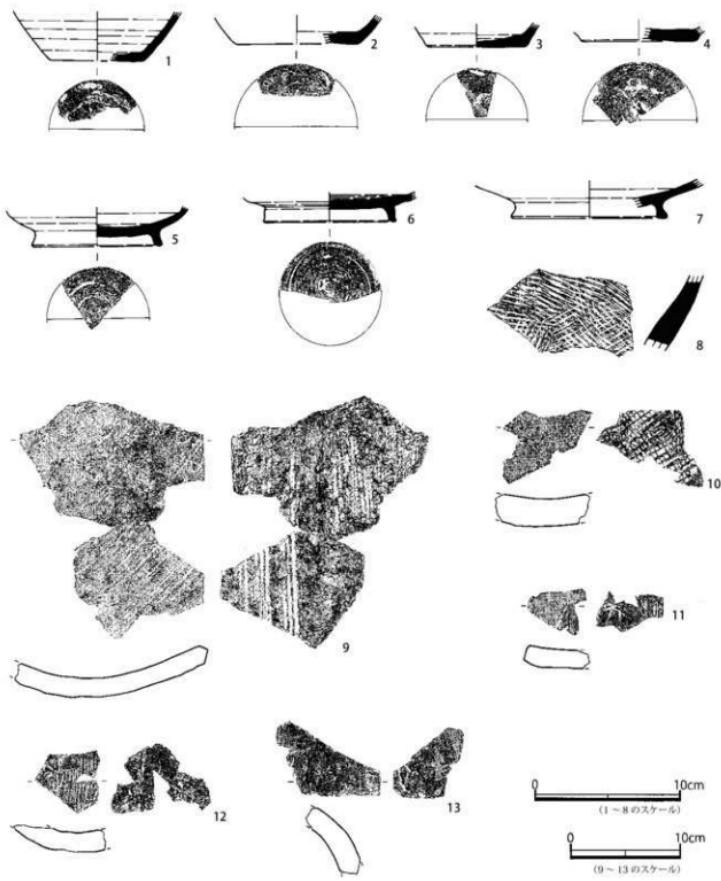
第108図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）の遺構土層断面図（1）



第110図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）の遺構土層断面図（3）



第 109 図 アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構土層断面図（2）



第111図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）出土遺物

第4表 アラヤ遺跡（台渡里第59次）検出遺構一覧

遺構名	種別	構造・形状	規模	備考
1号柱立柱建物跡 (SB01)	掘立柱建物	柱形形式、桁行2間以上。梁闊1間以上。 桁行柱間は4.6m。梁闊柱間は6尺。	上輪N 15° W, 長さ2.3m以上、幅0.3m以上 P26 斎内0.3m、南北0.3m、深さ0.3m P37 斎内0.3m、南北0.3m、深さ0.3m P39 斎内0.35m、南北0.3m、深さ0.2m P40 斎内0.3m、南北0.25m以上、深さ0.2m	P26・P37・P39・P40から構成
1号土坑 (SK01)	土坑	細孔に落ち込む	斎内1.6m、南北1.5m以上、深さ0.2~0.3m	
2号土坑 (SK02)	土坑	不整形	斎内2.3m、南北1.7m、深さ0.25~0.5m	P5・P41・P42と重複
3号土坑 (SK03)	土坑	不整形	斎内2.0m、南北1.7m、深さ0.25~0.3m	SD3と重複・連結
4号土坑 (SK04)	土坑	不整形	斎内1.7m、南北1.7m以上、深さ0.12~0.18m	
5号土坑 (SK05)	土坑	長椭円形	斎内1.1m、南北0.5m、深さ0.1m	
1号ビット (P1)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.8m、深さ0.2m	
2号ビット (P2)	ビット	円形	斎内0.15m、南北0.2m、深さ0.2m	P21と隣接
3号ビット (P3)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.4m、深さ0.25~0.35m	
4号ビット (P4)	ビット	楕円形	斎内0.7m、南北0.4m	
5号ビット (P5)	ビット	楕円形	斎内0.55m、南北0.4m、深さ0.18m	P5・SK02と重複
6号ビット (P6)	ビット	楕円形	斎内0.5m、南北0.2m以上、深さ0.15~0.25m	P4・SK02と重複
7号ビット (P7)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
8号ビット (P8)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
9号ビット (P9)	ビット	楕円形	斎内0.25m、南北0.2m	
10号ビット (P10)	ビット	楕円形	斎内0.25m、南北0.4m	
11号ビット (P11)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.35m	
12号ビット (P12)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.25m	
13号ビット (P13)	ビット	円形	斎内0.15m、南北0.2m	
14号ビット (P14)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.35m	
15号ビット (P15)	ビット	円形	斎内0.25m以上、南北0.4m、深さ0.1~0.2m	
16号ビット (P16)	ビット	円形	斎内0.2m以上、南北0.35m、深さ0.38m	
17号ビット (P17)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m、深さ0.4m	P43と重複
18号ビット (P18)	ビット	円形、柱軸跡0.15cm	斎内0.4m、南北0.4m以上、深さ0.48m	
19号ビット (P19)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.25m	
20号ビット (P20)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
21号ビット (P21)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m、深さ0.1km	P2と隣接
22号ビット (P22)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.25m	
23号ビット (P23)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.3m	
24号ビット (P24)	ビット	円形	斎内0.25m、南北0.25m	
25号ビット (P25)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.3m	
26号ビット (P26)	ビット	円形	斎内0.25m、南北0.25m、深さ0.35m	
27号ビット (P27)	ビット	円形	斎内0.1m、南北0.15m	
28号ビット (P28)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.15m	
29号ビット (P29)	ビット	楕円形	斎内0.3m、南北0.25m	
30号ビット (P30)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m、深さ0.25m	P51と重複
31号ビット (P31)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
32号ビット (P32)	ビット	円形	斎内0.25m、南北0.2m、深さ0.25m	
33号ビット (P33)	ビット	円形	斎内0.15m、南北0.2m	
34号ビット (P34)	ビット	楕円形	斎内0.4m、南北0.3m	
35号ビット (P35)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m以上、深さ0.25m	
38号ビット (P38)	ビット	円形	斎内0.25m、南北0.3m、深さ0.22m	
41号ビット (P41)	ビット	円形	斎内0.15m、南北0.18m	
42号ビット (P42)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
43号ビット (P43)	ビット	円形	斎内0.4m、南北0.4m、深さ0.35m	P17と重複
44号ビット (P44)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m、深さ0.1m	
45号ビット (P45)	ビット	円形	斎内0.3m、南北0.25m、深さ0.2m	
46号ビット (P46)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
47号ビット (P47)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.25m	
48号ビット (P48)	ビット	楕円形	斎内0.2m、南北0.25m	
49号ビット (P49)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m	
50号ビット (P50)	ビット	楕円形	斎内0.65m、南北0.2m以上、深さ0.18~0.2m	
51号ビット (P51)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.2m、深さ0.22m	P30と重複
52号ビット (P52)	ビット	円形	斎内0.2m、南北0.25m、深さ0.25m	
1号溝 (SD1)	溝	東西の底面にビットを作ろう	上輪E 100° W, 長さ2.3m以上、幅0.7~0.9m 上輪E 90° W, 長さ3.7m, 幅0.55~0.6m, 深さ0.15~0.18m	
2号溝 (SD2)	溝	北側及び南側の底面にビットを作ろう	上輪E 124° W, 長さ3.7m, 幅0.55~0.6m, 深さ0.15~0.18m	P4・P5・SK02と重複・連結
3号溝 (SD3)	溝	西側及び東側の底面にビットを作ろう	上輪E 124° W, 長さ3.7m, 幅0.55~0.6m, 深さ0.15~0.18m	SK03と重複・連結
1号性格不明遺構 (SK1)	不明	底面にビットを作ろう	斎内1.2m、南北1.65m	
2号性格不明遺構 (SX2)	不明	底面にビットを作ろう	斎内0.55m、南北0.6m	



2-5-13 台渡里廃寺跡（台渡里第61次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市台渡里町字前原 2844-2

開発面積 316.13 m²

調査期間 平成 22 年 1 月 25 日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 涼美賀吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを 1 箇所設定し（第 113 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1.5 m × 8 m で設定した。遺構確認面の深度は地表下 80 cm である。トレンチ西半部で版築状遺構が広がる状況が確認され、この版築状遺構を切って黒褐色土の落ち込みが所々に確認できた。トレンチ南辺に接したところの落ち込みには、カマドと思しき焼土を伴った白色粘土で構築された遺構が付属していることから、これは竪穴式柱跡と考えられる。またこの北東部でカマドと思しき遺構を切って土坑状の落ち込みを確認した。遺構としての性格が不明であったため、サブトレンチを設定して掘り下げた。その結果、大きな円形井戸となることから、当該以降は掘立柱建物跡の柱掘り方とも考えられるが、アタリ痕等は確認されず、明確に柱穴とは断定できなかった。

当初確認した版築状遺構の規模を確認するため、北方向へ 1.5 m × 6.5 m の拡張トレンチを設定し掘削した。その結果、版築状遺構は南北 6.5 m 以上を測るが、この遺構の東辺と北辺は、大きな黒褐色土の落ち込みが入り込んでおり、版築状遺構そのものの規模を確定するには至らなかった。また、黒褐色土の落ち込みが遺構であるのか攢乱であるのかについても、サブトレンチを設定し確認作業を進めたが、これらの落ち込みが版築状遺構を切って構築されていることは確認されたものの、遺構と判断するには至らなかつた。

（渥美）

（2）出土遺物

第 114 図-1 は須恵器の蓋である。時期は 8 世紀前半に位置付けられる。

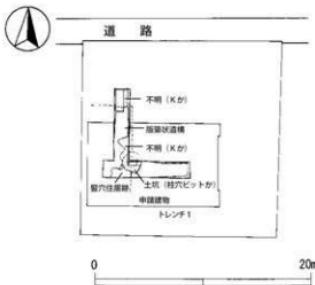
（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

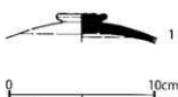
遺構・遺物が確認されたものの、30cm 以上の保護層が確保できることから工事立会が相当であるとした。（渥美）



第 112 図 台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）の位置



第 113 図 台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）のトレンチ配置



第 114 図 台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）出土遺物



第6節 国田地区

2-6-1 南台遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市上国井町字阿川台 4079-2

開発面積 376.82 m²

調査期間 平成21年4月28日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレーンチを1箇所設定し（第116図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレーンチの概要

トレーンチ 1 2m × 4m。遺構確認面は地表下43.8～51.8cmのところである。南から北へ向かって低く傾斜している。トレーンチ北半部で、竪穴建物跡1軒（SI01）、土坑1基（SK01）が確認された。確認面の出土遺物から、SI01は7世紀末から8世紀前葉のものと判断され、SK01はそれを切って構築されていることから、やや時期の下るものとみられる。確認された遺構プランを中心に、土師器・須恵器の出土が少量みられた。

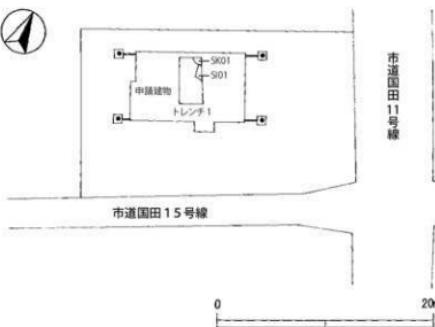
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できるものの、雨水浸透樹設置工事等について、範囲が狭小といえども、その掘削深度から埋蔵文化財への影響が及ぶことが考えられた。よって、今般の土木工事については工事立会が相当であるとした。

（渥美）



第115図 南台遺跡（第2地点）の位置



第116図 南台遺跡（第2地点）のトレーンチ配置



第7節 飯富地区

2-7-1 大井古墳群（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市飯富町 3516-1 ~ 3482

開発面積 572 m²

調査期間 平成 21 年 9 月 10 日

調査原因 狹あい道路整備工事

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、セットバック予定箇所にトレントを 1 箇所設定し（第 118 図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレントの概要

トレント 1 1 m × 13 m。地表下 95 ~ 105cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。層序の確認により、本来の関東ローム層上面は地表下 50 ~ 60cm に位置しており、その下約 50cm 前後はゴボウ耕作等により大きく擾乱を受けていることが確認された。遺物は土師器・須恵器が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

本調査地点周囲の畠地における遺物の散布状況から、延喜式内社である大井神社に近いほど古代の遺物の散布が増加している様子が窺える。今般の調査において遺構は確認されなかつたものの、本トレントの東側には、遺構等の埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、工事着手前に確認調査を実施することが相当であるとした。

（米川）



第 117 図 大井古墳群（第 1 地点）の位置



第 118 図 大井古墳群（第 1 地点）のトレント配置



2-7-2 馬場尻遺跡

調査種別 現地踏査

所 在 地 水戸市飯富町大井神社境内

踏 査 日 平成21年6月25日

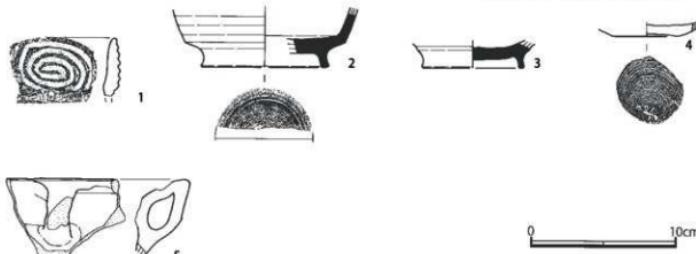
採 集 者 濱美賢吾

採集経緯 狹あい道路整備工事箇所を事前に確認するため、現地踏査した際に大井神社境内において採集。

採集遺物 第120図-1は縄文土器である。沈線文が施されている。2・3は須恵器の有台坏で、時期は9世紀に位置付けられる。4はかわらけ。



第119図 馬場尻遺跡の位置



第120図 馬場尻遺跡採集遺物



2-7-3 大部平太郎屋敷跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市飯富町 3621-1

開発面積 300 m²

調査期間 平成 21 年 9 月 10 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレントを 1 箇所設定し（第 122 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレントの概要

トレント 1 2 m × 3 m。地表下 80 cm で遺構確認面に到達した。精査の結果、調査区南側で方形を呈すると考えられるプランが検出され、性格解明のためサブトレントを設け、掘り込みを実施したところ、10 cm 程度掘り下げたところで硬化面を確認した。これから当該遺構は住居跡と考えられる。しかし覆土中から遺物が出土しなかったため、帰属年代確定には至らなかったものの、平面プラン・覆土から判断するに古代の住居跡と考えられる。（米川）

（2）出土遺物

第 122 図-1・2 は表採された遺物である。1 は須恵器の無台环である。2 は須恵器で、おそらく無台の环と思われる。1・2とも 8 世紀後半～9 世紀前半の木葉下窯跡群である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、30 cm 以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）





第8節 旧市内・その他・市街地

2-8-1 三ノ町遺跡（第1地点）

調査種別 確認調査

所 在 地 水戸市城東2丁目8-51

調査期間 平成21年6月22日～26日

調査原因 横山大觀生誕の地整備に伴う範囲確認調査

調査担当 関口久久

調査概要 本地区は、近世にあっては城下町の武家地であり、三ノ町と呼ばれていた。三ノ町と川崎町が交差する十字路の一角に水戸藩士酒井家の屋敷地があり、明治元（1868）年9月、横山大觀は酒井捨彦の長男として生まれた。今次調査区はその酒井家屋敷地の一角にある。酒井家の敷地は分筆され、戦後に社宅や薬局などが建てられるなど市街地化が進んでいるものの、町割自体はおおむね近世期のままで、往時の景観を偲ばせている。今次調査の目的は、当該地域における近世武家地の遺構の遺存状況を把握するための調査である。調査区内で発生残土を処理せざるを得ないため、敷地の西半分を調査区とし、トレーンチを1箇所設定し、掘削を行った。

（関口）

（1）トレーンチの概要

トレーンチ 1 15m × 3.5m で設定した。現代の擾乱層が厚く堆積していたものの、地表下90cmから近世～近代遺構確認面が検出され、更に10cm下層から近世の遺構確認面（地山、褐色粘土層）が確認された。以下、各面における状況を記す。

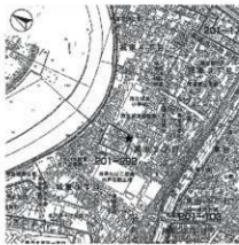
近世～近代遺構確認面 本遺構確認面からは便所廁やコンクリート基礎など近代の遺構は確認されたが、近世の遺構は確認されていない。しかしながら本遺構確認面を成す整地層からは、近世遺物のみしか出土しないため、少なくとも整地は近世期（18世紀後半～19世紀前半）に行われた可能性が高い。横山大觀生誕の地という性格に照らし合わせれば、本遺構確認面がちょうど彼が生まれた時期の生活面にあたるものと思われる。

近世遺構確認面（地山） 地山面からは近世の廐棄土坑1基（SK01）が確認された。地山部分まで下面下げた範囲は2.5m × 5m に過ぎない限定された範囲だったため、敷地内における本地区の性格まで把握することは叶わなかったが、近世の遺構が本地区にバックされて遺存していることは間違いない。遺物の状況から17世紀後半～18世紀前半代に位置づけられる。

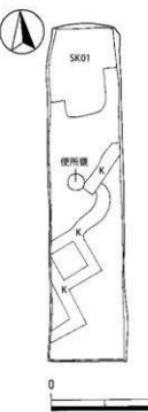
（2）出土遺物

第126図～129図はすべてSK01出土である。第126図-1～10は磁器である。中でも1は七面焼であろうか、時期は1838年以降と考えられる。7は18世紀後半以降の在地産の磁器の仮販碗である。第127図-11・12は磁器である。11は肥前産で時期は近世、12は近現代に位置づけられる。13・14は陶器で、13は志野織部皿、14は志野皿である。15は磁器の土瓶、16は焼締陶器の急須である。第128図-17～29はかわらけ、30は土器の裏で、すべて近代のものと考えられる。第129図-31～33・36は硝子製品、34・35は磁器・代用品の化粧クリーム瓶である。34は美濃産で、1941～1945年戦時統制期のものである。37は近世の丸瓦である。

（関口）

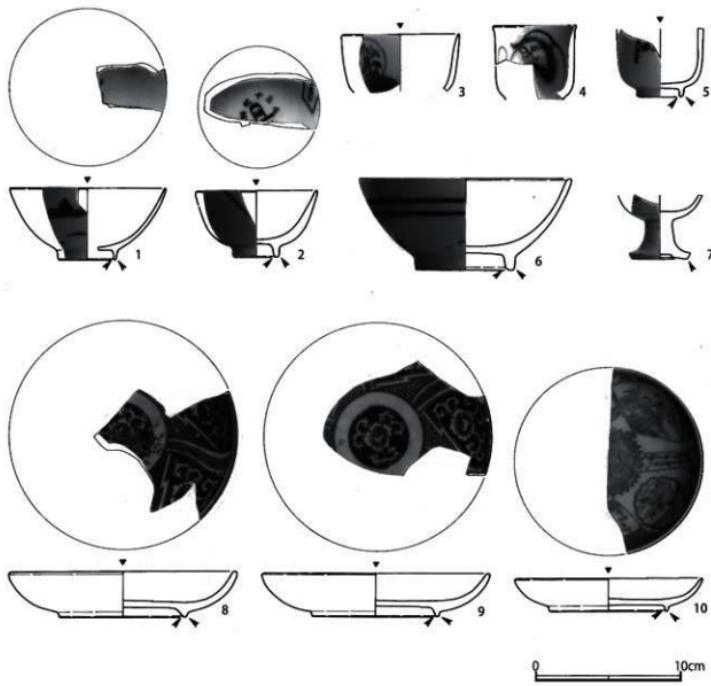


第124図 三ノ町遺跡（第1地点）の位置



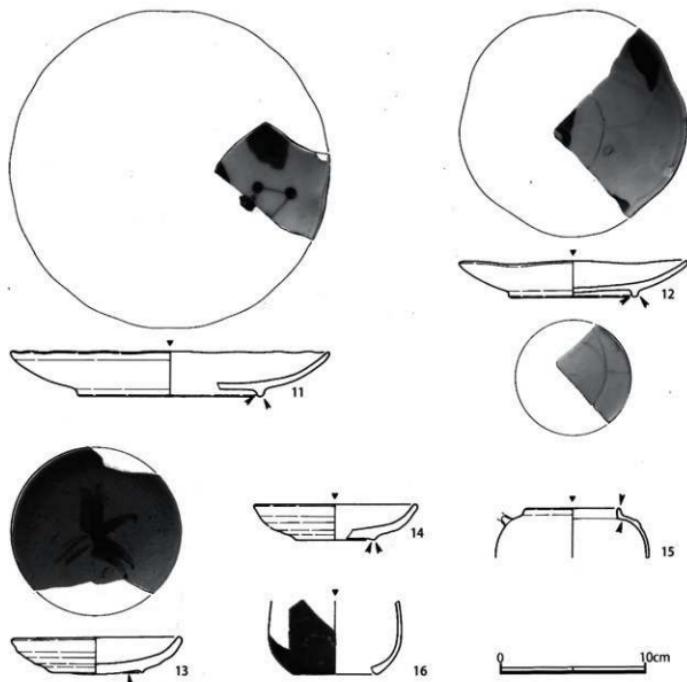
第125図 三ノ町遺跡（第1地点）のトレーンチ配置

0 5m

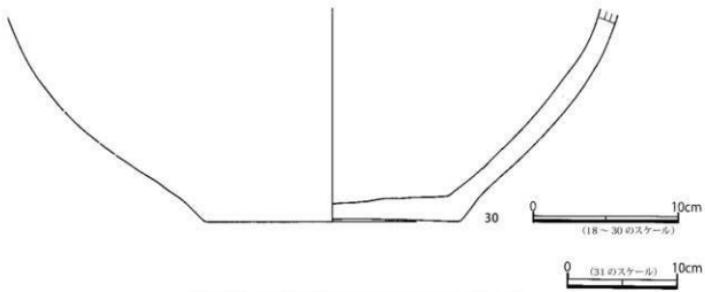
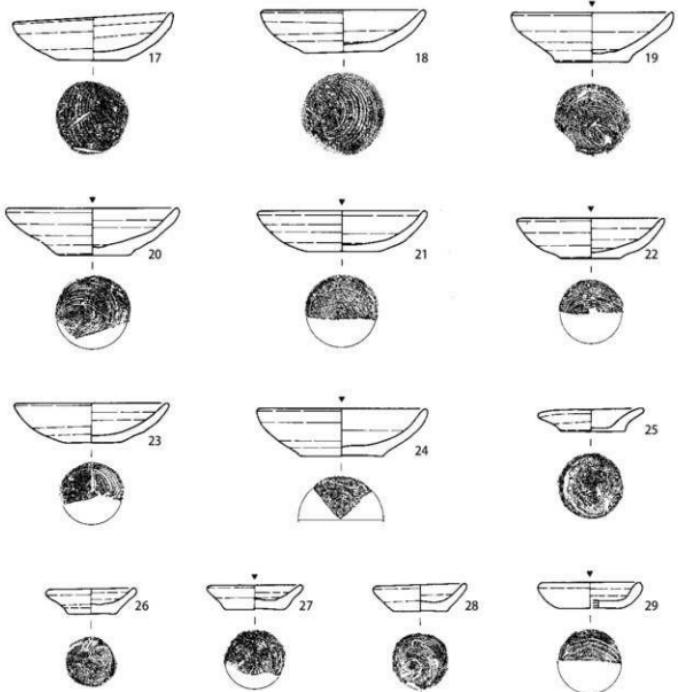


第126図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（1）

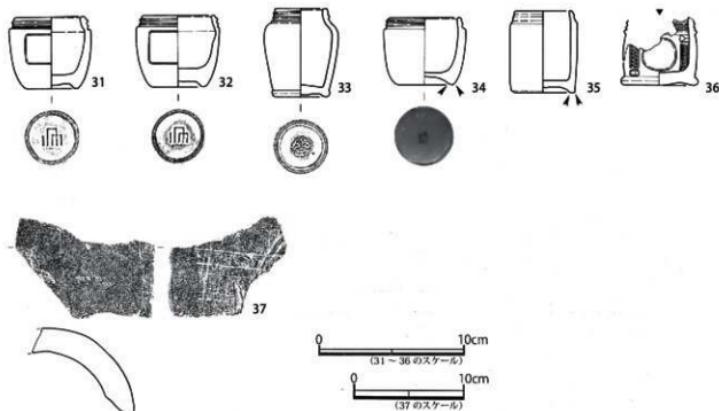
0 10cm



第127図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（2）



第128図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（3）



第129図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（4）



2-8-2 借楽園（常磐公園）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市常磐町1丁目 5977, 5999

調査期間 平成21年10月27日

調査原因 現状変更申請

調査担当 関口慶久

調査概要 借楽園（常磐公園）は天保13（1842）年、第9代水戸藩主徳川斉昭が、弘道館員の修学休養の場として、また「衆と借（とも）に楽しむ」という趣旨のもと、千波湖岸の景勝の地に造成・開園した。大正11年3月8日には国の史跡及び名勝に指定された。今般の調査は、現状変更申請地のうち、特殊部設置箇所および東・西側管路部にトレーニングを4箇所設定し、関東ローム層上面を目標に入力にて掘削した。



第130図 借楽園（常磐公園）の位置

（1）トレーニングの概要

トレーニング1 3.3m × 2.6m。地表下60cmで関東ローム層が検出された。擾乱が随所にみられる。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

トレーニング2 1m × 1m。地表下60cmで関東ローム層が検出された。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

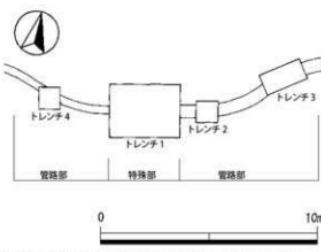
トレーニング3 2m × 1m。地表下40cmで関東ローム層が検出された。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

トレーニング4 1m × 1m。地表下90cmで関東ローム層が検出された。擾乱が著しい。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。
(関口)

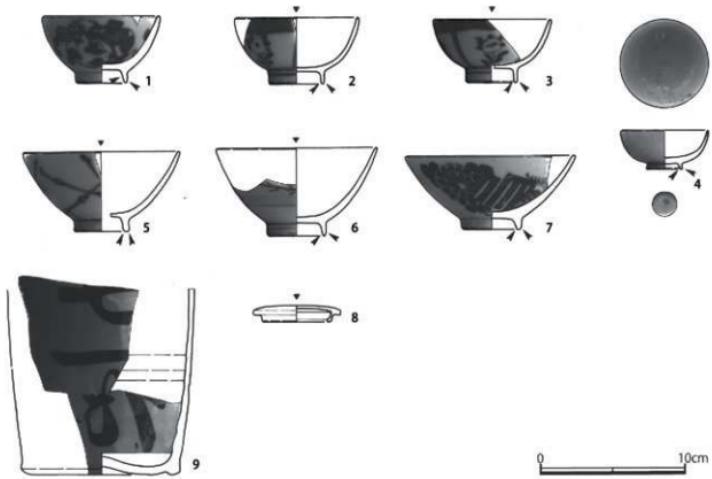


（2）出土遺物

第132図-1～7・9は磁器で、そのうち2・3は瀬戸・美濃産である。6は美濃産で1941～1945年戦時統制期の碗で、底裏に陽刻で統制番号「岐71」とある。7は銅板絵付碗で、磁器は1880年以降である。8は焼締陶器の德利で、「屋」「七一番」と鉄文字が施されている。
(坂本)



第131図 借楽園（常磐公園）の現状変更申請地とトレーニング配置



第132図 倍楽園（常磐公園）出土遺物

第9節 常澄地区

2-9-1 上平遺跡

調査種別 現地踏査

所 在 地 水戸市栗崎町

踏査日 平成21年4月28日

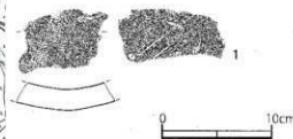
採集者 渡美賢吾

採集経緯 近隣における開発行為の事前協議の際、畠地で採集した。

採集遺物 第134図-1は奈良・平安時代の平瓦である。凸面にヘラ削り調整が施されている。（渥美）



第133図 上平遺跡の位置



第134図 上平遺跡採集遺物



2-9-2 高原遺跡（第3地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市大塙町 1101-1

開発面積 558 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 2 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 澤美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽埋設部分および申請建物部分にトレンチを 2 個所設定し（第 136 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1 m × 2.8 m。遺構確認面までは地表下 40cm の深さである。盛土・表土の直下でローム層に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 1.5 m × 4 m。地表下 40cm まで掘削を行ったところで、本来ローム層直下で確認される固い粘土層が検出された。盛土・表土の堆積状況はトレンチ 1 と同様である。本トレンチを設定した部分では、遺構確認面となるはずの関東ローム層は失われているものと考えられる。トレンチ 1 と同等の掘削深度で確認された土層が異なることは、本来当該地点が傾斜地にあたり、東から西に傾斜していたことが考えられ、ローム層の残存状況もこれに対応するものと判断される。

（澤美）

（2）出土遺物

本地点の南側・北側斜面など、調査区周辺では土師器片・須恵器片などの遺物が表採された。第 137 図-1 も表採された遺物である。縄文土器で、底面には網代痕がみられる。

（色川）

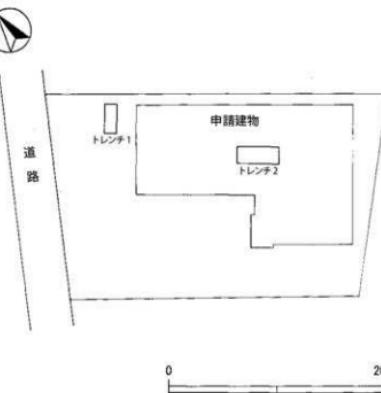
（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

本地点の調査では遺構・遺物は確認されなかったが、調査区周囲の遺物散布状況から、周辺において何らかの土地利用があったことは考えられる。原地形の変化は認められるものの、本地点が当該遺跡の辺縁部にあたることを考慮すれば、遺構密度の希薄な地点であった可能性が高い。よって、今般の土木工事について慎重工事が相当であるとした。

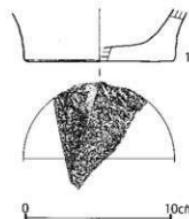
（澤美）



第 135 図 高原遺跡（第3地点）の位置



第 136 図 高原遺跡（第3地点）のトレンチ配置



第 137 図 高原遺跡（第3地点）出土遺物



2-9-3 下入野富士山遺跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市大塙町 1101-1

開発面積 558 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 2 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 源美賀子・米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを 6 箇所設定し（第 139 図）、関東ローム層上面を目標に人力で掘削を行った。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1m × 2m。地表下 50cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、豎穴住居跡 1 軒（SI01）が検出され、帰属年代解明のため掘り込みを行ったところ、土師器片が多数出土したことから、SI01 は平安時代中期の住居跡であると判断される。

トレンチ 2 1m × 2m。地表下 50 ~ 70cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

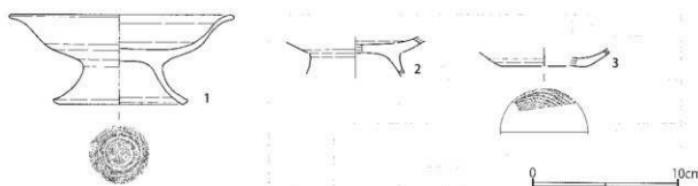
トレンチ 3 1m × 3m。地表下 40cm で関東ローム層に到達した。精査の結果、豎穴住居跡 1 軒（SI02）が検出され、帰属年代解明のため掘り込みを行ったところ、土師器環および多数の土師器片が出土したことから、SI02 は平安時代中期の住居跡と判断される。

トレンチ 4 1m × 2m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ 5 1m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ 6 1m × 2m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。（米川）

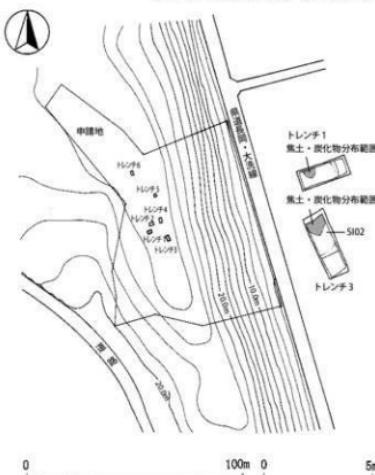
（2）出土遺物



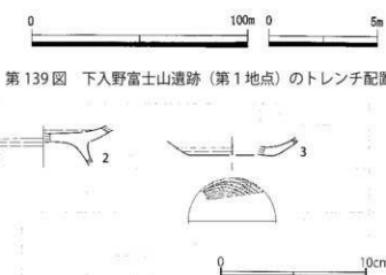
第 140 図 下入野富士山遺跡（第1地点）出土遺物



第 138 図 下入野富士山遺跡（第1地点）の位置



第 139 図 下入野富士山遺跡（第1地点）のトレンチ配置





第140図・1～3はトレンチ3で検出されたSiO₂出土の土師器である。1・2は高台付环、3は皿で、時期は11世紀に位置づけられる。
(渥美)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

今回の調査で当該遺跡が台地の縁辺部にまで及ぶことが確認され、かつ本調査地点は遺構密度が高い部分に該当することが明らかとなった。このことから、今般の開発計画を実施する場合には、本発掘調査が必要であると判断された。
(米川)

第10節 内原地区

2-10-1 遠台遺跡（第4地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市杉崎町721-3

開発面積 361.46 m²

調査期間 平成21年4月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第142図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5m×5m。遺構確認面は地表下40cm程度の深さである。表土層たる耕作土層より数点の土器片が出土したが、その他には、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 1.5m×4.5m。耕作土層直下に黒色土層が厚く堆積し、流れ込みと思われる遺物細片数点が出土した。この黒色土層下の褐色土層（地表下70cm）が遺構確認面と考えられるが、遺構・遺物は確認されなかった。なお褐色土層下には白色粘土層がみえ、湧水が確認されたので、この下層に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低い。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

耕作土層から数点の遺物が確認された以外は、埋蔵文化財は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。
(渥美)





2-10-2 舟塚古墳（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市大足町字舟塚 1290-2

開発面積 1,160 m²

調査期間 平成 22 年 3 月 29 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 舟塚古墳は、桜川左岸の標高 41 ~ 42 m の台地上に立地する舟塚古墳群内に存在する前方後円墳である。当該古墳は、その規模と埴形からこの古墳群における主墳と考えられる。墳丘は西側を道路によって大きく削られており、残存部分から推定される規模は、全長 75 m、後円部径 35 m、後円部高 6 m である。墳丘は 2 段築成であり、墳頂平坦部径 10 m である。墳頂部には忠魂碑が置かれている。

今般の調査は、開発対象地のうち申請建物部分にトレンチを 1 箇所設定し（第 144 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に、重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 2m × 5m、地表下 45cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、舟塚古墳の周囲が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、事業者との協議の結果、盛上を行うことで 30cm 以上の保護層が確保できることがとなったことから、工事立てが相当であるとした。

（米川）



第 143 図 舟塚古墳（第1地点）の位置



第 144 図 舟塚古墳（第1地点）のトレンチ配置

2-10-3 田島古墳群（第1地点）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市三野輪町98-2, 大足町1526-1, 1508

開発面積 約6,000 m²

調査期間 平成22年3月15日～18日

調査原因 那珂川沿岸農業水利事業に伴う仮設道路敷設

調査担当 米川暢敬

調査概要 田島古墳群は、田島町の和光院の北側に広がる標高60～77mの舌状台地一帯に位置し、東西750m、南北500m程の範囲に、前方後円墳3基、円墳40基が存在する。当該古墳群はその立地から、東部、中央部、西部の3つの支群に分けられ、前述の3基の前方後円墳は全て東部支群に含まれる。このうち、本調査地点は西部支群内に位置する。

今般の調査では、開発対象地内にトレーニングを13箇所設定し（第146図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に、1～6トレーニングにおいては重機を用いて、7～13トレーニングにおいては人力にて掘削を行った。

（1）トレーニングの概要

トレーニング1 1m×2m。地表下55cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第24号墳の周囲が検出され、確認面において覆土中から埴輪片が出土した。

トレーニング2 1m×2m。地表下60cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第24号墳の周囲が検出され、確認面において覆土中から埴輪片が出土した。

トレーニング3 1m×4m。地表下55cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第28号墳の周囲が検出された。遺物は確認されなかった。

トレーニング4 1m×4m。地表下45cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。

トレーニング5 1.1m×3m。地表下40cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、堅穴住居跡と思しき方形のプラン（SI01）、溝跡1条（SD01）が検出された。遺物は確認されなかった。

トレーニング6 1m×2m。地表下80cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、堅穴住居跡と思しき円形のプラン（SI02）が検出された。SI02の確認面において、弥生土器が1点出土した。

トレーニング7 1m×2m。地表下80cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。

トレーニング8 1m×2m。地表下25cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。

トレーニング9 1m×2m。地表下45cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、遺構は確認されなかったが、トレーニング内から土師器片1点、須恵器片1点が出土した。

トレーニング10 1m×2m。地表下35cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。

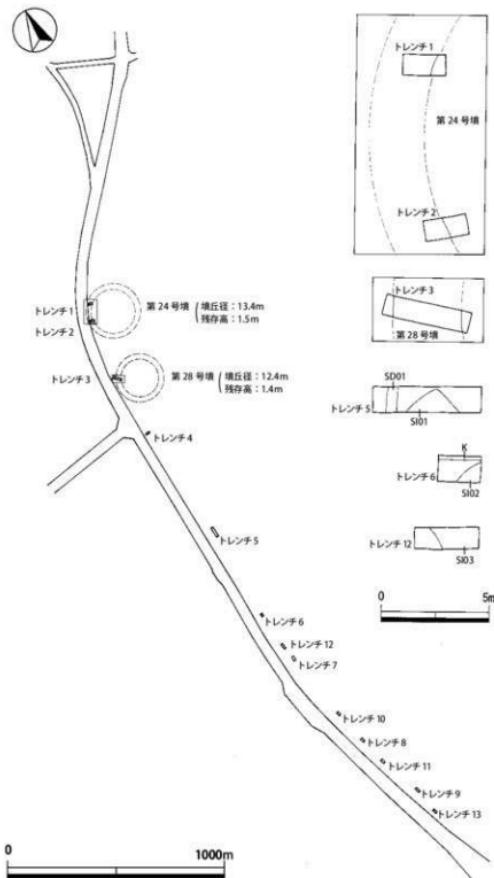
トレーニング11 1m×2m。地表下25cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。

トレーニング12 1m×3m。地表下1.0mで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、堅穴住居跡と思しき円形のプラン（SI03）が検出された。SI03の確認面からは、弥生土器片が出土した。

トレーニング13 1m×2m。地表下30cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構、遺物は確認されなかった。



第145図 田島古墳群（第1地点）の位置



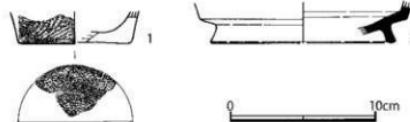
第146図 田島古墳群（第1地点）のトレンチ配置・遺構検出状況



(2) 出土遺物

第147図-1はトレンチ12のSI03上層出土の弥生土器である。RをS巻きした原体(軸不明)による繩文が施され、底面には布目痕がみられる。時期は弥生時代後期に位置付けられる。2は須恵器の有台坏で、時期は8世紀後半である。

(色川)



第147図　田島古墳群（第1地点）出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認されたが、保護措置が取られることとなった。

(米川)

2-10-4 一戦塚遺跡（第1地点第2次）

調査種別 試掘調査

所 在 地 水戸市牛伏町 181-1

開発面積 923.59 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 9 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 源美賢吾

調査概要 本地点では平成 20 年 6 月に墓地造成開発計画に基づく試掘調査を実施しており（第1次）、トレンチ 1～3 で奈良・平安時代のものとみられる竪穴建物跡 3 軒（SI01～03）が確認された。トレンチ 4・5 では遺物は出土したものとの遺構は確認されなかった。

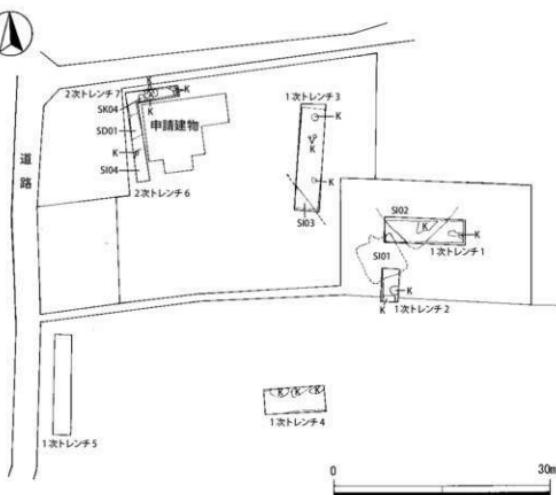
今般の調査は、事業計画が自己用住宅建設へ変更されたことに伴う再試掘調査である（第2次）。開発予定地のうち浄化槽埋設部分にトレンチを 1 箇所設定し（トレンチ 6・7、第149図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 6 1.5m × 11m。北側の一部が後世の搅乱を受けており、やや確認面を深く設定せざるを得なかつたが、概ね地表下 20cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチの南側で竪穴建物跡（SI04）が確認され、出土遺物から古墳時代前期のものと判断される。またその北側で確認された溝状遺構（SD01）では、遺構の性格把握のためサブトレンチを設定したが、遺物の出土が少なく、またすべてが覆土上層からの出土であったため帰属年代の確定に至らなかつた。



第148図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）の位置



第149図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）のトレンチ配置



トレンチ7 1.5m × 5mで、トレンチ6からL字状に伸びて設定した。西側の一部が後世の擾乱を受けており、やや確認面を深く設定せざるを得なかったが、概ね地表下20cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチ6との交点付近では、焼土の広がる土坑(SK04)が確認されたほかは、すべてイモ穴・木の根等による現代の擾乱と考えられる。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できること、浄化槽埋設位置が変更となったことから、工事立会が相当であるとした。
(渥美)

2-10-5 息栖台遺跡(第1地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市鶴瀬町1119-2, 1122-4

開発面積 260.9 m²

調査期間 平成21年6月4日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第151図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m × 3m。地表下75cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ2 2m × 3m。地表下75cmで遺構確認面である関東ローム層上面に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。
(米川)

(2) 出土遺物

第152図-1はトレンチ1の擾乱から出土した三足もしくは四足盤である。時期は9世紀～10世紀に位置付けられる。
(色川)

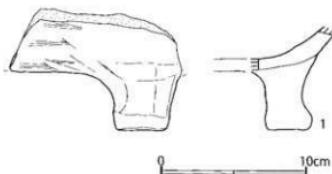
(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかつたことから、慎重工事が相当であるとした。



第151図 息栖台遺跡(第1地点)のトレンチ配置

(米川)



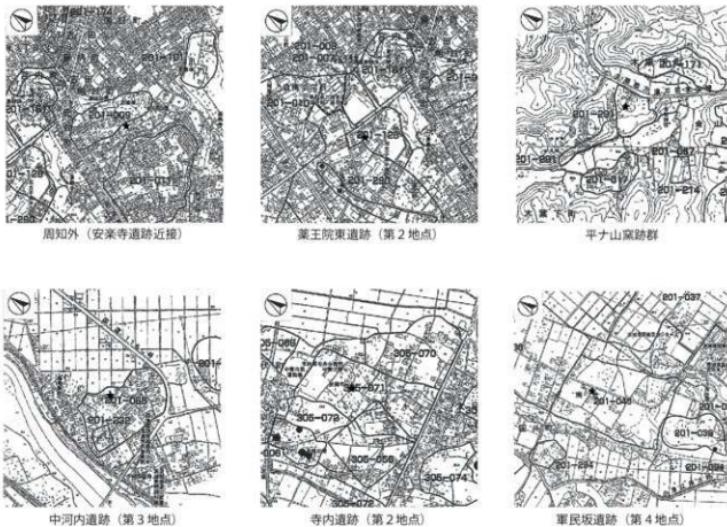
第152図 息栖台遺跡(第1地点)出土遺物



第3章 平成20年度調査の追加報告（補遺）

平成20年度に実施した調査のうち、記録保存を目的とした軍民坂遺跡（第4地点）の本発掘調査の詳細な報告を『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録できていなかったため、本書において報告する。

また、周知外（安楽寺遺跡近傍）、薬王院東遺跡（第2地点）、中河内遺跡（第3地点）、寺内遺跡（第2地点）において実施した試掘調査及び平ナ山窯跡群で採取した遺物についても、前掲報告書に収録できていなかったため、本書において報告する。周知外（安楽寺遺跡近傍）、薬王院東遺跡（第2地点）、中河内遺跡（第3地点）、寺内遺跡（第2地点）、平ナ山窯跡群、軍民坂遺跡（第4地点）の位置は、第153図のとおりである。



第153図 平成20年度追加報告遺跡の位置



3-1-1 周知外（安楽寺遺跡近接）

所在地 水戸市元吉田町 2056

調査概要 個人住宅建築に基づく試掘調査である。トレンチを 1箇所設定したが、遺構は検出されなかった。遺物は表土層から縄文土器片等が数点出土した。

出土遺物 第 154 図-1～3 は縄文土器である。1 は押文が施され、時期は縄文時代中期後半の「阿玉台式」に位置付けられる。4 は弥生土器で、縄文および縄文原体による刺突文が施されている。時期は弥生時代後期「二軒屋式」に位置付けられる。5 は土師器の無台杯で、時期は 10 世紀以降である。

(開口)

(色川)



第 154 図 周知外（安楽寺遺跡近接）出土遺物

3-1-2 薬王院東遺跡（第 2 地点第 2 次）

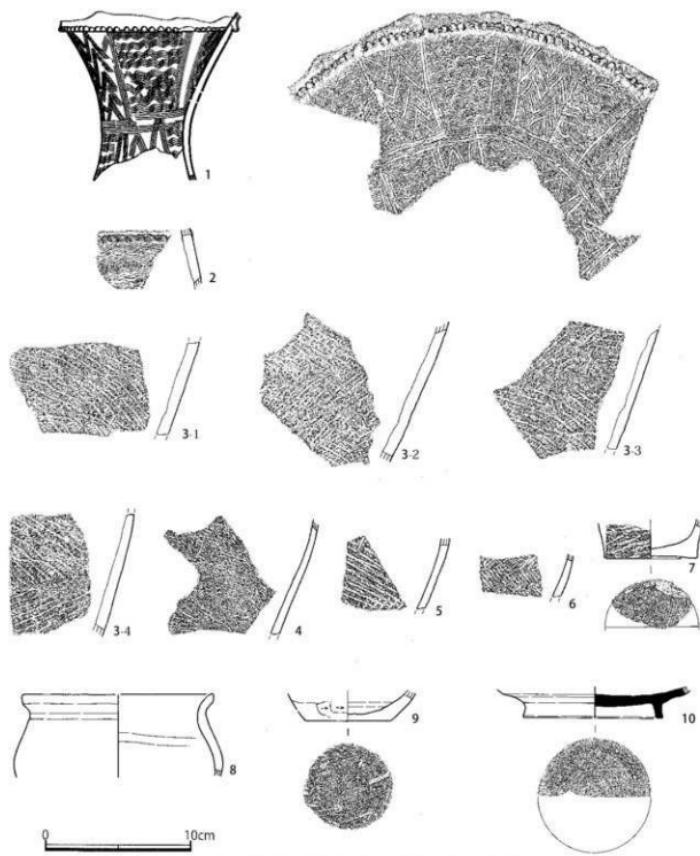
所在地 水戸市元吉田町字東組 573-2, -10, -11, -12

調査概要 宅地造成工事に基づく試掘調査である。設定トレンチは 2 箇所。トレンチ 1 では遺構は確認されなかつたが、トレンチ 2において竪穴建物跡 4 棟 (SI01～04) が確認された。SI01・02 は弥生時代後期、SI03・04 は 8 世紀後葉～9 世紀前葉に位置付けられる。

(開口)

出土遺物 第 155 図-1・3-4 は SI01, 3-1～3・4・5 は SI02, 6・7 は SI03 出土。2 はトレンチ 1 出土の弥生土器である。1 は複合口縁を呈し、複合部無文、下端に棒状工具による押捺がみられる。頂部は柳歛状工具（4 本）による縦位→横位区画・波状文・綾杉文が施されている。2 は 1 条以上の隆帯および柳歛状工具（5 本）による波状文が施されている。3-1～4 は同一個体の胸部片と考えられるが、接点はない。付加条第 2 種 L × L と R × R で羽状縄文が施されている。7 は縄文 L を S巻き（軸不明）した原体による縄文が施され、底面には布目痕がみられる。時期は、1～7 全て弥生時代後期後半「十王台式」に位置付けられる。8 はトレンチ 1, 9 はトレンチ 2 表土から出土した土師器の裏である。時期は 8 世紀後半である。10 は SI03 出土の須恵器の有台杯である。時期は 8 世紀後半である。

(色川)



第155図 菜王院東遺跡（第2地点第2次）出土遺物



3-1-3 平ナ山窯跡群

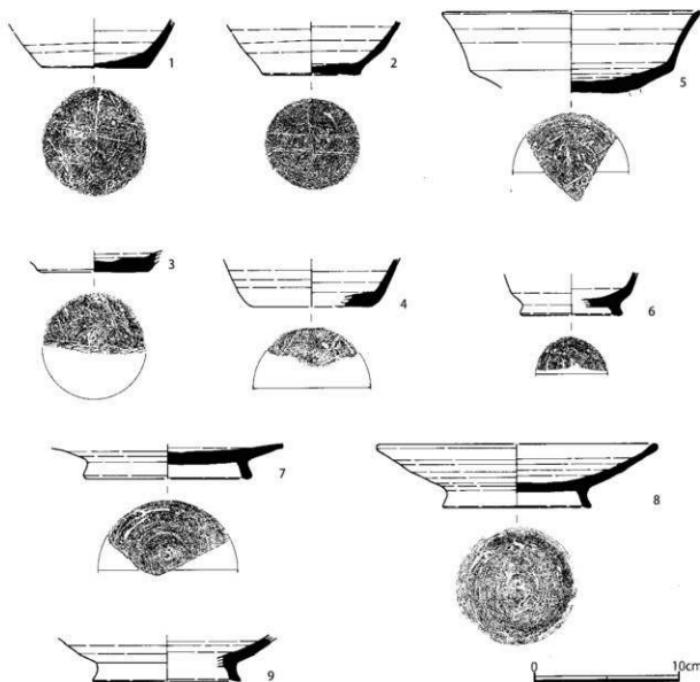
所在地 水戸市木葉下町789-1外

踏査日 平成21年1月9日

採集者 濱美賀吾・金子千秋

採集経緯 砂利岩石採取に伴う事前の現地踏査。集中して採集できる地点が2地点程あった。

採集遺物 第156図-1~9は須恵器である。1~4は無台壺で、底面にはヘラ記号がみられる。時期は1・2が9世紀後半、3・4が9世紀前半である。5・6は有台壺で、底面にはヘラ記号がある。いずれも9世紀前半である。7~9は有台皿で、いずれも9世紀後半である。
(浜美)



第156図 平ナ山窯跡群採集遺物

3-1-4 中河内遺跡（第3地点）

所在地 水戸市中河内町字中坪194-1, -3~6

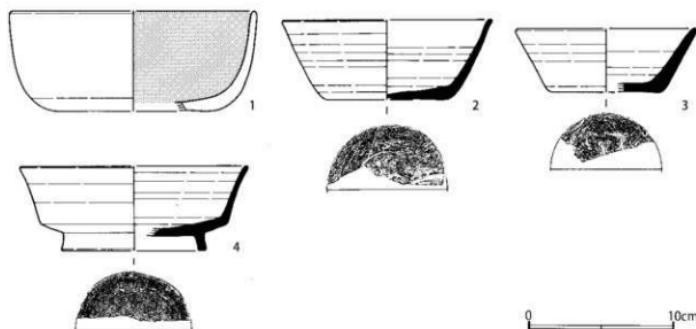
調査概要 個人住宅建築に基づく試掘調査である。設定トレンチは1箇所。地表下90cmで遺構確認面たる暗褐色



色土層が検出され、8世紀後半代～10世紀前半代にかけての土師器・須恵器が一定量出土したが、遺構と認定できるものは確認されなかった。

出土遺物 第157図-1は土師器で内面黒色処理が施されている。2～4は須恵器の环で、3・4は底面にヘラ記号がみられる。時期は、1・2が8世紀末～9世紀前半、3が8世紀後半、4が8世紀中葉に位置付けられる。

(渥美)



第157図 中河内遺跡（第3地点）出土遺物（アミ部分は黒色処理）

3-1-5 寺内遺跡（第2地点）

所 在 地 水戸市大足町字寺前 1189-3～5, 1190-1・2

調査概要 墓地造成工事に基づき、2度にわたり試掘調査を行った(第1・2次)。トレンチは1次調査で2箇所(トレンチ1・2)、2次調査で3箇所(トレンチ3～5)の計5箇所に設定した。遺構は、トレンチ1・3・4において掘跡2条が、トレンチ5において掘跡の他、性格不明土坑6基、ピット20基が検出された。遺物は、古墳時代～古代、中世、近現代の土器片等がそれぞれのトレンチから出土した。

(圓口)

出土遺物 第158図-1は須恵器の長頸瓶で、平安時代に位置付けられる。2は中世以降の内耳鉢、3は近世以降の土器の鉢である。4は粘板岩製の砥石である。

(坂本)



第158図 寺内遺跡（第2地点）出土遺物

3-1-6 重民坂遺跡（第4地点）

所在地 水戸市上国井町 3585-1

66 m

調査期 平成 21 年 1 月 22 日～3 月 19 日

検出遺構：竪穴建物跡1（古代1）、掘立柱建物跡5（古代1、中世4）、土坑49・ピット1（縄文）

出土遺物 繩文土器 土器片斷 石器 磚 土師器 須惠器

調查相當 濡首賢基

調査概要 試掘調査で確認されていた、縄文時代中期の竪穴状遺構2基と土坑3基を対象とするとともに、申請建物により影響を受ける範囲を調査範囲とした(第158図)。なお、遺構番号については、概報(源美 2011)では3桁番号で示したが、その後の整理過程で2桁番号に変更した。

(1) 中世以降の遺稿

第2号掘立柱建物跡（SB02）

位置 調査区の中央からやや南側の位置で検出された。

規模 梁行 2.3 m, 梁間 1.1 ~ 1.3 m。柱の掘方は、いずれも田形を呈し、直徑が 0.2 ~ 0.64 m である(第 5 表)。

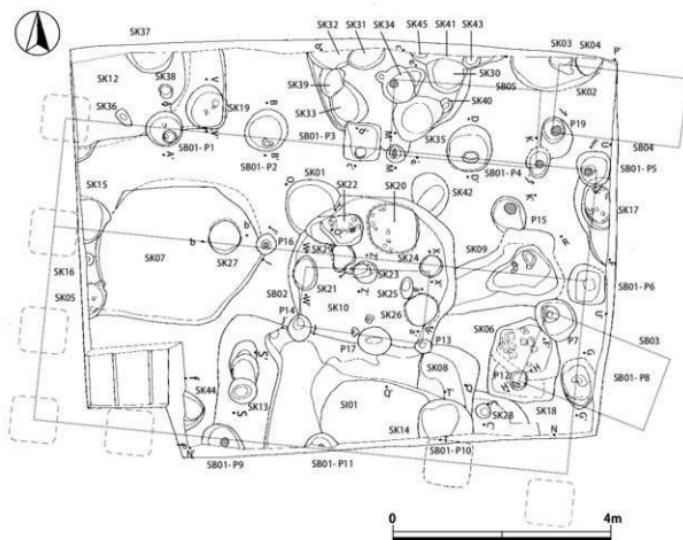
主軸方位は N.70° W.

構造：柱間2間、梁間1間の側柱式獨立柱建物である。

桁行の柱間は、北側の列が西側から東側に向かって4尺(1.2m)と2.6尺(0.8m)で、南側の列は西側から東側に

第5表 SB02柱穴一覽表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡 (アリ) 径 (m)
SK21	0.42	0.64	0.48	—
SK23	0.44	0.4	1.2	—
P13	0.3	0.2	—	0.1
P12	0.32	0.25	—	—
P14	0.42	0.5	0.64	0.2



第 159 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）の遺構配置



向かって 4.6 尺 (1.4 m) と 3 尺 (0.9 m) となっている。梁間の柱間は、西側が 3.6 尺 (1.1 m) で東側が 4.3 尺 (1.3 m) となっている。柱痕跡 (7 列) が確認できたのは P14 のみで直径 0.2 m であった。

時期 SI01 を切る形で造営されているが、SB01 と重複しており、柱間も一定せず、柱穴の規模も SB01 と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第3号掘立柱建物跡 (SB03)

位置 調査区の南東で検出された。

規模 桁行 1.5 m 以上、梁間 1.4 m。柱の掘方は、円形を呈し、直径は 0.3 ~ 0.35 m である (第6表)。主軸方位は N-55° -W。

構造 桁行 2 間、梁間 1 間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は不明だが、梁間の柱間は 4.6 尺 (1.4 m) と推定される。柱痕跡 (7 列) が確認できたのは P12 のみで直径 0.1 m であった。

時期 SB01 と重複し、柱穴の規模や柱間も SB02 や SB04, SB05 と同様に SB01 と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第6表 SB03 柱穴一覧表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡 (7列) 径 (m)
P7	0.3	0.31	0.14	
P12	0.32	0.35	0.11 ~ 0.14	0.1

第4号掘立柱建物跡 (SB04)

位置 調査区の北東で検出された。

規模 桁行 1.1 m 以上、梁間 1.35 m と推定される。柱の掘方は、円形を呈し、直径が 0.31 ~ 0.48 m である (第7表)。主軸方位は N-68° -W。

構造 SB05 と同様の桁行 2 間、梁間 1 間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は不明だが、梁間の柱間は、4.5 尺 (1.35 m) と推定される。柱痕跡 (7 列) が確認できたのは P19 のみで直径 0.18 ~ 0.2 m であった。

時期 SK3 から 8 世紀代とみられる端部折り返しの須恵器窯蓋が出土しているが、流れ込みと判断した。SB01 とは重複しないが、同時期の所産とするには近接しすぎており、柱穴の規模や柱間が SB02 や SB03, SB05 と同様に SB01 と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第7表 SB04 柱穴一覧表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡 (7列) 径 (m)
SK3	0.31 13.1	0.4	0.42	
P19	0.42	0.48	0.22	0.18 ~ 0.2

第5号掘立柱建物跡 (SB05)

位置 調査区の北側で SB04 に隣接する形で検出された。

規模 桁行 2.7 m、梁間 1.4 m。柱の掘方は、いずれも円形を呈し、直径は 0.32 ~ 0.7 m である。主軸方位は N-70° -W。

構造 桁行 2 間、梁間 1 間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は、南側が西側から 4.5 尺 (1.35 m) と推定され、梁間の柱間は、西側が 4.6 尺 (1.4 m) と推定される。柱痕跡 (7 列) は 3 基の柱穴で確認され、直径 0.07 ~ 0.17 m であった。

時期 SB01 と重複し、柱穴の規模や柱間も SB02 や SB03, SB04 と同様に SB01 と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。
(川口)

第8表 SB05 柱穴一覧表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡 (7列) 径 (m)
SK34	0.6	0.7	—	0.15
P18	0.45	0.58	0.42 ~ 0.45	0.15
P20	0.35	0.32	0.42	0.07 ~ 0.17

(2) 古代の遺構

第1号竪穴建物跡 (SI01)

位置 調査区の南側で検出された。半分以上が調査区外へ伸びている。

規模 東西長 4.8 m、南北長 2.5 m 以上、深さは 0.38 ~ 0.45 m。主軸方位は N-18° -E。竪は後世の擾乱によ



り袖部の大半が失われていたが、推定規模は東西長 1.35 m、南北長 1.12 m である。火床面は東西長 0.5 m、南北長 0.6 m である。

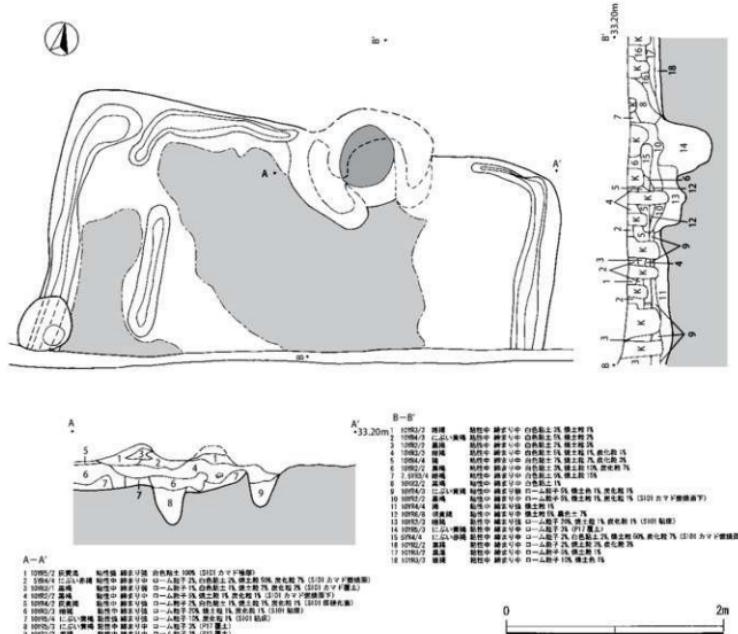
構造 穹式建物である。柱穴は未検出であるが、壁溝と間仕切り溝の可能性がある溝が南北方向に検出された。壁溝の規模は西側が幅 0.12 ~ 0.38 m、北側が 0.11 ~ 0.22 m、東側が 0.14 ~ 0.24 m で、間仕切り溝の規模は 0.21 ~ 0.25 m であった。床は竈正面から北西部にかけて面的な硬化がみられ、間仕切り溝と西側の壁溝の間も面的に硬化していた。

時期 概報（渥美 2011）では、平安時代前葉頃と理解したが、その後の整理作業の進展により、SB01 に切られ、SB01 の一部の柱穴から 7 世紀末から 8 世紀代の須恵器が出土していること、主軸方位が真北ではなく、北東方向に傾く斜め方位であることから 7 世紀後半に造営され、廃絶したと見解を変更する。

第 1 号掘立柱建物跡 (SB01)

位置 調査区の中央から南側にかけて検出された。

規模 柱行 9.9 m、梁間 5.6 m。柱の掘方は、円形もしくは隅丸方形を呈し、直徑(一辺)が 0.65 ~ 0.95 m で(第 9 表)、建物の北側から 2 番目の側柱列に並行する形で中央に直徑 0.38 ~ 0.42 m の円形の間仕切りとみられる柱穴が 2 基確認されている。主軸方位は N-70° -W。



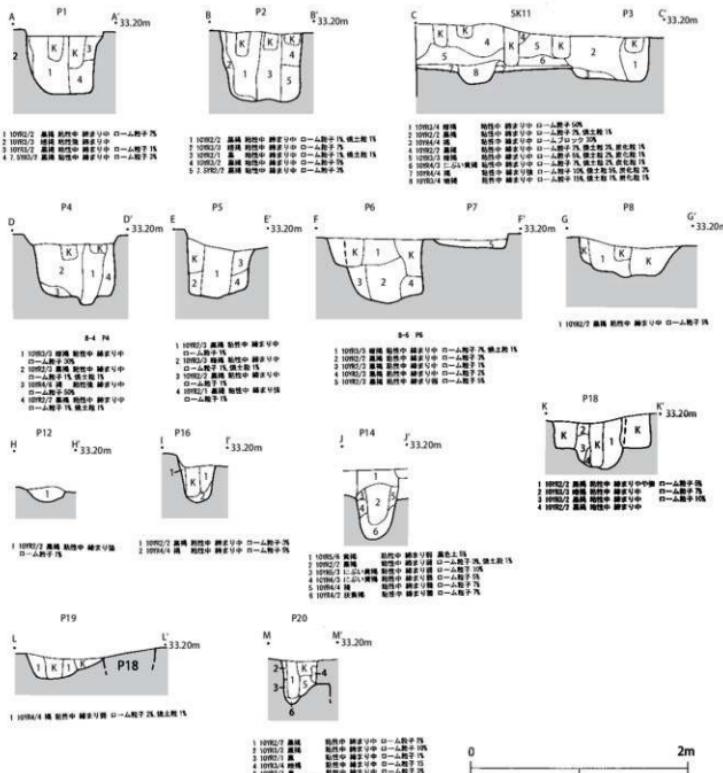
第 160 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 1 号竪穴建物跡 (SI01)

構造 衍行5間、梁間3間の側柱式掘立柱建物である。衍行の柱間は、西側2間分が6尺(1.8m)で、東側3間分が7尺(2.1m)である。梁間の柱間は、北側1間分が7尺(2.1m)で南側2間分が6尺(1.8m)である。間仕切りとみられる柱穴の柱間は西側から東側に向かって11尺(3.3m)、12尺(3.6m)、10尺(3.0m)となっている。柱痕跡(アーチ)が確認できたのはP2・P4・P5・P9・P11・P16・SK24で直径0.1~0.26mであった。

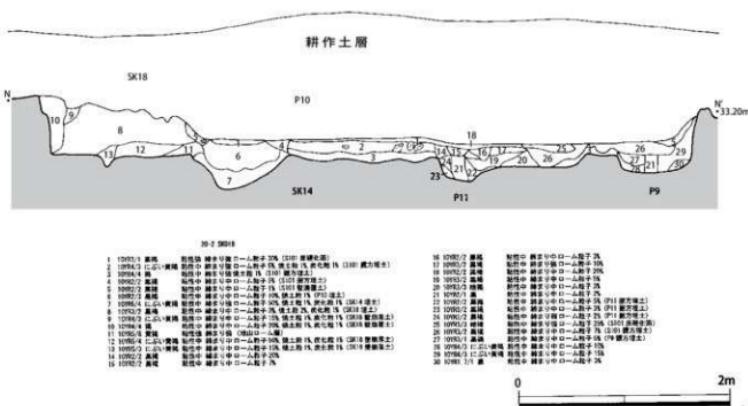
時期 櫻報(潤美 2011)では、柱穴から9世紀中葉

第9表 SB01柱穴一覽表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (7月)	柱根跡 径 (m)
SB01-P1	0.78	0.65	0.6	—
SB01-P2	0.8	0.78	0.65	0.2~—
SB01-P3	0.68	0.7	0.4	—
SB01-P4	0.84	0.86	0.55~0.65	0.15~0.2
SB01-P5	0.65	0.65	0.6~0.65	0.25~0.3
SB01-P6	0.7	0.74	0.52~0.6	—
SB01-P7	0.65	0.92	0.6~0.8	0.4
SB01-P8	0.65	0.65	0.65以上	0.12
SB01-P11	0.63	0.42±0.1	0.6	0.1
SK4	0.38	0.38	0.45	0.1
SK4#	0.42	0.4	—	0.12



第 161 図 重民板遺跡（第 4 地点）掘立柱建物跡柱穴及 7F ピット



第162図 軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡柱穴及び土坑

頃の須恵器無台环が出土しているとしたが、その後の整理作業の進展により、SI01を切る形で造営され、柱穴からは7世紀後半の須恵器環蓋や8世紀代の須恵器無台环・有台环・長頭瓶等が出土していることから、8世紀以降に造営されたと見解を変更する。

(川口)

(3) 古代の遺物

古代の遺物は、第1号掘立柱建物跡(SB01)及び第1号堅穴建物跡(SI01)、土坑(SK11・SK12)、遺構外から古墳時代終末期～奈良時代にかけての土師器・須恵器が出土した。小片が多く、國化できたものは、SB01及びSB01・SB04の柱穴、SI01、SK11・SK12・遺構外より出土した須恵器のみである(第164図)。第164図1～8はSB01から出土したもので、1は長頭瓶の口縁部で胎土・色調から在地産ではなく東海系のものと考えられる。2は环蓋の摘み部である。3は無台环の底部から休部にかけての破片で、丸底で二次底部面を持つことから8世紀初頭頃とみられる。4は有台环の破片で、台渡里庵寺跡(第26次)T5-001号遺構出土器に類例があり(川口・新垣・色川 2007)、7世紀第4四半期頃とみられる。5は环蓋で内面にかえりを有し、市内に所在する山田窯跡群2号窯跡の製品と酷似することから時期は7世紀第4四半期である。6も环蓋であるが、端部が外反する形で折り返している特徴から7世紀末から8世紀初頭頃のものとみられる。7・8は無台环で丸底で二次底部面を持つことから8世紀初頭頃のものとみられる。9・10はSI01から出土したもので、9は环蓋の摘み部で、10は無台环の底部である。11～13は土坑から出土したもので、11はSK12から出土した有台环の底部で、4と同様、7世紀第4四半期頃とみられる。12はSK11から出土した無台环の底部、13はSK3から出土した环蓋、14は遺構外より出土した短頭瓶の底部である。

(川口)

(4) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、土坑40基・ピット1基が検出された。個々の規模等の詳細は、第10表のとおりである。土坑・ピットは円形・不整円形・椭円形のものが多いが、遺物量の多かったSK07・10・11・12は他の土坑と比べると倍以上の規模を示している。SK07・SK12のように覆土の堆積状況及び断面からプラスコ状土坑であったと考えら

第10表 軍民板遺跡（第4地点）縄文時代遺構一覧表

遺構名	種別	構造・形状	規模	備考
1号土壙(SK001)	土壙	横円形	東西1.1m、南北1.1m以上、深さ0.15m	SK10と並用
2号土壙(SK002)	土壙	横円形	東西1.85m、南北0.9m以下、深さ0.3m	SK5・P42と並用
4号土壙(SK004)	土壙	不規則	東西0.5m、南北0.6m以下、深さ0.65m	SK02と並用
5号土壙(SK005)	土壙	円形	東西0.5m以上、南北0.7m、深さ1.2m	SK07と並用
6号土壙(SK006)	土壙	円形	東西1.4m、南北1.6m、深さ0.65m	P12と並用
7号土壙(SK007)	土壙	円形	東西1.5m、南北1.5m、深さ0.65m	SK05・15・16・27、P16と並用
8号土壙(SK008)	土壙	不規則	東西1.2m、南北1.5m以上、深さ0.25～0.35m	SK14・SK01と並用
9号土壙(SK009)	土壙	不規則形	東西1.2m、南北0.9m、深さ0.3～0.45m	1回の掘り直し
10号土壙(SK10)	土壙	不規則形	東西2.15m、南北2.0m以上、深さ0.3m	903・20・23・25・26、SK02と並用
11号土壙(SK11)	土壙	不規則	東西3.6m、南北1.7m以上、深さ0.3～0.45m	SK01・SK10と並用
12号土壙(SK12)	土壙	不規則	東西2.5m、南北1.6m以上、深さ0.3～0.6m	SK19・36・37・38と並用
13号土壙(SK13)	土壙	円形	東西0.5m、南北0.5m、深さ0.47m	2回の掘り直し
14号土壙(SK14)	土壙	円形	東西1.0m、南北0.7m以上、深さ0.35m	SK08・18、SK01と並用
15号土壙(SK15)	土壙	円形	東西0.5m、南北0.8m、深さ1～1.04m	SK07・16と並用
16号土壙(SK16)	土壙	一	東西0.25m以上、南北0.75m以上、深さ0.7m	SK05・07・15と並用
17号土壙(SK17)	土壙	円形	東西0.6m、南北1.5m、深さ1.00m	SK01と並用、1回の掘り直し
18号土壙(SK18)	土壙	一	東西1.0m以上、南北0.8m以上、深さ0.55m	SK01と並用、1回の掘り直し
19号土壙(SK19)	土壙	不規則形	東西0.7m、南北0.6m、深さ0.4～0.42m	SK12と並用
20号土壙(SK20)	土壙	円形	東西0.9m、南北1.0m、深さ0.75～0.85m	SK10と並用
22号土壙(SK22)	土壙	不規則	東西0.9m、南北0.9m、深さ0.5m	SK01・10・29と並用
25号土壙(SK25)	土壙	横円形	東西0.2m、南北0.4m	SK10と並用
26号土壙(SK26)	土壙	円形	東西0.42m、南北0.4m、深さ0.38m	SK10と並用
27号土壙(SK27)	土壙	円形	東西0.6m、南北0.55m、深さ0.55m	SK07と並用
28号土壙(SK28)	土壙	円形	東西0.3m、南北0.3m、深さ0.22m	SK18と並用
29号土壙(SK29)	土壙	不規則	東西0.45m、南北0.45m以上	SK10・22と並用
30号土壙(SK30)	土壙	円形	東西0.75m、南北0.65m以上	SK11・41と並用
31号土壙(SK31)	土壙	円形	東西0.7m、南北0.4m以上、深さ0.2m	SK11・32と並用
32号土壙(SK32)	土壙	円形	東西0.85m、南北0.35m以上、深さ0.1m	SK11・31・39と並用
33号土壙(SK33)	土壙	横円形	東西0.7m、南北0.9m以上、深さ0.4m	SK11・39、SK01と並用
35号土壙(SK35)	土壙	横円形	東西0.9m、南北0.85m、深さ0.9～0.95m	SK11・40・80と並用
36号土壙(SK36)	土壙	横円形	東西0.2m、南北0.35m	SK12と並用
37号土壙(SK37)	土壙	不規則形	東西0.8m、南北0.4m以上、深さ0.55m	SK12と並用
38号土壙(SK38)	土壙	不規則形	東西0.6m、南北0.3m	SK12と並用
39号土壙(SK39)	土壙	円形	東西0.5m、南北0.45m以上	SK11・33・37と並用
40号土壙(SK40)	土壙	円形	東西0.2m以上、南北0.3m	SK11・35と並用
41号土壙(SK41)	土壙	円形	東西1.75m以上、南北0.25m以上	SK30・43・45と並用
42号土壙(SK42)	土壙	円形	東西0.42m、南北0.32m、深さ0.5m	SK10と並用
43号土壙(SK43)	土壙	円形	東西0.42m、南北0.22m、深さ0.45～0.55m	SK30・41と並用
44号土壙(SK44)	土壙	不規則形	東西0.6m、南北0.7m、深さ0.65m	SK30・41と並用
45号土壙(SK45)	土壙	横円形	東西0.3m、南北0.15m以上、深さ0.18m	SK11・41と並用
15号ピット(P15)	ピット	不規則形	東西0.6m、南北0.55m	

れるものもあるが、SK10・SK11はが跡が検出されていないものの、堅穴建物跡として利用されていた可能性も考えられる。

(川口)

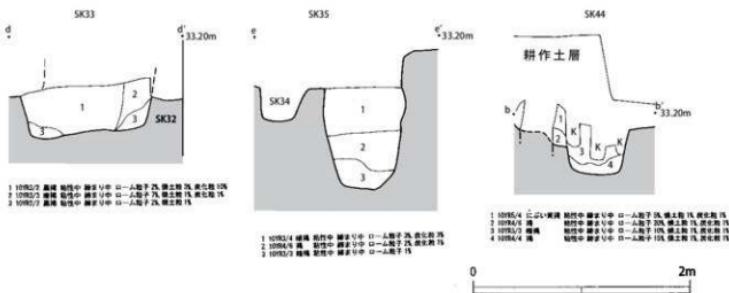
(5) 縄文時代の遺物

SK05出土縄文土器（第171図）1は波状口縁を呈し、沈線文と単節斜縄文LRが施されており、外側には炭化物が付着している。2は沈線による渦巻き文、3は沈線文および刺突文が施されている。4は横走する降起線文と沈線文の間に単節斜縄文Rが施されている。5～7は沈線文が施されている。文様から1～7の全てが縄文時代中期後半「加曾利E2式」に位置付けられる。

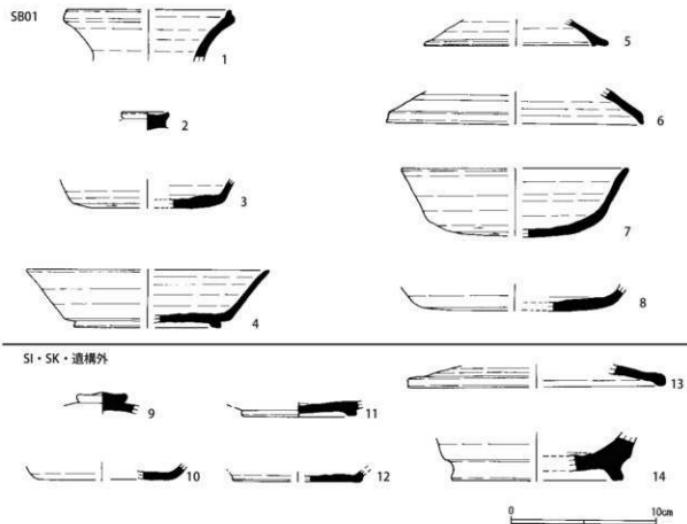
SK07出土縄文土器（第172～176図）1は深鉢形土器である。胴部は、縱位の単節斜縄文LRと隆起線文で「大木8b式」の影響を受けた文様が、口縁部～頸部は隆起線文で「加曾利E1式」の文様が施されている。これは、東北南部に位置する水Fの地域色を示す土器といえる。2は深鉢形土器の胴部で、地紋の単節斜縄文LRを施した後、2条の縱走する降起線とそれに平行する沈線で区画している。3は深鉢形土器で、地紋に単節斜縄文LRを全面に施し、口縁部と頸部に横走する降起線とそれに連結する3条の縱走する降起線で口縁部文様帯を区画している。また、胴部には縱走するZ字状の結筋が施されている。

1・3・5は縄文時代中期後半の「加曾利E1式」と「大木8a式」の文様が、2は縄文時代中期後半の「加曾利E1式」と「大木8b式」の文様が、4は「加曾利E1式」の文様が施されている。

6は平線の深鉢形土器で、地紋に単節斜縄文LRを施した後、口縁部に隆起線文で立体的な文様が施されている。7は平線の浅鉢形土器で、口縁部の無文帯の直下に横方向の連続する刺突文が施され、胴部には地紋の単節斜縄文



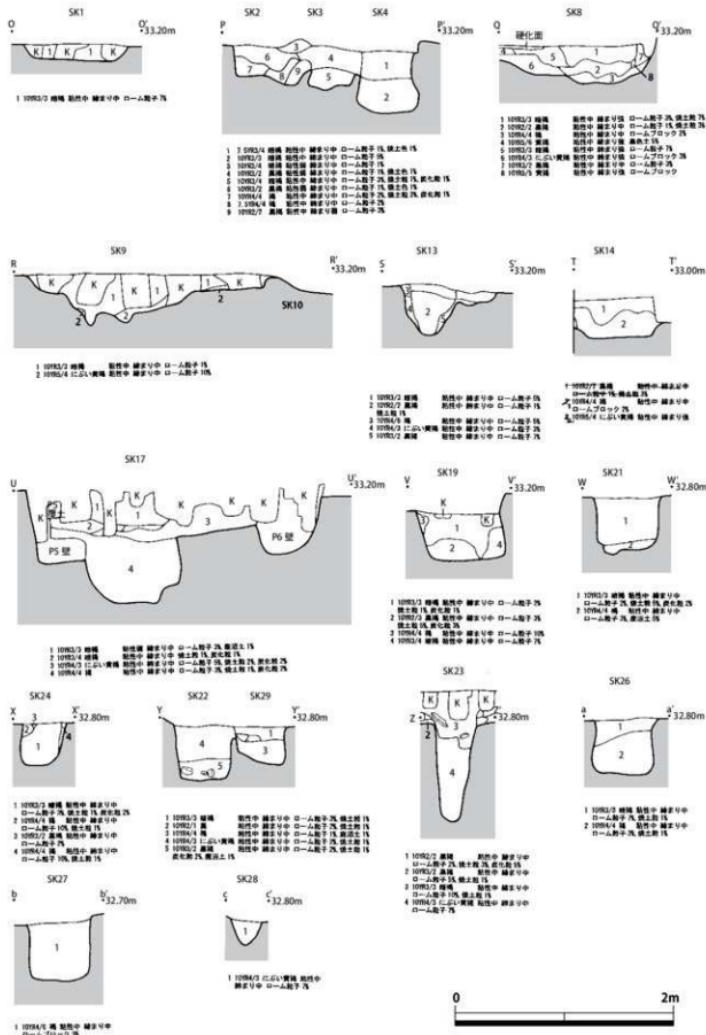
第163図 軍民坂遺跡（第4地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（2）



第164図 軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡・第1号竪穴建物跡・3号・11号・12号土坑・遺構外出土古代遺物

RLが施されている。6は、縄文時代中期後半の「加曾利E1式」・「大木8a式」、7は縄文時代中期後半の「加曾利E1式」・「大木8a式」・「大木8b式」の範疇で捉えられる資料群である。

8～23は小破片のため、器形の判別は難しいが、24は浅鉢形土器とみられ、それ以外は深鉢形土器の可能性が高い。8は橋状把手が隆起線により作り出されており、9～12は口縁部に突起状に取り付く満巻き文が隆起線により施されている。13～21は隆起線と沈線文が施され、その間に地紋の単節斜縦文RLが施されている。22は口縁部直下に横走する刺突文が連続して施され、その直下に格円状の隆起線が連続して施されている。23は他



第165図 軍民坂遺跡（第4地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（1）

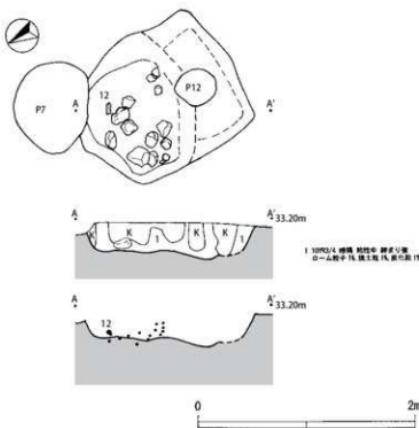


の破片とは異なり隆起線を持たず、地紋の単節斜縫文 RL が施されている。24 は口縁部に横走する沈線文が施されており、胴部～底部までは無文であったと考えられる。8～24 は文様から縫文時代中期後半の「加曾利 E1 式」と「大木 8a 式」、「大木 8b 式」の範疇で捉えられる資料群である。

SK11 出土縫文土器（第 178 図）1・5 は口縁部直下に横走する隆起線とそれに並行する沈線文が施されており、沈線文の下には地紋の単節斜縫文 LRL と単節斜縫文 RL がそれぞれ施されている。2～4 は波状口縁で、2 は口縁部直下に横走する沈線文と地紋の単節斜縫文 LR が、3・4 は隆起線文が施されている。6 は口縁部直下に横走する沈線文が施され、その直下には梢円状の沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縫文 RL が充填されている。

7～9 は口縁部直下に梢円状の沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縫文 RL が充填されている。また、7 は沈線文による渦巻きも表現されている。10 は、器面全体に条線文が施され、外面に炭化物が付着している。11 は口縁部直下に縫走する 3 条の沈線文が施されている。12～14 は 6～9 と同様、梢円状の隆起線文や沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縫文 RL と単節斜縫文 LR、単節斜縫文 RL が充填されている。15 は器面全体に斜め方向の沈線文が施されている。16～19 は文様から胴部の破片と考えられ、縫走する沈線文の間に地紋の単節斜縫文 RL、単節斜縫文 LRL、単節斜縫文 LR が充填されている。21～22 は地紋の単節斜縫文 LR が施されている。1～17 は文様の特徴から、縫文時代中期後半の「加曾利 E2・3 式」、18～22 は縫文時代中期後半の「加曾利 E 式」の範疇で捉えられる資料群である。

SK12 出土縫文土器（第 179～182 図）1 は深鉢形土器で、地紋に単節斜縫文 RL を施した後、口縁部に横 S 字状貼付文を、胴部は棒状の沈線文の間に波状の沈線文を施している。2 は浅鉢形土器で、口縁部はヘラ状工具による押引文・刺みを持つ縫帶を施し、胴部は地紋の単節斜縫文 LR が施されている。3 は圓形土器で、口縁部は地紋の単節斜縫文 LR、頭部には刺みを持つ横走する 2 条の縫帶と沈線文、胴部は地紋の単節斜縫文 LR が施され、底部には網代紋が見られ、外面には炭化物が付着している。4 は口唇部に沈線文を施し、外面は地紋の単節斜縫文 RL を施した後、隆起線文と沈線文を施している。5 は地紋の単節斜縫文 RL を施した後、隆起線文を施している。6 は、口縁部直下に横走する隆起線文を配置し、その直下に半截竹管状工具による沈線文と地紋の単節斜縫文 LR が施されている。7 は口唇部は地紋の単節斜縫文 LR、外面は角押文・棒状工具による刻みを持つ貼付文が施されている。8 は V 字状に縫帶を貼り付け、刺突文を施している。9 は口縁部直下に無縫帶を配置し、その直下に縫走する波状の条線文を施している。10 は地紋に単節斜縫文 RL を施した後、6 本の櫛歯状工具で縦横に沈線文を施している。11 は口唇部から胴部は地紋に単節斜縫文 RL を施している。12 は縫文施文による隆起線文とヘラ状工具による刺突文が施されている。13 は横走する隆起線文とその直下に並行する波状沈線文を施している。14 は地紋に単節斜状文 RL を施した後、隆起線文を施している。15 は横走する 2 条の沈線文を配置し、直上に地紋の単節斜縫文 LR が施されている。16 は地紋に単節斜状文 RL を横走する 4 条の沈線文を施し、その直下には櫛歯状工具で縫走する沈線文と波状の沈線文を配置している。17 は地紋に単節斜状文 LR を施し、2 条を単位とする縫走する沈線文を施している。18 は地紋に単節斜状文 LR を施した後、連弧文や縱走・横走する沈線文を施している。19 は地紋に

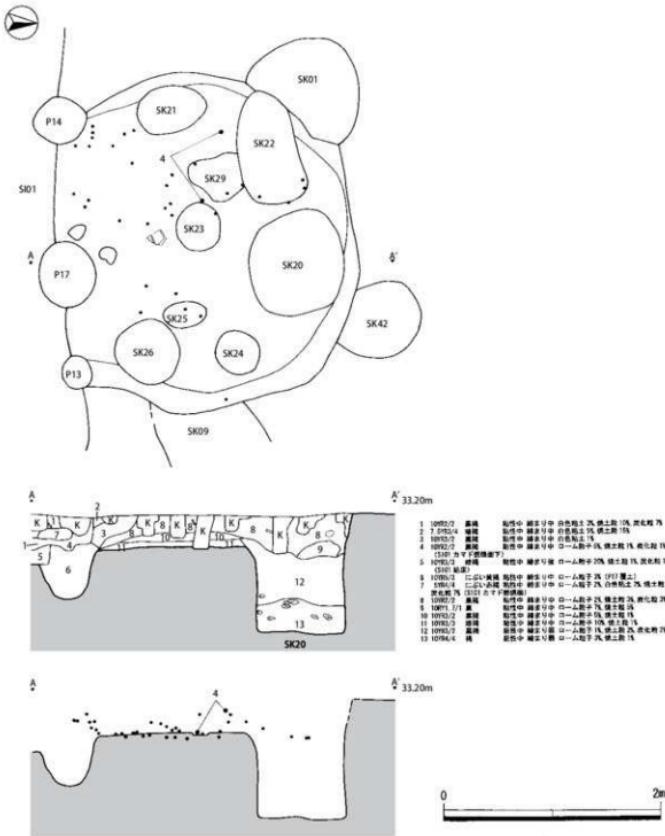


第 166 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 6 号土坑（SK06）



第167図 軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑（SK07）

単節斜繩文 RL を施した後、横走する沈線文を施している。20は地紋に単節斜繩文 LR を施した後、横走する沈線文と渦巻き状の沈線文を施している。21は地紋に単節斜繩文 LR を施した後、縦走する沈線で区画している。22～24・26・28は地紋に単節斜繩文 RL や単節斜繩文 LR を施した後、渦巻き状の沈線文を配置している。25は地紋に単節斜繩文 RL を施した後、横走・縦走する沈線文を施している。27は地紋に単節斜繩文 RL を施した後、渦巻き状の沈線文とそれに連絡する波状沈線文を配置している。29・30は横走・斜走する沈線文を施している。31は地紋に単節斜繩文 LR を施した後、沈線文を配置している。32・33は脇部の破片とみられ、地紋に単節斜繩文 LR を施している。34～36は地紋に条線文を施しており、34は沈線文もみられる。37は隆起線文が施されている。38～41は底部の破片で、38は地紋に単節斜繩文 LR が施され、底面は調整されている。39は地紋に条線文が施

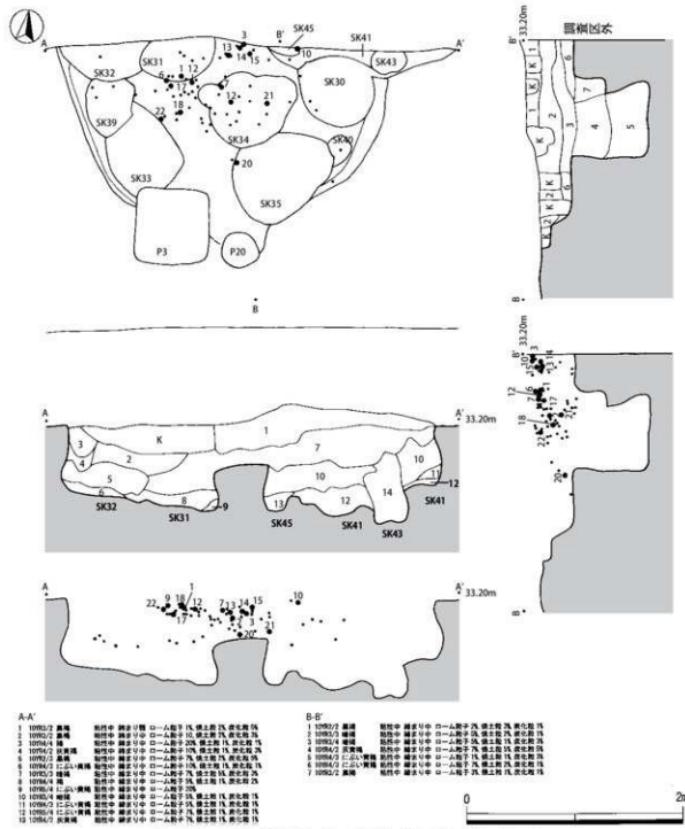


第 168 図 軍民板遺跡（第 4 地点）第 10 号土坑（SK10）

され、底面には網代痕がみられる。40・41 も底面に網代痕がみられる。

文様から 1～3・11～12 は縄文時代中期中葉の「阿玉台IV式」・「大木8a式」、4～7・13～31 は縄文時代中期の「大木8a式」、8～9 は縄文時代中期中葉の「阿玉台IV式」、32～41 は型式は不明だが、縄文時代中期の範疇で捉えられる資料群である。

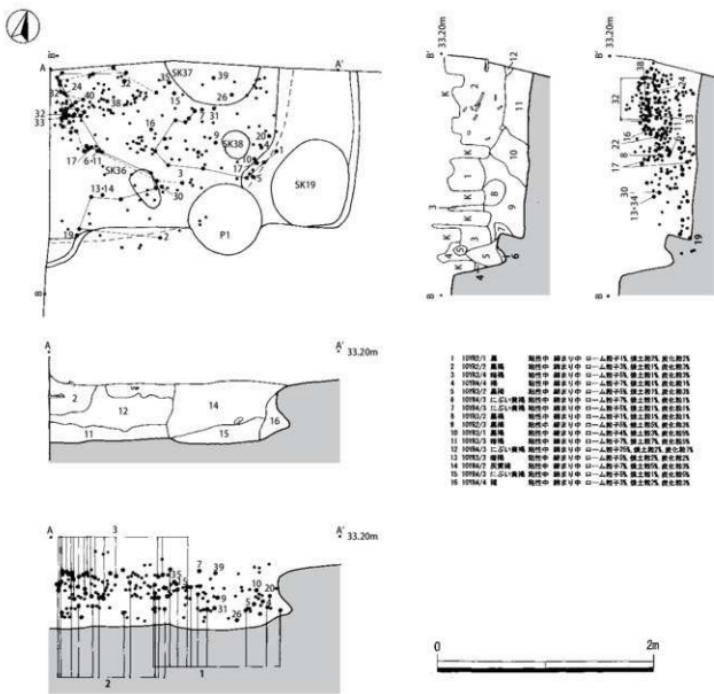
SK15 出土縄文土器（第 183 図）1 は菱形土器の破片で、地紋に単節斜縄文 RL を施した後、頭部と下部に横走する沈線文を、その間に並行する波状の沈線文を施している。2 は地紋に単節斜縄文 LR を施した後、横走する 2 条の



第169図 軍民坂遺跡(第4地点)第11号土坑(SK11)

隆起線文とそれに並行する沈線文を施し、間に波状の隆起線文と沈線文を配置している。3は胸部の破片と考えられ、地紋に単節斜繩文RLが施されている。4は底部から胸部にかけての破片で、地紋に単節斜繩文RLが施されている。1は縄文時代中期後の「大木8b式」、2は縄文時代中期後半の「加曾利E式」、3~4は縄文時代中期後半の「加曾利E式」の範疇で捉えられる資料群である。

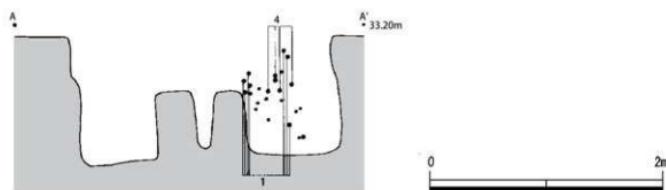
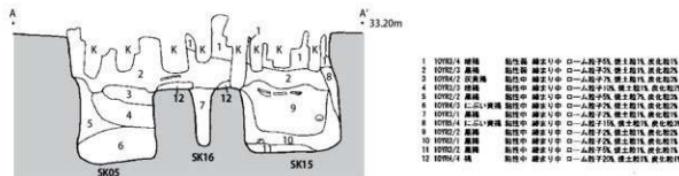
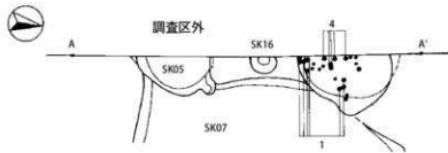
SK03・06・10・19・20・22・23・26・36出土縄文土器(第184図) 1はSK03の確認面から出土した波状口縁の土器で、隆起線文と並行する2条の沈線文が配置されている。2・3はSK06から出土した土器で、2は波状口



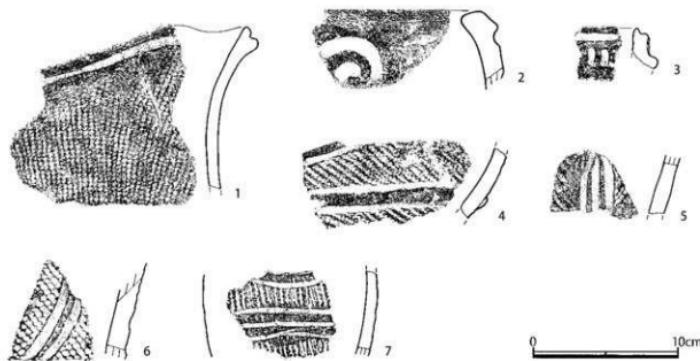
第170図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑（SK12）

縁、3は地紋に単節斜繩文 RL を施した後、沈線文で区画されている。4は SK10 から出土した底部から脣部にかけての破片で、地紋には単節斜繩文 RL が施されている。5は SK19 から出土した土器で、地紋に単節斜繩文 RL を施した後、隆起線文と沈線文、刺突文を配置している。6は SK20 から出土した波状口縁の深鉢形土器で、地紋に単節斜繩文 LR を施した後、口縁部直下から頸部の間に横方向に S 字状の隆起線文を貼り付けている。波状口縁の頂部には沈線による渦巻き文を配置し、頸部には横走する隆起線文を貼り付けている。7は SK22 から出土した脣部から底部の破片で、地紋に単節斜繩文 LR を施した後、縦走する 2 条の沈線文を配置し、区画している。8～10 は SK23 から出土した土器で、8は波状口縁の深鉢形土器で、地紋に単節斜繩文 RL を施した後、沈線により逆 U 字状の区画を表現している。9は地紋に単節斜繩文 RL を施している。10は地紋に条線文を施している。11は地紋に無節斜繩文 RL を施している。12は 3 条の横走する隆起線を配置している。文様から、1～4・10～11は繩文時代中期後半「加曾利 E 式」、5は繩文時代中期中葉「阿玉台 IV 式」・「大木 8a 式」、6は繩文時代中期後半「加曾利 E1 式」・「大木 8a 式」、7～9は繩文時代中期後半「加曾利 E2・3 式」、12は繩文時代中期「大木 8a 式」の範疇で捉えられる資料群である。

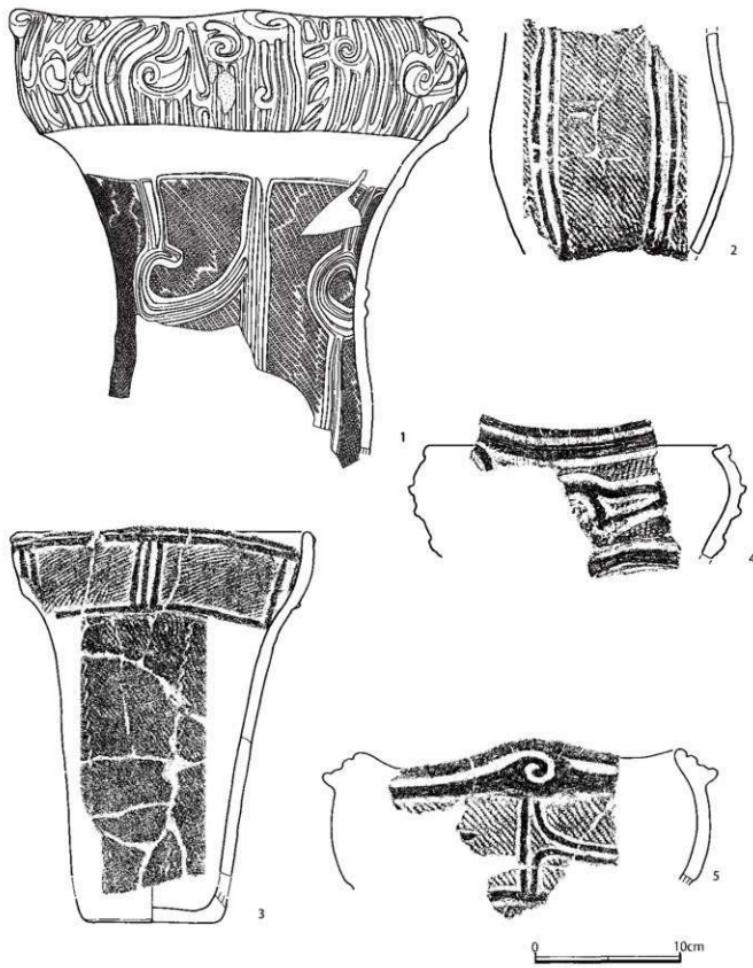
（色川）



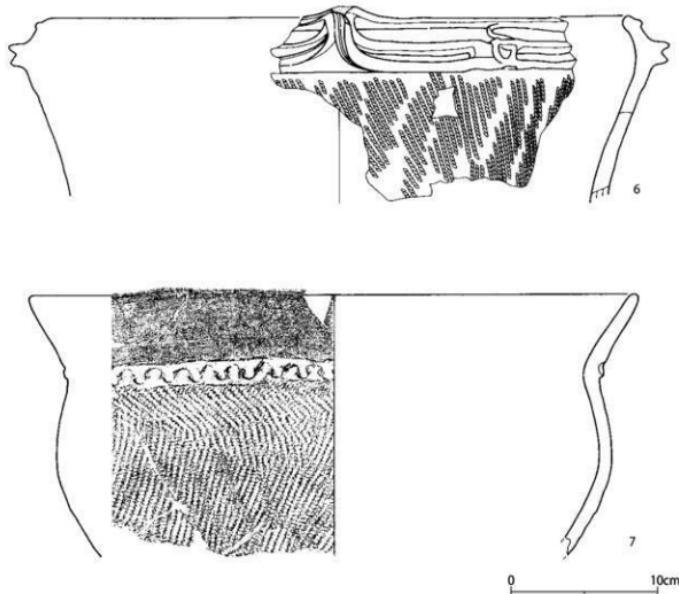
第 171 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 15 号土坑（SK15）



第 172 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 5 号土坑出土遺物

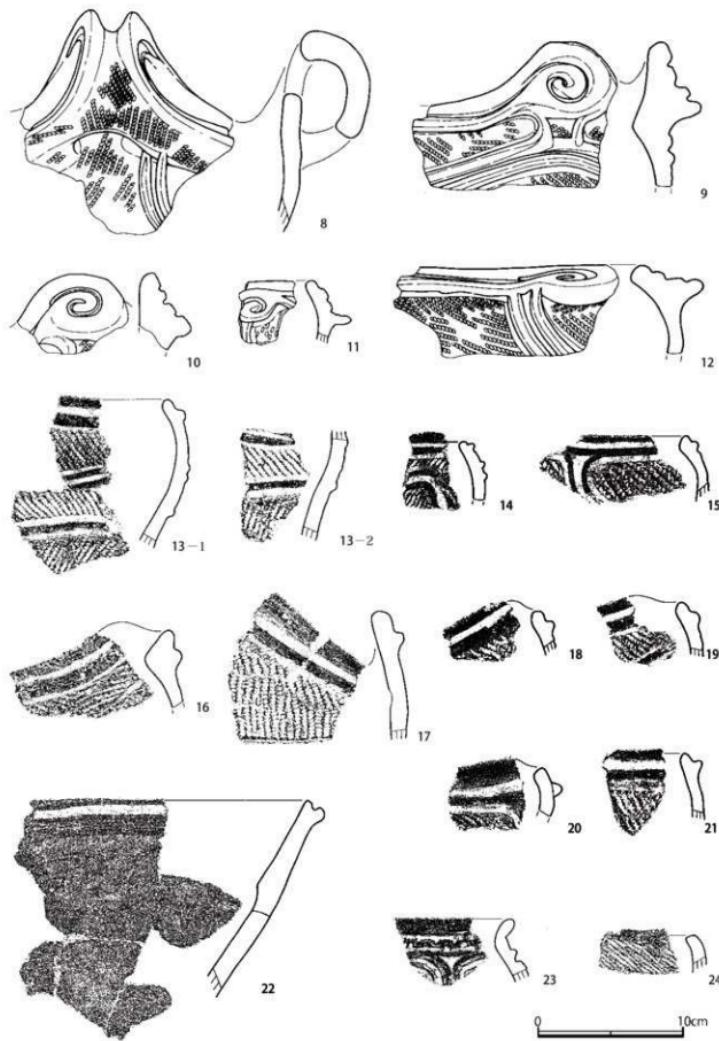


第 173 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（1）

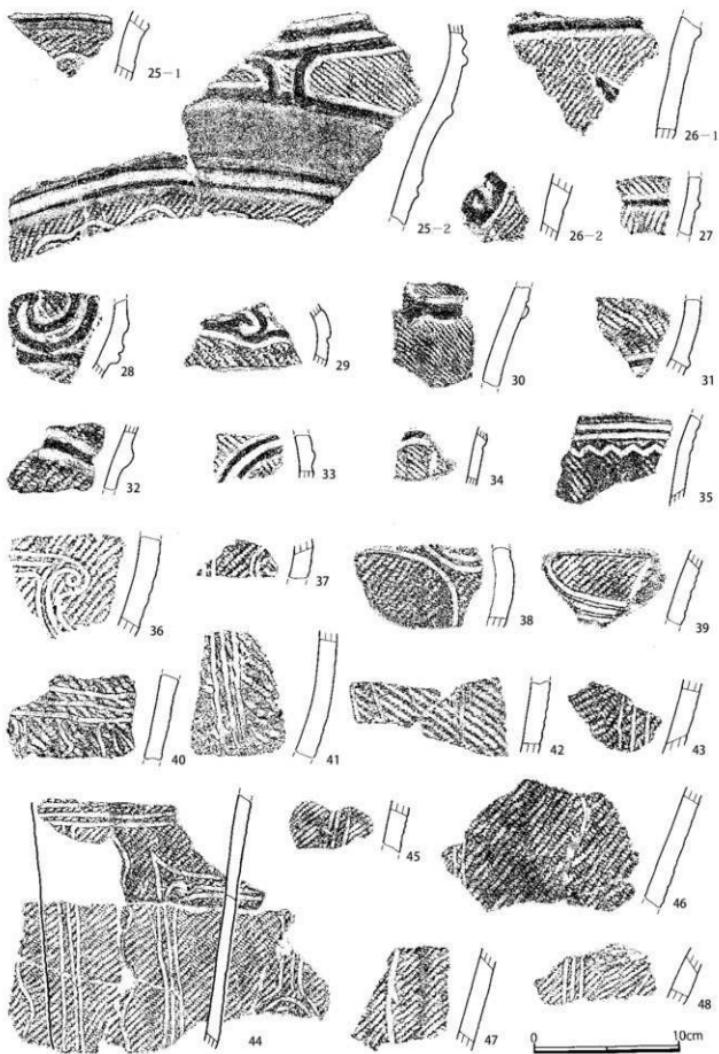


第 174 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（2）

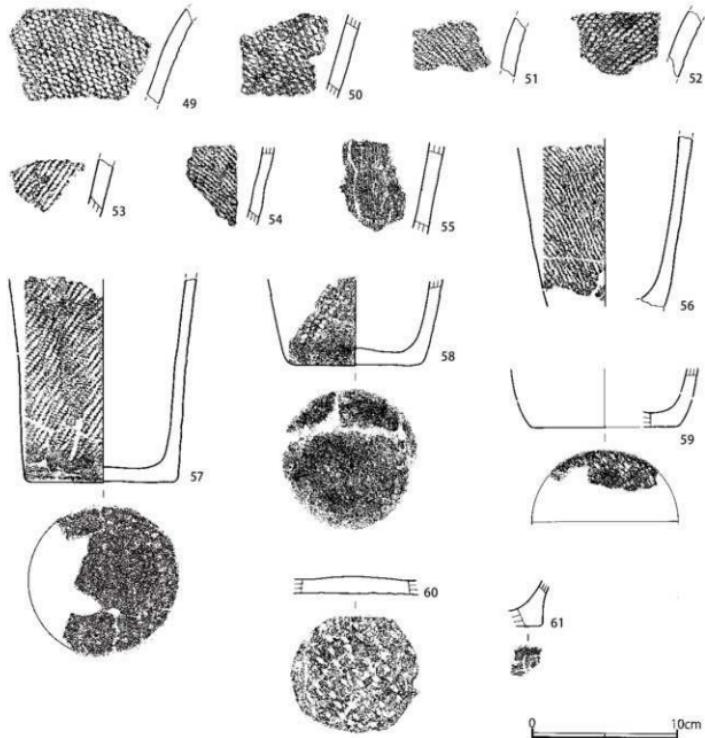
出土石器（第 183 ~ 184 図）1 は剥片。背面には主要剥離面と同一方向だけでなく対向・直交する方向の剥離面も観察されることから、90° 打面転移方式により剥離されたものとみられる。使用されている石材は先土器時代の石器に多用される久慈川産の挂質頁岩であることから、先土器時代の遺物と考えられる。2 ~ 3 は SI01 の下層から出土した石礫で、いわゆる凹基無茎礫に分類されるものである。石材にはチャートが用いられている。4 ~ 6 は磨製石斧で、4・5 は研磨痕が研磨により形成された面が観察される。4 は SK07、5 は SK11 から出土したものである。6 は SK12 から出土したもので、一見打製石斧にも見えるが、分厚いため、磨製石斧の未製品と考えられる。7 ~ 8 は SK07 から出土した敲磨具で、表裏両面に凹みが観察される。7 は上面・下面・右側面に敲打痕が観察される。9 ~ 10 は石皿で片面に凹みが観察される。9 は SK06、10 は SK07 から出土したものである。11 は SK10 の A 区から出土したホルンフェルス製の剥片である。背面には自然面と主要剥離面と直交・対向する剥離面が観察されることから 90° 打面転位石核から剥離されたものと考えられる。磨製石斧と石材が共通することから素材剥片として剥離されたものであった可能性がある。12 は SK07 の B 区から出土したチャート製の石核である。石礫と石材が共通することから、素材剥片を剥離した残核とみられる。13 は SK19 から出土したホルンフェルス製の石核である。磨製石斧と石材が共通することから素材剥片を剥離しようと試みたが、大型の剥片が剥離できなかつたことから廃棄された残核とみられる。14 ~ 16 は SK07・SK06・SK19 から出土した敲磨具である。14 は下面に打削により平坦な剥離面を作りだし、敲打痕が下面から左側面にかけて顕著に観察される。敲打痕は上面にも認められる。石材には石英斑岩が利用されている。15・16 はいずれも石材に安山岩が利用されている。15 は表面に研磨痕が顕著に見られ、16 は全面が赤化していることから炉石として利用されたものの再利用品の可能性がある。（川口）



第 175 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（3）



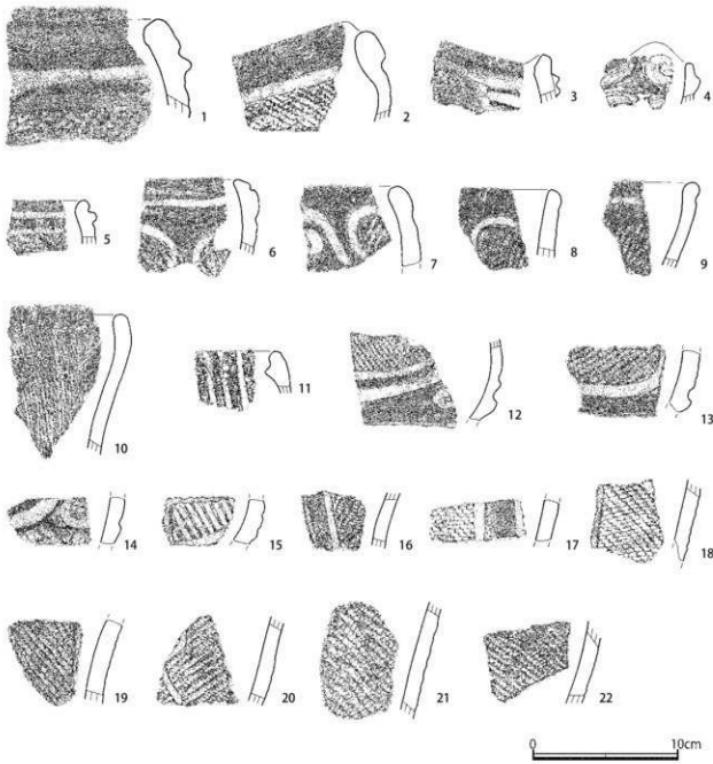
第 176 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（4）



第 177 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（5）

（6）総括～軍民坂遺跡（第 4 地点）における土地利用の変遷～

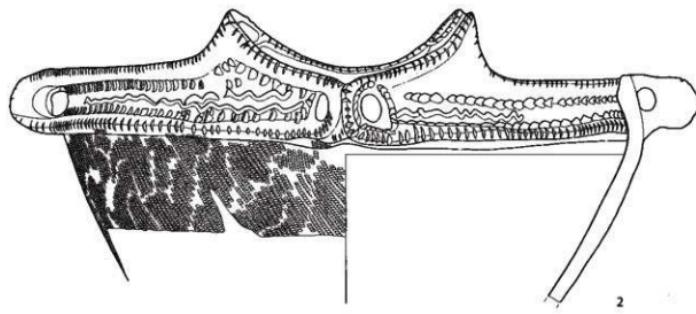
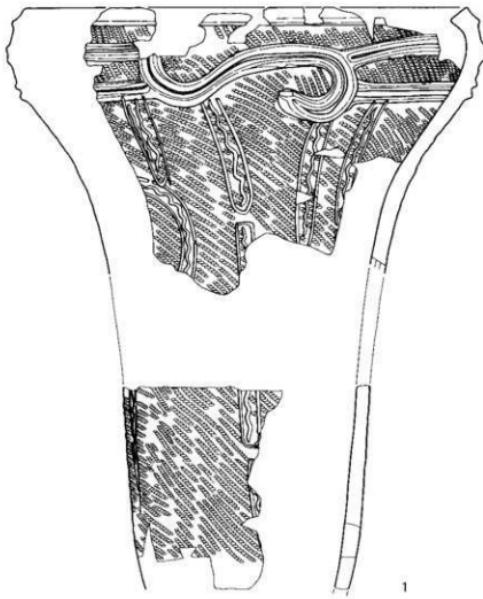
今般の本発掘調査により、軍民坂遺跡（第 4 地点）においては、縄文時代・古代・中世の土地利用が展開していたことが明らかとなった。遺構の変遷を確認すると、縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」・「大木 8a 式」・「大木 8b 式」の土坑である SK07・SK12 が最初に発掘削され、続いて、「加曾利 E2 式」・「加曾利 E3 式」の土坑である SK05・SK11 が掘削される。他の土坑については、遺物の出土量が少ないので、詳細な時期は明確にし得ないが、概ね近い時期の所産とみて間違いはなかろう。縄文時代の遺構は、平成 18 年に調査した第 2 地点（川口・色川編 2009）と並行する時期のものもみられるが、第 4 地点の方がやや古い時期の遺構の展開が見られることが明らかとなった点は本調査の大きな成果のひとつである。今回検出された遺構は、土坑 40 基とピット 1 基であるが、茨城



第 178 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 11 号土坑出土遺物

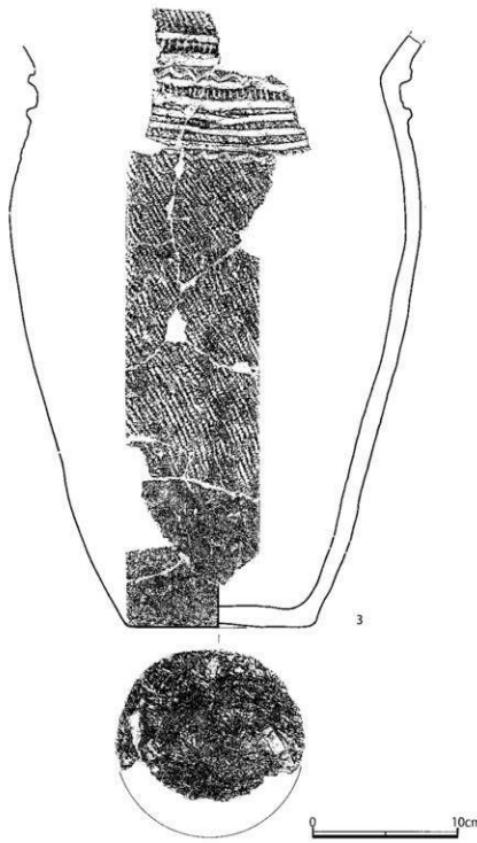
県域の縄文時代中期集落では、環状に竪穴建物跡が配置され、その中心部に群集貯蔵穴が展開する傾向があり、これらの土坑とピットが群集貯蔵穴であるとすると、竪穴建物跡は今般の調査地点の外側に展開することになる。ただし、規模の大きい土坑のうち、SK10・11は覆土・断面構造から竪穴建物跡の可能性もあり、集落構造の解明はさらなる周辺の調査の蓄積を待たなければならない。なお、今般の調査で確認された遺構群に後続する中期末や後期・晩期の土地利用の痕跡は一切みられず、次の土地利用の痕跡を見いだせるのは古代である。

7世紀第4四半期になると、斜め方位の主軸を探る竪穴建物跡SI01が営まれ、その廃絶後の8世紀以降に掘立柱建物跡SB01が重複する形で同一地点に建てられた。掘立柱建物跡SB01の廃絶時期は不明であるが、大型の側柱式構造の掘立柱建物跡であったとみられる。その性格については、出土遺物が少ないと明確にはできないが、平成19年に調査した第3地点では、底面に「河厨」と記録された墨書き器が出土しており（川口・色川編 2010）、「河

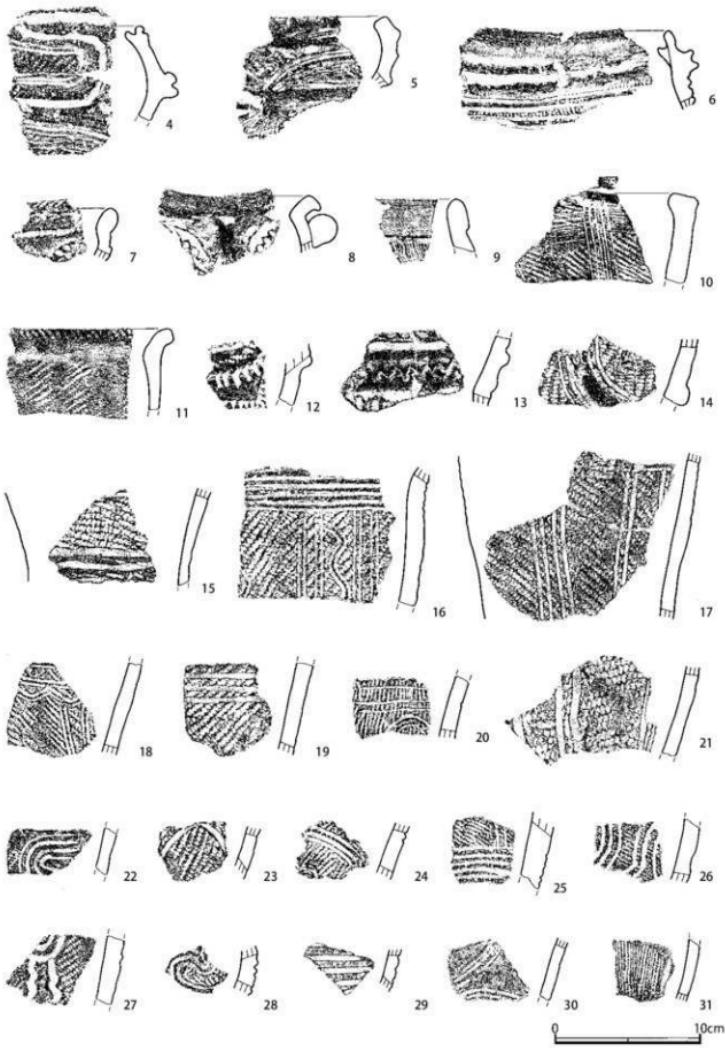


0 10cm

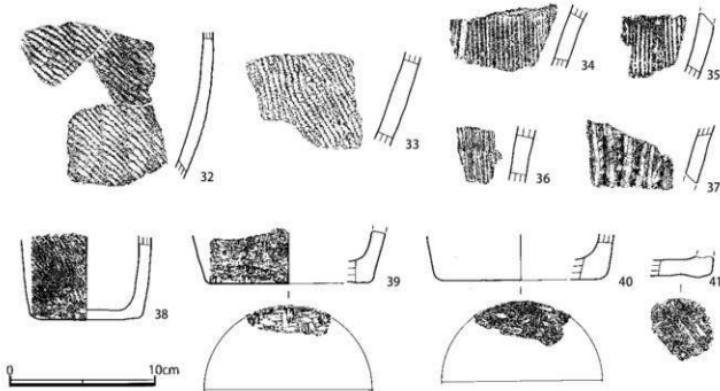
第179図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（1）



第180図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（2）



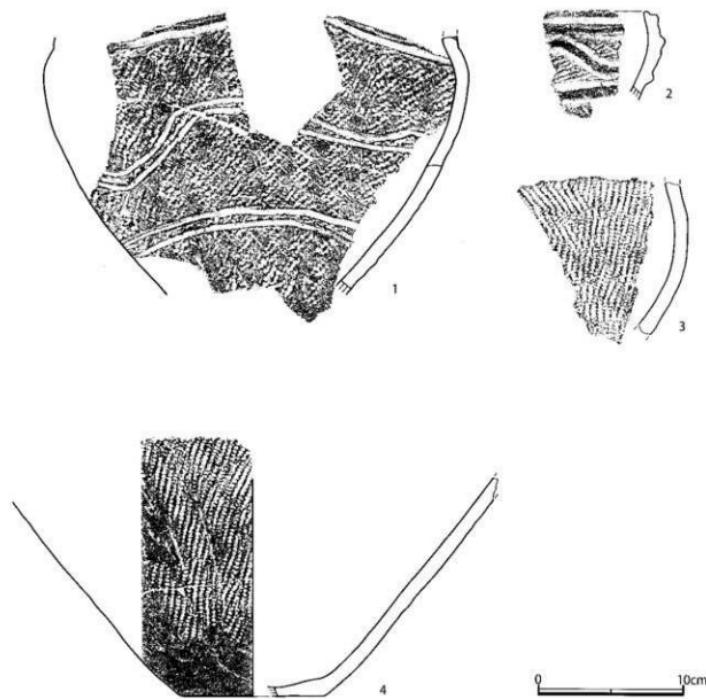
第181図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（3）



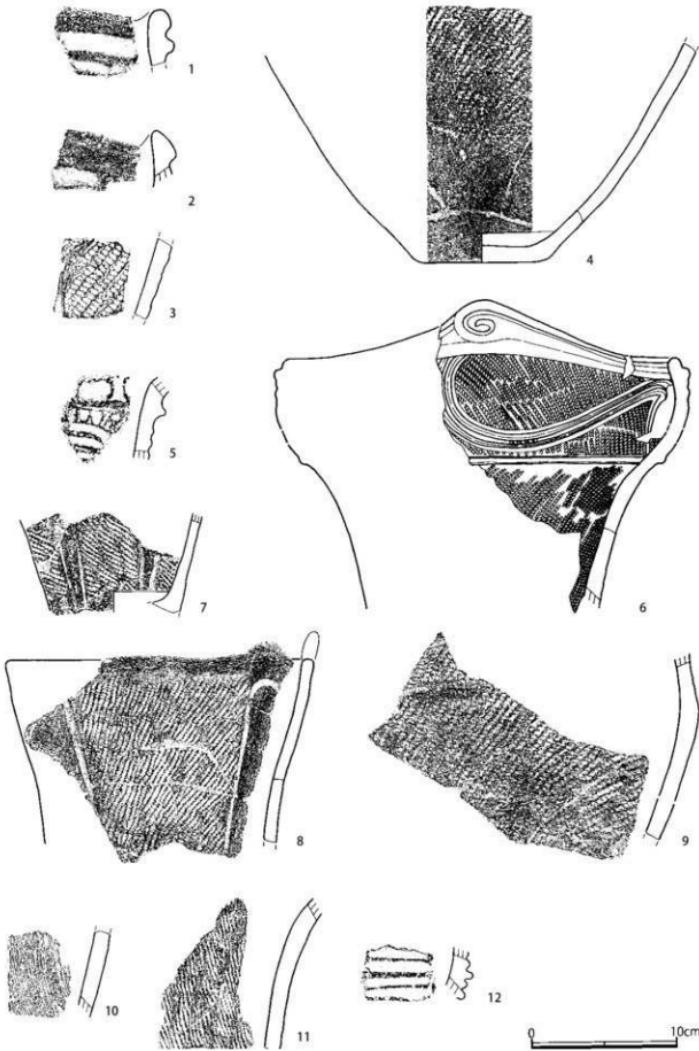
第182図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（4）

内駅家」あるいは「河内郷」に存在した厨家施設に帰属していた器の可能性が指摘されている（川口 2011）。本地点で確認された掘立柱建物跡SB01もそうした官衙施設との関連性も視野に入れて検討していく必要がある。そして、中世以降になると、小規模な掘立柱建物跡SB02～SB05が営まれた。これらの掘立柱建物跡には遺物が伴わないため、明確な時期や性格も不明だが、本遺跡における土地利用はこれまで古代までしか確認されておらず、中世以降にも土地利用が展開していたことが明らかとなったのは本調査により得られた新知見と言える。雑駁であるが以上が本地点の発掘調査を通じて捉えられる土地利用の変遷である。

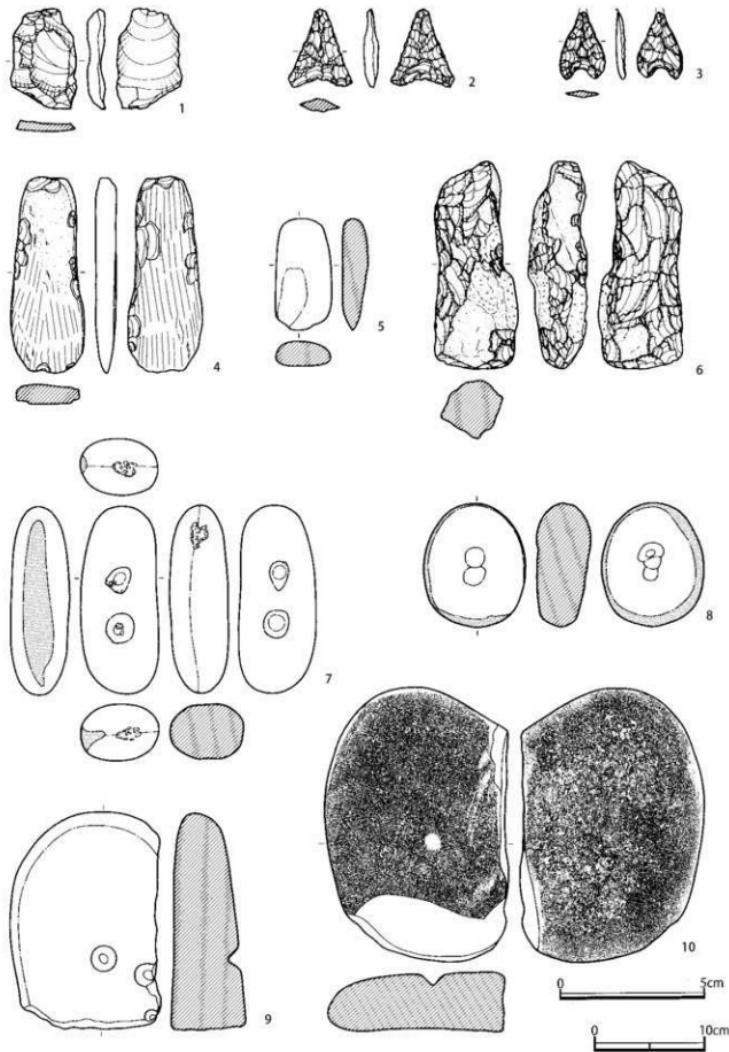
（川口）



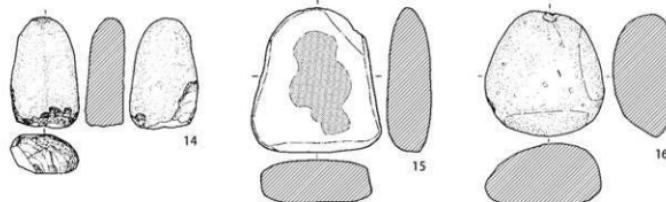
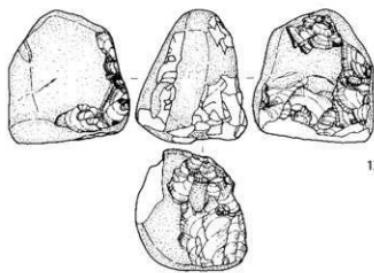
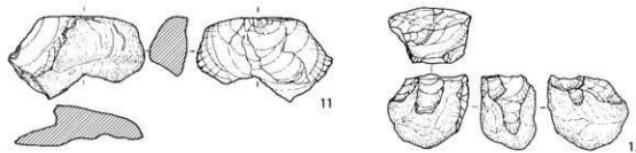
第183図 軍民坂遺跡（第4地点）第15号土坑出土遺物



第184図 軍民坂遺跡（第4地点）第3・6・10・19・20・22・23・26・36号土坑出土遺物



第185図 軍民坂遺跡（第4地点）出土石器（1）



0 10cm
(11・13～16のスケール)

0 5cm
(12のスケール)

第186図 軍民坂遺跡（第4地点）出土石器（2）

第11表 土器・陶磁器・瓦観察表

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成 (外面・内面)	調 査 (外面・内面)	備考	
				細別	口径	底径	器高						
11	大原町瀬野 (第11地点)	トレンチ1 壁壘面	陶文土器	—	—	—	—	波状模様文	—	砂粒(白+透)	良好	黒周(5YR 5/0)、 にぶく黄褐(10YR 4/2)	縄文時代中期 後半~後晩式
	2 大原町瀬野 (第11地点)	トレンチ1 S01	土師器・环	(14.2)	(6.2)	4.6	—	外面部は縄文コロナ 字形の模様で波状 な割れ、内面ヨコマ ナヅ	13% 40% 底径 12%	砂粒、砂粒 (透)	良好	黒周(10YR 4/2) にぶく黄褐(10YR 4/2)	6世紀
14	1 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1	土師器・甕	(14.6)	—	[3.9]	—	外面部ハケナナゲ	13% 10%	砂粒(白多)	良好	黒(7.5YR 6/0) 明赤周(5YR 5/0)	4世紀後半
17	1 西田古墳群 (第11地点第1号)	S001	陶生土器	—	—	—	—	口部には縄文を Z字形の模様で施 され、内面ヨコマナ ヅを有する。壁厚 約1.5cm	—	砂粒(白)	良好	にぶく黄褐(10YR 4/2) にぶく黄(10YR 3/1)	先秦時代後期 後半~十王時代
	2 西田古墳群 (第11地点第1号)	S001	陶生土器	—	—	—	—	口部には縄文模様 を施す。内面ヨコマ ナヅを有する。外 面には縄文を有す る。内面ヨコマナ ヅを有する。(1 個以上)	—	砂粒(白)	良好	黒(7.5YR 6/0) にぶく黄(10YR 3/2)	先秦時代後期 後半~十王時代 式
17	3 西田古墳群 (第11地点第1号)	S001	陶生土器	—	—	—	—	縄文模様(5本) を施す。内面ヨコマ ナヅを有する。外 面には縄文を有す る。内面ヨコマナ ヅを有する。(1 個以上)	—	砂粒(白+透)	良好	黒(7.5YR 6/0) にぶく黄(10YR 3/1)	先秦時代後期 後半~十王時代
	4 西田古墳群 (第11地点第1号)	S001	陶生土器	—	—	—	—	縄文模様工具(5本) による波状文。外 面には縄文を有す る。内面ヨコマナ ヅを有する。(1 個以上)	—	砂粒(白+透)	良好	黒周(10YR 3/2) 灰周(2.5YR 5/2)	先秦時代後期 後半~十王時代
17	5 西田古墳群 (第11地点第1号)	S001	覆土上 骨	—	[4.7]	—	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 12%	砂粒(白+黑)	被覆 黒	黒(7.5YR 6/0)	9世紀前半、 木棺下層
	1 西田古墳群 (第11地点)	S01床直	須恵器・無台杯	(14.0)	(8.6)	4.1	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 47%	砂粒、砂粒 (透)	被覆 黒	黒(7.5YR 6/0)	8世紀後半
20	2 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	(11.3)	(6.8)	3.5	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 26%	砂粒、砂粒 (白、黒)	被覆 黒	オリーブ (7.5YR 6/2)	8世紀後半
	3 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	—	(7.4)	[2.6]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 18%	砂粒(白+透)	被覆 黒	黒(5YR 6/0) オリーブ(7.5YR 6/2)	8世紀後半
20	4 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	—	(9.0)	[2.6]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 15%	砂粒(白)	被覆 黒	黒(2.5YR 4/1) 灰周(2.5YR 6/2)	8世紀後半
	5 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・瓶	(14.0)	—	[2.0]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 9%	砂粒(白多)	被覆 黒	黒(7.5YR 6/0)	8世紀後半
20	1 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	(14.0)	(8.6)	4.1	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 47%	砂粒、砂粒 (透)	被覆 黒	黒(7.5YR 6/0)	8世紀後半
	2 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	(11.3)	(6.8)	3.5	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 26%	砂粒、砂粒 (白、黒)	被覆 黒	オリーブ (7.5YR 6/2)	8世紀後半
29	3 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	—	(7.4)	[2.6]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 18%	砂粒(白+透)	被覆 黒	黒(5YR 6/0) オリーブ(7.5YR 6/2)	8世紀後半
	4 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・無台杯	—	(9.0)	[2.6]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 底径 15%	砂粒(白)	被覆 黒	黒(2.5YR 4/1) 灰周(2.5YR 6/2)	8世紀後半
29	5 西田古墳群 (第11地点)	トレンチ1 S01	須恵器・瓶	(14.0)	—	[2.0]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	口径 9%	砂粒(白多)	被覆 黒	黒(7.5YR 6/0)	8世紀後半
	1 楠原古墳群 (第5地点)	—	磁器・碗	—	(5.2)	[3.3]	—	織部模様(4袋付) 青白釉、高足、直腹	1/2 以下	—	—	—	18世紀以降、 肥前産
29	2 楠原古墳群 (第5地点)	—	磁器・急須	受部径 6.0	—	[1.4]	—	織部模様(4袋付) 青白釉、急須	1/2 以上	—	—	—	1870年代以前
	3 楠原古墳群 (第5地点)	—	土器・かわらけ	—	(8.8)	[1.4]	—	織部模様、布切裁 (4袋付)	底径 16%	砂粒(白)	良好	にぶく黄(10YR 7/4)	中晩唐~近世
34	1 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ3	陶生土器	—	—	—	付加窓第1種、R + R + L 型窓付	—	全多、砂粒 (透)	良好	黒周(2.5YR 3/2)	先秦時代後期 後半	
	2 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ4	陶生土器	—	—	—	付加窓第1種、R + R + L 型窓付	—	砂粒(白+透)	普通	にぶく黄(10YR 6/2) 灰周(10YR 5/2)	先秦時代後期 後半	
34	3 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ4	土師器・环	—	—	[4.3]	—	外面部は縄文コロナ 字形の模様で施す。 内面は縄文コロナ 字形。	砂粒(白+透)	良好	明赤周(5YR 5/0)	6世紀	
	4 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ3	土師器・瓶	—	(6.6)	[4.5]	—	外面部ハケナナゲ、 内面ハケナナゲ+ヘンナ ゲ	底径 26%	砂粒(白+透)	良好	にぶく黄(10YR 6/2) にぶく黄(7.5YR 6/4)	古墳時代後期
34	5 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ4	須恵器・無台杯	—	(7.2)	[1.3]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	底径 22%	砂粒(白)	被覆 黒	黒(5YR 6/0)	8世紀後半~ 9世紀前半
	6 美玉西東遺跡 (第2地点第3号)	トレンチ4	須恵器・有台杯	—	(8.0)	[2.5]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	底径 16%	砂粒(白)	被覆 黒	黒(2.5YR 7/2) 灰周(2.5YR 5/1)	8世紀後半~ 9世紀前半
37	1 鹿嶋河跡 (第1地点)	—	陶器・有台杯	—	(10.4)	[3.4]	—	クロコ水洗き成形 器。底部~周辺に かけて自然焼付有 る。	底径 26%	砂粒(白)	良好	黒周(2.5YR 4/1)	近世以降
	2 鹿嶋河跡 (第1地点)	—	瓦質土器・火鉢 か	—	(16.0)	[5.3]	—	清少有、あり、穿孔 (鉢底成形)、あり	底径 12%	砂粒(白)	良好	黒周(2.5YR 4/1)	近世以降
42	1 石井遺跡 (第1地点第4号)	SK01	陶文土器	(22.0)	—	[16.9]	—	縄文文、R + R + L 型窓付	砂粒(白多+透) 14%	良好	黒周(5YR 2/1)	縄文時代中期	
	2 石井遺跡 (第1地点第4号)	トレンチ2	陶文土器	—	—	—	—	開窓縫文、複数斜 窓文とL型	砂粒(白多+透)	良好	黒周(10YR 4/1)	縄文時代中期	
42	3 石井遺跡 (第1地点第4号)	トレンチ3	陶文土器	—	—	—	—	開窓縫文、單斜窓 文とL型	金、砂粒(白+透)	良好	にぶく黄(10YR 3/1) にぶく黄(7.5YR 6/4)	縄文時代中期	
	4 石井遺跡 (第1地点第4号)	トレンチ3	陶文土器	—	—	—	—	縄文縫文、單斜窓 文とL型	砂粒(白多+透)	良好	黒周(2.5YR 5/2) にぶく黄(2.5YR 3/1)	縄文時代中期	
42	5 石井遺跡 (第1地点第4号)	トレンチ2	陶文土器	—	—	—	—	単斜窓文、單斜窓 文とL型	金、砂粒(白+透)	良好	にぶく黄(10YR 6/1) 黒(10YR 3/1)	縄文時代中期	
	6 石井遺跡 (第1地点第4号)	トレンチ3	陶文土器	—	—	—	—	縄文縫文、単斜窓 文とL型	金、砂粒(白+透)	良好	にぶく黄(10YR 5/4)	縄文時代中期	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調(外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
42	7	若林遺跡 (第1地盤第4号)	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	灰陶文、圓文	—	砂粒(白)	良好	灰・青・黄(10YR5/3)、 灰(25Y5/2)	縄文時代中期
	8	若林遺跡 (第1地盤第4号)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	陶文起皮(縄文土器にみあ り)、圓文	—	砂粒(白多)	良好	灰・青・黄(10YR6/4)	縄文時代中期
	9	若林遺跡 (第1地盤第4号)	トレンチ1	縄文土器	—	(8.8)	[3.6]	沈陶文、單脚罐 内面に灰皮	49%	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰・青・黄(10YR5/3) 灰・青・黄(10YR6/3)	縄文時代中期
51	1	丹沢跡 (第1地盤第1号)	田耕作土中	縄文土器	—	—	—	陶記痕文、單脚斜 縄文土器	—	砂粒(白多)	普通	灰・青・黄(10YR5/3) 灰(25Y5/2)	縄文時代中期
	2	丹沢跡 (第1地盤第1号)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	無鉛陶器文L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰・青・黄(10YR6/4) 灰(25Y5/2)	縄文時代中期
	3	丹沢跡 (第1地盤第1号)	田耕作土中	縄文土器	—	—	—	無鉛陶器文L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰・青・黄(10YR5/3)	縄文時代中期
54	4	丹沢跡 (第1地盤第1号)	田耕作土中	燒結向器・鉢	—	—	—	燒結み輪籠形、外 面黒褐色、内面白色 内面に朱色の模様 木口付	—	—	—	—	近代
	5	丹沢跡 (第1地盤第2号)	表揮	燒結陶器・灯火貝・ 柳叶受付鉢	10.0	4.5	2.3	燒結成形、受付鉢 付・灯り込み有り 内面に朱色の模様 木口付	—	砂粒(白)	定形	—	18世紀後半 以降、在産
	6	丹沢跡 (第1地盤第1号)	田耕作土中	瓦・瓦片 板状不明	全 (7.7)	長 (2.0)	厚 (2.0)	重 (117 g)	板成形形・型あて 成形	砂粒 (白)	被覆	灰 (7.5Y5/1)	近世～近代
57	1	丹沢跡 (第13地盤)	—	土器・内耳罐	(28.2)	—	[7.8]	初期単輪籠成形、外 面黒褐色、内面白色 内面に朱色の模様 木口付	口徑 8 %	金、砂粒(白・透)	良好	灰・青・黄(10YR5/4)	15世紀後半 ～16世紀初頭
	1	赤坂遺跡 (第5地盤第2号)	構造遺	須彌器・無台形	—	(8.8)	[1.8]	ロウソク・灰陶文 内面に朱色の模様 木口付	底径 18 %	砂粒(白)	被覆	灰灰 (2.5Y6/2)、 灰灰 (25Y6/1)	15世紀後半 ～16世紀初頭
	2	赤坂遺跡 (第5地盤第2号)	P-1	トレンチ5	土器・かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.4	燒結成形・系切底 (丸)	1/2 以下	砂粒(赤)	良好	灰・青・黄(10YR5/4)
63	1	伊勢佐原遺跡 (第3地盤第3号)	—	縄文土器	—	—	—	單脚罐陶器 L R	—	金・砂粒(白)	良好	明赤褐 (5YR5/6)	縄文時代
	2	伊勢佐原遺跡 (第3地盤第3号)	—	土製品(海苔)	全長 0.8	厚さ 1.7	重 44 g	空筒形・全面に 青色(緑色)	ほぼ定形	金	良好	灰・青・黄(5YR4/1)	近代以降
	1	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-8・9 SI01カマド	土師器・甕	(15.6)	—	[7.4]	外側に輪部付コナ 子、体部へ凹削り 内面に輪部付コナ 子	口徑 21 %	砂粒(白多・ 透多)	良好	明灰 (7.5YR5/6)	6世紀後半
66	2	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-8・9 SI01カマド	土師器・甕	(15.6)	—	[7.4]	外側にラヌダ、内 面輪部付コナ子	底径 100 %	砂粒(白・透)	良好	明赤褐 (5YR5/6)、 灰灰 (10YR5/2)	6世紀後半
	3	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-8・9 SI01カマド	土師器・甕	—	8.7	[25.1]	外側にラヌダ、内 面ラヌダ、内面に 灰陶文、外側に灰 陶文	底径 47 %	砂粒(白)	良好	明灰 (7.5YR5/1)、 灰赤 (35Y5/6)	6世紀後半
	4	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-8・9 SI01カマド	土師器・甕	—	(8.7)	[5.7]	外側に輪部付コナ 子、体部へ凹削り 内面に輪部付コナ 子	口徑 41 %	砂粒(透)	良好	棕 (7.5YR6/6)	6世紀後半
66	5	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10・11 SD01カマド	土師器・糞	(13.4)	—	[4.6]	外側に輪部付コナ 子、内面に輪部付 コナ子	底径 43 %	砂粒(白・透)	良好	棕 (7.5YR6/6)、 明灰 (7.5YR5/6)	6世紀後半
	6	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	人骨・骨質 灰陶罐	土師罐・高杯	—	(12.4)	[9.0]	ロウソク水洗き成形	底径 20 %	砂粒(白)	良好	灰 (7.5Y5/1)	9世紀
	7	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10・11 SD01カマド	須彌器・瓶	—	(11.8)	[7.3]	燒結成形、外側に 輪部付コナ子 (8本)	底径 13 %	砂粒(白)	良好	都灰 (10YR4/1)、 灰灰 (10YR2/1)	近世～近代
68	8	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10・11 SD01・02 カマド	土器・焰焰	—	—	[4.8]	内外面ナデ	口徑 21 %	砂粒(白多)	良好	黑 (5Y1/2)、 灰・青・黄(10YR5/2)	中世以降
	9	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10・11 SD01 (トレ ンチ5-6)	土製品・菲口	全長 5.5	口径 (6.0)	重 (39 g)	内外面ナデ、外側 に鉛付付着	—	砂粒(白・透)	良好	灰・青・黄(10YR6/4)	中世
	10	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10・11 (トレンチ6)	土製品・菲口	全長 7.3	—	重 (86 g)	—	—	—	良好	灰・青・黄(10YR6/4)	中世
13	13	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	マンホール N-10 SD01上層 (トレンチ4)	磁器・圓 瓦罐	—	—	3.8	[2.7]	燒結成形、空付 内面花唐草文、高 脚付付着、内面に 鉛付付着、底 内面に鉛付付着、 底内面に鉛付付着	底径 100 %	—	—	肥前灰、17 世紀末～19 世紀中
	14	仙光内遺跡 (第3地盤第5号)	不動尊堂 瓦表様	土器・かわらけ	(5.8)	(3.4)	1.1	燒結成形、系切底 (小字)	—	砂粒(白)	良好	棕 (7.5YR6/6)	中世・近世
	71	1	丹戸ノ牧村 馬士手跡	トレンチ下層	縄文土器	—	—	—	陶記痕文、押引文	—	砂粒(白)	普通	都 (7.5YR4/6)、 灰・青・黄(10YR5/4)

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				細別	口径	底径						
71	丹下ノ牧野 馬士手跡	トレンチ下層 平頭碗(灰子)	網目・圓 平頭碗(灰子)	(8.4)	3.7	8.4	輪縁部ノ白・内面 火照・外面火照 外面火照あり	口径 14% 底径 41% 器高 100%				在鉄座、18 世紀後半以降
	丹下ノ牧野 馬士手跡	トレンチ下層	陶器・太白手広 束腰	(12.2)	6.2	6.9	輪縁部ノ白・内面 火照・外面火照 外面火照あり	口径 34% 底径 45% 器高 93%				無口・足底直 18世紀末葉 以降
	丹下ノ牧野 馬士手跡	トレンチ下層	接触陶器・盤 明石・繩系	—	(17.2)	[5.9]	輪縁部ノ白・内面 火照・外面火照 外面火照あり	底径 7%				明石・繩 18世紀後半 以降
	丹下ノ牧野 馬士手跡	トレンチ下層	土器・焰	36.0	(27.0)	6.0	輪縁部ノ白・内面 火照・外面火照 外面火照あり	口径 41% 底径 18%	砂粒(白)	良好	黑(10YR2/1)・ 黑(2.5YR6/1)	17世紀以降
	丹下ノ牧野 馬士手跡	トレンチ下層	土器・焰	—	—	—	輪縁部ノ白・内面 火照・外面火照 外面火照あり	底径 7%	砂粒(白)	良好	黑(10YR2/1)・ 黑(2.5YR6/1)	17世紀以降
74	御井洋道跡 (第3地点)	カクラン	漁池器・無台杯	—	(10.0)	[1.6]	クロ口・水挽き成形	底径 19%	砂粒(白)	良好	灰黄(2.5Y6/2)	8世紀後半
	御井洋道跡 (第3地点)	P1	漁池器・無台杯	—	(8.4)	[0.6]	クロ口・水挽き成形	底径 28%	砂粒(白)透	良好	灰黄(7.5Y6/2) 灰黄(2.5Y6/2)	8世紀後半 9世紀初
76	南井洋道跡 (第3地点)	土器器・甕	甕	—	—	—	内外面火照あり	—	碎片	良好	灰黄(7.5Y6/2) 灰黄(2.5Y6/2)	8世紀後半 9世紀初
	新田遺跡	表探	甕文土器	—	—	—	单脚斜脚文 L R	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	甕文時代
	新田遺跡	表探	甕文土器	—	(8.4)	[3.3]	底部断面あり	底径 34%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	甕文時代
78	般若寺遺跡	表探	須弥器	—	—	—	筒形須弥・口口あ り	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR2/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
	般若寺遺跡	表探	須弥器・無台杯	—	(6.8)	1.9	クロ口・水挽き成形 底面に記	底径 25%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
	般若寺遺跡	表探	瓦砾	高さ (3.7)	幅 (4.1)	厚さ (1.6)	—	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR2/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
82	西内遺跡 (第1地点)	トレンチ2	土器器・甕	—	[2.3]	—	表面ヨコナデ	口径 4% (5.0)	砂多・砂透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
	西内遺跡 (第1地点)	表探	須弥器・無台杯	—	(8.0)	[1.4]	クロ口・水挽き成形	底径 23%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
	西内遺跡 (第2地点)	表探	須弥器・無台杯	—	(7.2)	[1.4]	クロ口・水挽き成形	底径 25%	砂粒(透)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀
	西内遺跡 (第2地点)	表探	須弥器・無台杯	—	7.6	[2.1]	クロ口・水挽き成形 底面に記	底径 100%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀
	西内遺跡 (第1地点)	トレンチ2	須弥器・無台杯	—	(8.4)	[1.1]	クロ口・水挽き成形 底面に記	底径 10%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半
	西内遺跡 (第1地点)	表探	須弥器・有台杯	(10.6)	(7.2)	5.0	クロ口・水挽き成形	口径 底径 8%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	西内遺跡 (第1地点)	表探	須弥器・有台杯	—	(9.0)	[2.0]	クロ口・水挽き成形	底径 14%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半 9世紀初
89	無道跡 (第14地点)	トレンチ1	須弥器・蓋	—	—	[1.25]	クロ口・水挽き成形	底径 19%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀前半
	無道跡 (第15地点)	トレンチ2	須弥器・無台杯	—	(8.0)	[1.7]	クロ口・水挽き成形	底径 38%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀前半
89	無道跡 (第19地点)	トレンチ2	須弥器・無台杯	—	(7.2)	[1.4]	クロ口・水挽き成形 底面に記	底径 22%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ2	須弥器・無台杯	—	(7.0)	[1.1]	クロ口・水挽き成形	底径 14%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ2	須弥器・無台杯	—	(1.5)	—	クロ口・水挽き成形	底径 1%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ2	須弥器・瓶	—	(14.8)	[5.3]	クロ口・水挽き成形 四方角・山なり	底径 1%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ2	須弥器・高瓶	—	[5.1]	—	クロ口・水挽き成形 四方角・山なり	底径 1%	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ1	須弥器・高瓶	—	—	—	外面磨・口口火照 内面磨・口口火照	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
	無道跡 (第19地点)	トレンチ1	須弥器・甕	—	—	—	外面磨・口口火照 内面磨・口口火照	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀前半
96	喜多町遺跡 (第10地点)(付 青瓦半53次)	トレンチ2	須弥器・有台杯	—	(8.6)	[1.8]	クロ口・水挽き成形	底径 19%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	8世紀後半
	喜多町遺跡 (第10地点)(付 青瓦半53次)	トレンチ1	須弥器・有台杯	—	(6.2)	[2.2]	クロ口・水挽き成形	底径 14%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀
	喜多町遺跡 (第10地点)(付 青瓦半53次)	トレンチ1	平瓦	全長 (7.3)	厚さ 1.2	重積 1.32 g	筒形口・口底延・内 面磨・口底磨	—	砂粒(透)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀・平安時代
	喜多町遺跡 (第10地点)(付 青瓦半53次)	トレンチ4	平瓦	全長 (4.5)	厚さ (1.4)	重積 65 g	筒形口・口底延・内 面磨・口底磨	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	9世紀・平安時代
	喜多町遺跡 (第10地点)(付 青瓦半53次)	トレンチ1	瓦質土器・甕	—	—	—	輪縁部皮張・外面部 火照	—	砂粒(白)	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	近代～近代
99	竹原市吉良道跡 (付地至43次)	—	土器器・甕	(20.0)	—	[2.0]	内外部口縁部火照 内面部火照	口径 6%	砂粒(白)透	良好	灰黄(10YR4/2) 灰黄(5YR6/2)	—

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調(外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
99	2	竹内町古墳群 (第1地點) 一	須恵器・有台杯	—	(6.8)	[3.4]	—	クロ口水流き成形	底径 45%	砂粒(黒)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/26	7世紀後半～ 8世紀前半
	3	竹内町古墳群 (第1地點) 一	須恵器・有台杯	—	(7.6)	[2.6]	—	クロ口水流き成形	底径 22%	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/26	8世紀後半
	4	竹内町古墳群 (第1地點) 一	須恵器・蓋	(17.2)	—	[2.5]	—	クロ口水流き成形	口径 15%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/26	8世紀後半
	1	竹内町古墳群 (第1地點) トレンチ3	縄文土器	—	—	—	—	单脚斜腹式 L.R. 外曲面凹化成形仕様	—	砂粒(白・黒)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/26	縄文時代
104	2	台渡里寺跡 SI01	土師器・瓶	(19.0)	—	[7.3]	—	外曲面凹化成形仕様 子口部にハナ付、 子口部にハナ付、 内部に凹化成形仕様	口径 13%	砂粒(白・黒・透)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/26	7世紀後半～ 8世紀前半
	3	(台渡里寺第57号) トレンチ4 SI01	須恵器・瓶	(16.0)	—	[4.5]	—	内外面に凹縁部ココ 内外面に凹縁部ココ	口径 36%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/27	8世紀後半
	4	台渡里寺跡 トレンチ4 SI01	須恵器・有台杯	—	—	—	—	クロ口水流き成形 表面に凹化成形仕様	—	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/27	8世紀後半
	5	竹内町古墳群 トレンチ4 SI01	平瓦	厚2.6 (4.3)	重積 814 g	—	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/27	奈良・平安時代
105	6	竹内町古墳群 トレンチ4 (第1地點) 一	平瓦	厚2.6 (7.3)	重積 110 g	—	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/27	奈良・平安時代
	7	竹内町古墳群 トレンチ4 (第1地點) 一	平瓦	厚2.6 (8.5)	重積 186 g	—	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/27	奈良・平安時代
	8	竹内町古墳群 トレンチ3	土器・瓶	—	—	—	—	輪縁或いは穿孔 表面に凹化成形仕様	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/27	中世後期以降
	9	アラシ遺跡 SK03 織認面	須恵器・無台杯	—	(6.6)	[3.0]	—	クロ口水流き成形 瓶底にハナ付、内 部に凹化成形仕様	底径 31%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/43	9世紀
110	2	アラシ遺跡 表土	須恵器・無台杯	—	(8.4)	[2.0]	—	クロ口水流き成形	底径 28%	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/43	9世紀
	3	アラシ遺跡 表土	須恵器・無台杯	—	(7.0)	[1.6]	—	クロ口水流き成形 瓶底にハナ付	底径 12%	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/43	9世紀
	4	アラシ遺跡 (第1地點) 一	SK01	須恵器・無台杯	—	(8.0)	[1.0]	クロ口水流き成形	底径 28%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/43	9世紀
	5	アラシ遺跡 表土上層	須恵器・有台杯	—	(8.0)	[2.7]	—	クロ口水流き成形	底径 26%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/43	9世紀
111	6	アラシ遺跡 表土	須恵器・有台杯	—	(9.2)	[2.1]	—	クロ口水流き成形	底径 45%	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/48	9世紀
	7	アラシ遺跡 P36	須恵器・有台杯	—	(10.6)	[2.6]	—	クロ口水流き成形 表面に凹縁部ココ	底径 13%	砂粒(白・黒)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/49	9世紀
	8	アラシ遺跡 (第1地點) 一	表土	—	—	—	—	内外面に凹縁部コ ココ	—	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/50	9世紀
	9	アラシ遺跡 (第1地點) 一	SK03 下層 P6-中期	平瓦	厚2.6 (2.4)	重積 801 g	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/51	奈良・平安時代
113	10	アラシ遺跡 表土	平瓦	厚2.6 (7.6)	重積 204 g	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/52	奈良・平安時代	
	11	アラシ遺跡 表土	平瓦	厚2.6 (4.8)	重積 60 g	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/52	奈良・平安時代	
	12	アラシ遺跡 表土	平瓦	厚2.6 (7.1)	重積 122 g	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/53	奈良・平安時代	
	13	アラシ遺跡 (第1地點) 一	丸瓦	厚2.2	重積 141 g	—	四面に凸出彫、凸 面に凸出彫、一様 作り	—	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/53	奈良・平安時代	
115	1	竹内町古墳群 (第1地點) 一	須恵器・蓋	—	(2.0)	—	—	クロ口水流き成形	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/54	8世紀後半	
	2	馬場廻遺跡 表土	縄文土器	—	—	—	—	波状縁、沈殿紋	砂粒(透)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/57	縄文時代	
	3	馬場廻遺跡 表土	須恵器・有台杯	—	(8.0)	[4.2]	—	クロ口水流き成形	底径 44%	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/58	9世紀
	4	馬場廻遺跡 表土	須恵器・有台杯	—	(7.1)	[1.9]	—	クロ口水流き成形	底径 41%	砂粒(白多)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/58	9世紀
122	5	馬場廻遺跡 表土	土器・かわらけ	—	4.8	[1.0]	—	輪縁成形、系切造	底径 74%	砂粒(白・黒)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/60	15世紀以前
	1	大野平山古墳群 (第1地點) 表土	須恵器・無台杯	—	(8.0)	[2.2]	—	クロ口水流き成形	底径 21%	砂粒(白)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/62	8世紀後半～ 9世紀初頭
	2	大野平山古墳群 (第1地點) 表土	須恵器・無台杯	—	(9.0)	[2.1]	—	クロ口水流き成形	底径 25%	砂粒(透)	焼成	灰青(10YR4/2) 5W6/63	8世紀後半～ 9世紀初頭
	1	三ノ町西遺跡 (第1地點) 表土	組物・瓶	厚10.8	(4.0)	5.1	—	輪縁成形、口付 内曲面凹化成形、 体部内曲面凹化成 形仕様	1/2底下	金、砂粒(白)	良好	灰青(10YR4/2) 5W6/65	16世紀以降
125	2	三ノ町西遺跡 (第1地點) SK01 6層	組物・瓶 コバルト・有台杯	(8.4)	3.2	4.6	—	輪縁成形、口付 内曲面凹化成形、 体部内曲面凹化成 形仕様	1/2以下	—	—	—	1870年代以降

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				細別	口径	底径	器高					
125	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 コバルト染付絵画	(8.2)	—	[4.0]	輪縁波形／ゴム切 込み付／外面に模様 文、内面に模様文	1/2以下				近代後期
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 コバルト染付絵画	5.8	—	[5.1]	輪縁波形／ゴム切 込み付／外面に模様 文、三市街店風	1/2以上				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 コバルト染付絵画	—	3.2	[4.7]	輪縁波形／ゴム切 込み付／外側無 地、内側有地、内側 に模様文	1/2以下				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 コバルト染付絵画	14.7	6.8	6.3	輪縁波形／ゴム切 込み付／外側無 地、内側有地、内側 に模様文	1/2以上				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶	—	4.2	[4.4]	輪縁波形／白泥脚 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文	1/2以下				在地元、18 世紀後半以降
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 墨絵付絵画	(15.8)	(8.8)	3.2	輪縁波形／白泥脚 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、砂 付器	1/2以下				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 墨絵付絵画	(15.8)	(8.8)	3.0	輪縁波形／墨絵 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以下				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 墨絵付絵画	(13.0)	8.2	2.3	輪縁波形／墨絵 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以下				1870年代以前
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 墨絵付大皿	(22.0)	(12.8)	3.1	輪縁波形／墨絵 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以下				肥前産、近世
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・陶 コバルト染付絵画	(15.9)	(9.0)	2.5	輪縁波形／白泥脚 付、外側無地、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以下				近現代
126	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	陶器・陶 志野焼B	11.7	6.4	2.5	輪縁波形、内側高 台有地、内側無地、 内側に模様文、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以上				17世紀中頃 ~後半
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	陶器・陶 志野焼	11.3	(5.5)	2.5	輪縁波形、内側高 台有地、内側無地、 内側に模様文、内側 に模様文、内側有 地、内側に模様文、 内側に模様文	1/2以下				17世紀
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	陶器・土瓶	6.6	—	[3.4]	輪縁波形／内側有 地、内側無地	1/2以下				近現代
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器陶器、急須	—	(5.8)	[5.1]	輪縁波形／外側無 地、内側有地	1/2以下				萬古燒、明治 以降
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	11.1	4.9	3.3	輪縁波形、大切 底、板口直腹、内側 に模様文	1/2以上、 金多、砂粒 (白・黒)	良好	に・ぶ・黄褐 (10YR6/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	11.4	5.4	3.0	輪縁波形／布地 (白)、内側有地、 内側に模様文	1/2以上、 金多、砂粒 (白)	良好	に・ぶ・黄褐 (10YR6/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	(11.0)	5.2	3.4	輪縁波形／布地 (白)、内側有地、 内側に模様文	1/2以下、 金多、骨粒 (白)	良好	に・ぶ・黄褐 (7.5YR6/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	(12.0)	5.0	3.3	輪縁波形／布地 (白)、内側有地、 内側に模様文	1/2以下、 金、骨粒	良好	橙(7.5YR6/6)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	(11.8)	4.8	2.8	輪縁波形、大切 底、板口直腹、内側 に模様文	1/2以下、 金多、砂粒 (白・黒)	良好	に・ぶ・黄褐 (7.5YR6/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	(10.2)	4.2	2.8	輪縁波形／大切底 (白)	1/2以下、 金多	良好	に・ぶ・黄褐 (7.5YR6/4)	近代か	
127	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	10.7	4.2	2.7	輪縁波形／大切底 (白)	1/2以上、 金多、骨粒	良好	に・ぶ・黄褐 (10YR7/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	(11.8)	5.8	3.3	輪縁波形／大切底	1/2以下、 金、骨粒	良好	に・ぶ・黄褐 (7.5YR6/4)	近代か	
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	7.3	4.5	1.6	輪縁波形	完形	金	良好	浅黄褐 (10YR8/3)	近代か、白か むらけ
	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚口)	6.2	3.3	1.8	輪縁波形／大切底 (白)、見込み状 況がある。内外 に模様文	完形	金、骨粒	良好	に・ぶ・黄褐 (7.5YR6/4)	近代か

回	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考
				細別	口径	底径	高さ	口径	底径						
127	28	二ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	土器・わらけい 小わらけい (原)	6.5	3.8	1.9	輪郭成形・直切底 (原) 内面凸起部有 外側に凹部有	1/2以上	骨質	良好	灰白・褐 (2.5YR6/4)	近現代		
	29	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	土器・わらけい 小わらけい (原) 手	(7.2)	4.4	1.8	輪郭成形・直切底 (原) 内面削り落着 い(原) 手	1/2以下	骨質	良好	灰白 (2.5Y7/1)	近現代		
	30	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	土器・甕	—	23.6	[19.5]	外縁はナギ 内面 に付着物有	底径 100%	砂粒 (白多)	良好	灰白 (2.5Y6/4) 内面に付着物有 (10YR4/4)	近現代		
128	31	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	硝子製品・化粧 クリーム瓶	5.0	3.6	5.0	乳白色 不透明 内面に付着物有	底径 100%	砂粒 (白多)	良好	灰白・不明 内面に付着物有	近現代		
	32	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	硝子製品・化粧 クリーム瓶	5.0	3.7	4.9	乳白色 不透明 内面に付着物有	底径 9.5	砂粒 (白多)	良好	乳白色 不透明 内面に付着物有	近現代		
	33	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	硝子製品・化粧 クリーム瓶	3.7	4.0	6.1	乳白色 不透明 内面に付着物有	底径 9.5	砂粒 (白多)	良好	乳白色 不透明 内面に付着物有	近現代		
129	34	二ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	磁器・代用品 化粧クリーム瓶	4.9	4.0	4.6	碧玉成形 白泥質 内面に付着物有	底径 9.5	砂粒 (白多)	良好	碧玉成形 白泥質 内面に付着物有	美濃産 1930年代 (昭和 15年) (新 潟県可部町)		
	35	二ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	磁器・代用品 化粧クリーム瓶	3.9	4.4	5.6	碧玉成形 蒼白泥 質内面に付着物有	底径 9.5	砂粒 (白多)	良好	碧玉成形 蒼白泥 質内面に付着物有	1940年代		
	36	二ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	硝子製品・化粧 クリーム瓶	—	5.3	[4.7]	乳白色 不透明 内面に付着物有	底径 9.5	砂粒 (白多)	良好	乳白色 不透明 内面に付着物有	近現代		
130	37	三ノ町遺跡 (第1地盤)	SK01 6 級	瓦	全長 (7.4)	2.4	2.9	板瓦成形 型あて 成形	—	—	—	板瓦成形 型あて 成形	灰白 (3N4/7)	近現代	
1	1	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・小壺 コバルト染付瓶	8.1	3.5	4.6	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	底径 10.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	1870年代以降		
	2	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・瓶 コバルト染付瓶	8.6	(3.8)	4.6	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	底径 10.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	1870年代以降		
	3	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・瓶 コバルト染付瓶	(8.2)	(3.6)	4.4	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	底径 10.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	1870年代以降		
131	4	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・小瓶	6.1	2.5	2.7	輪郭成形 型あて 成形	底径 7.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 型あて 成形	近代		
	5	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・瓶 コバルト染付瓶	(10.8)	(3.8)	5.5	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	底径 11.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	1870年代以降		
	6	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・瓶 コバルト染付瓶	(11.2)	4.0	6.1	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	底径 11.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 コバル ト染付 (原) 内面 に付着物有	1870年代以降		
132	7	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・瓶 銅板貼付瓶	11.8	4.1	5.1	輪郭成形 オ色鉛 筆貼付 (原) 内面 に付着物有	底径 12.5	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 オ色鉛 筆貼付 (原) 内面 に付着物有	1880年代以降		
	8	須磨園 (宮御公園)	—	燒結陶・地利 款文字一分地利	10.9	[13.7]	—	輪郭成形 古鐵 文字一分地利 (原) 底径 2	底径 13.7	砂粒 (白多)	良好	輪郭成形 古鐵 文字一分地利 (原) 底径 2	近代		
	9	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・萬葉物 最大径 (6.0) 受部径 (4.6)	—	—	1.2	輪郭成形 受部貼 付	—	砂粒 (白)	良好	輪郭成形 受部貼 付	近代以降		
133	10	上平道場	表鉢	平鉢	径 (6.5)	1.5	0.5	輪郭 内面に付着物有	底径 14.5	砂粒 (白)	良好	灰白 (2.5Y7/2)	良・良 (平安時代)		
	11	高須遺跡 (第3地盤)	—	圓文土器	—	—	[10.4]	輪郭成形 外縁はナギ	底径 14.5	砂粒 (白多) 粘土質	良好	灰白 (2.5YR6/6)	繩文時代		
	12	下野原山遺跡 (第1地盤)	トレンチ③ SH02	土器類・高台付 手	15.5	9.2	6.2	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	底径 16.5	砂粒 (白)	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	11世紀		
134	13	下野原山遺跡 (第1地盤)	トレンチ③ SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.7]	輪郭成形 外縁はナギ	底径 16.5	砂粒 (白) 粘土質	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	11世紀		
	14	下野原山遺跡 (第1地盤)	トレンチ③ SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.7]	輪郭成形 外縁はナギ	底径 16.5	砂粒 (白) 粘土質	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	11世紀		
	15	山古志古墳 (第1地盤)	トレンチ① SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.7]	輪郭成形 外縁はナギ	底径 16.5	砂粒 (白) 粘土質	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	11世紀		
135	16	山古志古墳 (第1地盤)	トレンチ⑨ SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.8]	口縁水波き成形 (原)	底径 16.5	砂粒 (黑)	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	8世紀後半		
	17	山古志古墳 (第1地盤)	トレンチ⑨ SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.8]	口縁水波き成形 (原)	底径 16.5	砂粒 (黑)	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	8世紀後半		
	18	山古志古墳 (第1地盤)	トレンチ⑨ SH02	土器類・高台付 手	—	—	[2.8]	口縁水波き成形 (原)	底径 16.5	砂粒 (黑)	良好	内面凹口縁部ヨコ 付 (原) 外縁に付着 物有	8世紀後半		
136	19	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・萬葉物 最大径 (6.0) 受部径 (4.6)	—	—	—	輪郭成形 受部貼 付	—	砂粒 (白)	良好	輪郭成形 受部貼 付	9世紀～10世紀		
	20	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・萬葉物 最大径 (6.0) 受部径 (4.6)	—	—	—	輪郭成形 受部貼 付	—	砂粒 (白)	良好	輪郭成形 受部貼 付	9世紀～10世紀		
	21	須磨園 (宮御公園)	—	磁器・萬葉物 最大径 (6.0) 受部径 (4.6)	—	—	—	輪郭成形 受部貼 付	—	砂粒 (白)	良好	輪郭成形 受部貼 付	9世紀～10世紀		

圆版	番号	遗物名	出土位置	種別・器形 (第4地点)	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成 度	色 (外面・内面)	備考
					細別	口径	底径	器高					
	1	国民政府 (第4地点)	SB01-P1	陶器部・直彌壺	(11.5)	—	[35]	口クロ・水挽き成形 底20mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y6/1)	8世紀前半、 木炭・灰質胎土	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	
	2	国民政府 (第4地点)	SB01-P2	陶器部・环壺	最大径 (3.4)	—	[12]	口クロ・水挽き成形	砂粒(透・白) 砂質	灰(7.5Y6/1)	8世紀前半、 木炭・灰質胎土	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	
	3	国民政府 (第4地点)	SB01-P2	陶器部・舞台环	—	(8.0)	[20]	口クロ・水挽き成形 底23mm	砂粒(透・白) 砂質	黄灰(2.5Y8/1)	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	
	4	国民政府 (第4地点)	SB01-P2	陶器部・有台环	(17.0)	(10.3)	[40]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(7.5Y4/1)	7世紀後半、 4四半期	7世紀後半、 4四半期	
	5	国民政府 (第4地点)	SB01-P3	陶器部・环壺	最大径 (12.0)	—	[19]	口クロ・水挽き成形 底20mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(7.5Y5/1)	7世紀後半、 4四半期	7世紀後半、 4四半期	
	6	国民政府 (第4地点)	SB01-P3	陶器部・环壺	最大径 (19.0)	—	[22]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y8/1)	7世紀後半、 4四半期	7世紀後半、 4四半期	
164	7	国民政府 (第4地点)	SB01-P3	陶器部・無台环	口径 (16.0)	底径 (10.0)	[47]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y5/1)	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	
	8	国民政府 (第4地点)	SB01	陶器部・無台环	—	(13.0)	[19]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y7/2)	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	8世紀初頭、 木炭・灰質胎土	
	9	国民政府 (第4地点)	SI01	陶器部・环壺	最大径 (3.5)	—	[13]	口クロ・水挽き成形	砂粒(透・白) 砂質	灰(2.5Y7/1)	8世紀前半、 灰質胎土	8世紀前半、 灰質胎土	
	10	国民政府 (第4地点)	SI01	陶器部・無台环	—	(9.0)	[12]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(2.5Y6/2)	8世紀前半、 灰質胎土	8世紀前半、 灰質胎土	
	11	国民政府 (第4地点)	SK12	陶器部・有台环	最大径 (8.0)	—	[10]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y5/1)	7世紀後半、 4四半期	7世紀後半、 4四半期	
	12	国民政府 (第4地点)	SK11	陶器部・無台环	—	(9.0)	[07]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(2.5Y6/2)	木炭・灰質胎土	木炭・灰質胎土	
	13	国民政府 (第4地点)	SK3	陶器部・环壺	最大径 (18.0)	—	[15]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(2.5Y7/1)	8世紀	8世紀	
	14	国民政府 (第4地点)	遺構5	陶器部・直彌壺	—	(12.0)	[34]	口クロ・水挽き成形 底25mm	砂粒(透・白) 砂質	灰(5Y7/1)	8世紀、黒釉 能力	8世紀、黒釉 能力	
	1	国民政府 (第4地点)	SK05	陶文土器	—	—	—	波状口部・口部斜 面・直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様・ 外面部化粧文様	口径 18%	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	2	国民政府 (第4地点)	SK05上層	陶文土器	—	—	—	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	3	国民政府 (第4地点)	SK05上層	陶文土器	—	—	—	口部波状文、 外面部化粧文様	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	4	国民政府 (第4地点)	SK05・06	陶文土器	—	—	—	直彌壺・波状文、 單耳斜縫目耳	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	5	国民政府 (第4地点)	SK05上層	陶文土器	—	—	—	波状口部・單耳斜 縫目耳	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	6	国民政府 (第4地点)	SK05上層	陶文土器	—	—	—	波状口部・複合斜 縫目耳	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	7	国民政府 (第4地点)	SK05上層	陶文土器	—	—	—	波状口部・單耳斜 縫目耳	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
171	1	国民政府 (第4地点)	SK07上層	陶土器・深鉢 形土器	—	—	—	波状口部・口部斜 面・直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様・ 外面部化粧文様	口径 94%	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	2	国民政府 (第4地点)	SK07下層	陶土器・深鉢 形土器	—	—	—	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様	—	砂粒(透)	良好	灰(10Y8/4)・ 黑(10Y8/3)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	3	国民政府 (第4地点)	SK07中・下 層	陶土器・深鉢 形土器	(20.9)	(9.4)	[23.7]	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	口径 95%	砂粒(透)	普通	灰(7.5Y5/1)・ 黑(7.5Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	4	国民政府 (第4地点)	SK07	陶土器・深鉢 形土器	—	—	[7.7]	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	口径 95%	砂粒(透)	良好	灰(7.5Y5/1)・ 黑(7.5Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	5	国民政府 (第4地点)	SK07 線上・中 層	陶土器・深鉢 形土器	(22.0)	—	[9.4]	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	口径 95%	砂粒(透)	良好	灰(7.5Y5/1)・ 黑(7.5Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	6	国民政府 (第4地点)	SK07上層	陶文土器・深鉢 形土器	(45.5)	—	[13.5]	波状口部・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	口径 16%	砂粒(白・黒) 砂質	良好	橙(7.5YR7/6)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
172	7	国民政府 (第4地点)	SK07上・中 層	陶文土器・浅鉢 形土器	(42.0)	—	[18.0]	直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	口径 26%	砂粒(白・透) 砂質	良好	灰(10YR7/4)・ 黑(10Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	8	国民政府 (第4地点)	SK07下層	陶文土器	—	—	—	直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	—	砂粒(白・透) 砂質	普通	灰(10YR7/4)・ 黑(10Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
	9	国民政府 (第4地点)	SK07上層	陶文土器	—	—	—	直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様・ 直彌壺・直彌壺 單耳の複合文様	—	砂粒(白・透) 砂質	良好	灰(10YR7/4) 黄(10Y3/1)	織文時代中期 後半・加賀利 E式
174													

回 版 号	番 號	遺跡名	出土位置	種別・器形 (細別)	法量(cm)			觀察所見	残存率	胎土	焼成 (外面・内面)	色 調	備考
					口径	底径	器高						
10	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(黒多)	良好	に点状(10Y37/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
11	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、圓文	—	砂粒(黒・透)	良好	浅褐色(10Y38/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
12	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07上層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	に点状(10Y37/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
13	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、圓文	—	砂粒(黒・透)	良好	褐色(10Y38/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
14	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07上層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	に点状(10Y37/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
15	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 級上・中層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、波綱文、 單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(白・ 黒多・透多)	良好	に点状(10Y36/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
16	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白・透) 多・砂 粒(白・黒)	良好	褐(7.5YR4/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
17	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	褐灰(10YR4/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
18	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	波状口縫、隆起縦 文、單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(白・ 黒多)	良好	に点状(10Y37/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
19	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	波状口縫、隆起縦 文、單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(白・透)	良好	褐灰(10YR4/1) に点状(10YR2/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
20	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	波状口縫、隆起縦 文、單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	に点状(10Y36/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
21	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 級上層	縄文土器	—	—	—	波状口縫、隆起縦 文、單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(白・黒・ 透多)	良好	黑(7.5YR3/1) に点状(7.5YR3/1)	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
22	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	波状口縫、隆起縦 文、單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(黒多・ 透多)	良好	に点状(10Y36/4) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
23	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黑(10YR3/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
24	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器・茂林 形土器	—	—	—	口部に波綱文	—	砂粒(白多・ 透多)	普通	黑(10YR3/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
25	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、刺突文	—	全多	良好	黑(10YR3/2) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
26	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 級上層	縄文土器	—	—	—	單頭斜縫文R.L.	—	砂粒(黒多・ 透多)	良好	二云(10YR5/2) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
27	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	褐(7.5YR4/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
28	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 黒・透多)	良好	に点状(7.5YR4/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
29	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白・透)	良好	黑(10YR3/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
30	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	全多、骨粉 砂粒(白多)	良好	に点状(7.5YR2/1) に点状(7.5YR2/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
31	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 黒・透多)	良好	二云(10YR5/2) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
32	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	二云(10YR5/2) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
33	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 級上層	縄文土器	—	—	—	隆起縦文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黑(10YR2/1) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	
34	東民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	波綱文、單頭斜 縫文R.L.	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黑(7.5YR5/2) 後下「加賀利 木式」大	褐色時代(明 後下「加賀利 木式」大)	

圆 版 号	番 号	遗物名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			觀察所見	残存率	胎土	焼成	色 調 (外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
	35	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文L.R.	—	砂粒(白多・透)	良好	に点状痕(10YR15/2) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	36	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒、砂粒 (白多・黑)	良好	に点状痕(10YR15/2) 灰黄褐(10YR4/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	37	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒、砂粒 (白多)	良好	黒褐(10YR3/1) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	38	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L. 内面剥離	—	砂粒、砂粒 (白多)	良好	黒(7SYR6/4) 灰褐(7SYR5/4)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	39	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07最上層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒(黑・透)	良好	灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	40	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文L.R.	—	砂粒(黑・透)	良好	黒(5YR6/4) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a式
	41	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文L.R.	—	砂粒(黑・白)	良好	浅黄褐(10YR8/4) 灰黄(2.5YR6/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
175	42	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07中・下 層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文L.R.	—	砂粒(白多・透)	良好	に点状痕(10YR6/4) 灰褐(10YR4/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	43	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒(白多・透)	良好	黒褐(10YR3/1) に点状痕(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	44	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07上・層・ SII	縄文土器	—	—	[17.5]	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒、砂粒 (白多)	良好	赤褐(5YR4/6) に 点状痕(7SYR5/4) —黒(7SYR2/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	45	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07最上層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒(白多・透)	良好	黒褐(2.5YR3/1) 經(5YR6/6)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	46	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒(透)	良好	に点状痕(10YR7/4) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	47	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	砂粒(黑多・透)	良好	に点状痕(10YR7/4) に点状痕(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	48	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈綴文、單脚斜縫 文R.L.	—	金、砂粒(白 多・透)	良好	黒(10YR2/1) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式・a・b式
	49	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07上層	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文L.R.	—	砂粒(白・黑)	良好	に点状痕(10YR7/4) に点状痕(7SYR7/6)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	50	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文L.R.	—	砂粒(白・黑)	良好	黒褐(10YR3/1) 經(5YR6/6)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	51	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07上層	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文L.R.	—	砂粒(白多・透)	良好	黒褐(7SYR2/2) に点状痕(5YR3/6)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	52	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07最上層	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文R.L.	—	砂粒(黑多・透)	良好	灰褐(10YR4/1) 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	53	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07最上層	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文R.L.	—	砂粒(透)	良好	灰褐(10YR4/1) に点状痕(10YR5/4)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	54	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	単脚斜縫文R.L.	—	砂粒(黑)	良好	経(7SYR2/6) 經(5YR6/6)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	55	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	条綴文、沈綴文	—	金多、砂粒 (透多)	良好	に点状痕(7SYR5/4) 灰褐(7SYR4/2)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	56	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	[11.6]	—	単脚斜縫文L.R. 底面斜縫文	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	に点状痕(10YR6/4) 經(10YR2/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	57	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07最上・ 中層	縄文土器	—	(10.5)	[14.0]	単脚斜縫文L.R. 底面斜縫文	底径 67	砂粒(白多・ 黒)	良好	黒褐(7SYR5/6) 經(10YR4/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	58	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	(9.4)	[5.9]	単脚斜縫文L.R. 底面斜縫文	底径 86	金多、砂粒 (白多)	良好	黒褐(7SYR5/6) 經(10YR4/1)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式
	59	更民坂遺跡 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	(10.0)	[4.0]	底面斜縫文	底径 26	砂粒(白多・ 透)	良好	黒(7SYR6/6) に点状痕(10YR5/3)	縄文時代中期 後半? 加賀利 木式

圆版	番号	遗物名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			觀察所見	残存率	胎土	焼成	色調(外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
176	60	圓底灰陶杯 (第4地点)	SK07下層	縄文土器	—	—	—	直面斜代痕	—	砂粒(白多・黒多・透)	良好	黒褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式
	61	圓底灰陶杯 (第4地点)	SK07上層	縄文土器	—	—	[3.2]	直面斜代痕	—	砂粒(白・透多)	良好	灰黃褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式
1	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	獨立脚文、單腳斜 縄文L R	—	砂粒(白多・透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
2	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	直底口縁、沈縄文、 單腳斜縄文L R	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰黃褐(10YR6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
3	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	直底口縁、直起縁 文	—	砂粒(白多・透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
4	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11中層	縄文土器	—	—	—	直底口縁、直起縁 文	—	砂粒、砂粒 (白・透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰黃褐(10YR6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
5	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11上層	縄文土器	—	—	—	獨立脚文、單腳斜 縄文L R	—	金、砂粒(白多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
6	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	独立脚文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
7	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
8	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11中層	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(透多)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰黃褐(10YR6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
9	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	骨針多	普通	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
10	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	無縫文、外面に炭 化物の着有	—	砂粒(白・黒・ 透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
11	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11中層	縄文土器	—	—	—	沈縄文	—	砂粒(白多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
12	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	獨立脚文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
13	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	独立脚文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(黑)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
14	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	直起縁文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(白・透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
15	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文	—	砂粒(白多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
16	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11中層	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒多、砂 粒(透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
17	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	無縫文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(白多・ 透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
18	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	灰(5Y6/1)～ 灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
19	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(白多・ 透)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
20	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
21	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	单脚斜縄文L R	—	砂粒(白多・ 透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
22	更民灰陶罐 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	单脚斜縄文L R	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	灰黃褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
178	1	更民灰陶罐 (第4地点)	SK12	縄文土器・深井 形土器	(30.5)	—	[40.1]	口徑 30%	砂粒 (白多)	良好	黑褐(10YR5/2)～ 灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)	縄文時代中期 後半？ 加厚有 E式	
	2	更民灰陶罐 (第4地点)	SK12中層	縄文土器・浅井 形土器	38.6	—	[20.2]	口徑 90%	金多、砂粒 (白多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 阿玉台 1・大木8a式	
179	3	更民灰陶罐 (第4地点)	SK12上・中 層	縄文土器・深井 形土器	—	13.0	[40.8]	62%	金多、砂粒 (白多)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 阿玉台 1・大木8a式	
180	4	更民灰陶罐 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	口瓣部に沈縄文、 内側に直縁、外側に 横縁、底部に斜縁、 腹部に凹凸の着有	—	砂粒、砂粒 (透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 大木8a式	
	5	更民灰陶罐 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	沈縄文、單脚斜 縄文L R	—	砂粒(白・透)	良好	灰(5Y6/2)～ 灰(5Y6/3)～ 灰(5Y6/4)	縄文時代中期 後半？ 大木8a式	

圆版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			觀察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
	6	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	下載式骨柱工具に よる痕跡。單脚 斜腹式。	砂粒(白透)	良好	褐(5YR6/4)・ 灰(5Y6/2)・ 白(10YR1/2)	織文時代中期 大木B式。	
	7	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	単脚斜腹式 L.R.底出は魚鉤文。 柄付(柄工具に よる痕跡あり)。	金、骨粒 砂粒(白透)	良好	褐灰(10YR4/1)	織文時代中期 大木B式。	
	8	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	陶器	金多、砂粒 (白)	良好	褐赤褐(5YR5/0)・ 褐(7.5YR6/0)	織文時代中期 中尾・阿玉台 式。	
	9	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	筆紋文	砂粒(墨多)	良好	黑褐(10YR3/2)・ 灰(5Y6/2)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 阿玉台 式。	
	10	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	磨削工具(6本)。 單脚斜腹式。 外輪式切削刃付。	砂粒(白・黒)	良好	灰青褐(10Y5/2)・ 黑褐(2.5Y3/1)	織文時代中期 大木B式。	
	11	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	口円部・側面は單 脚斜腹式R.L.	骨針、砂粒 (白・透)	良好	灰(10YR5/3)・ 灰(10YR6/3)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 中尾・阿玉台 式。	
	12	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	開拓工具(6本)。 L.R.底出は文書文。 △状工具による 痕跡。	砂粒(白・黒)	良好	灰(10YR6/0)・ 灰(10YR6/1)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 中尾・阿玉台 式。	
	13	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。沈殿文	金多	良好	灰(10YR6/6)・ 灰(10YR6/5)・ 白(10YR6/5)	織文時代中期 大木B式。	
	14	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式。	金、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/5)・ 灰(10YR6/4)・ 白(10YR6/5)	織文時代中期 大木B式。	
	15	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式。	砂粒(白・黒)	良好	灰黄(10Y5/2)・ 灰(5Y6/2)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	16	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	下載式骨柱工具に よる痕跡。單脚 斜腹式R.L.	骨針、砂粒 (白)	良好	黑褐(10YR3/2)・ 灰(5Y6/2)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
180	17	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式。	骨针、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	18	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	下載式骨柱工具に よる痕跡。單脚 斜腹式。	骨针、砂粒 (白・墨)	良好	灰(10YR6/2)・ 灰(10YR6/2)・ 白(10YR6/2)	織文時代中期 大木B式。	
	19	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	金、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/5)・ 灰(10YR6/4)・ 白(10YR6/5)	織文時代中期 大木B式。	
	20	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	金多、砂粒 (白)	良好	黑褐(2.5Y3/1)	織文時代中期 大木B式。	
	21	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12上層	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	砂粒(白・透)	良好	褐(7.5YR5/1)・ 灰(5Y6/1)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	22	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	砂粒(白)	良好	褐(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	23	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12上層・ 中層	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	骨针、砂粒 (白多・墨)	良好	灰(10YR2/1)・ 灰(10YR2/1)	織文時代中期 大木B式。	
	24	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	骨针、砂粒 (白)	良好	灰(10YR2/1)・ 灰(10YR2/1)	織文時代中期 大木B式。	
	25	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12上層・ 中層	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	金、砂粒 (白多)	良好	灰(10YR2/1)・ 灰(10YR2/1)	織文時代中期 大木B式。	
	26	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	砂粒(白多・ 透)	良好	黑褐(2.5Y3/2)	織文時代中期 大木B式。	
	27	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	砂粒(白)	良好	褐(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	28	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12中層	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	骨针、砂粒 (白)	良好	灰(10YR2/1)	織文時代中期 大木B式。	
	29	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文	砂粒(白)	良好	灰(10YR2/1)	織文時代中期 大木B式。	
	30	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	金多、砂粒 (白)	良好	褐(10YR6/1)・ 灰(5Y6/1)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	31	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜 腹式R.L.	骨针、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	32	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	單脚斜腹式R.L.	砂粒(白)	良好	灰(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	33	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	單脚斜腹式R.L.	金多、墨多	良好	褐(10YR3/1)・ 灰(5Y6/1)・ 白(10YR3/1)	織文時代中期 大木B式。	
	34	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文。沈殿文	金多、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/5)・ 灰(10YR6/5)・ 白(10YR6/5)	織文時代中期 大木B式。	
	35	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	疊起文	砂粒(白)	良好	灰(10YR4/2)・ 灰(10YR4/2)	織文時代中期 大木B式。	
	36	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12上層・ 中層	縄文土器	—	—	—	疊起文	金、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/1)・ 白(10YR6/1)	織文時代中期 大木B式。	
	37	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12上層	縄文土器	—	—	—	疊起文	骨针、砂粒 (白)	良好	灰(10YR6/0)・ 白(10YR6/0)	織文時代中期 大木B式。	
	38	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	(7.6)	[5.8]	—	外輪式單脚斜腹式 R.L.底出は調整文	灰(5)	良好	褐(7.5YR4/3)・ 白(10YR6/4)	織文時代中期 大木B式。	
	39	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	(11.6)	[3.2]	—	外輪式多条文、底 出は調整文	灰(5)	良好	灰(7.5YR4/3)・ 白(10YR6/4)	織文時代中期 大木B式。	
	40	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	(11.0)	[3.1]	—	底出は單脚斜腹 式	灰(5)	良好	灰(7.5YR4/3)・ 白(10YR6/4)	織文時代中期 大木B式。	
	41	東民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	[1.2]	底出は單脚斜腹 式	砂粒(白)	良好	灰(5YR5/6)・ 白(10YR6/4)	織文時代中期 大木B式。	
181	1	東民坂遺跡 (第4地点)	SK15上層	縄文土器・擴形 土器	—	—	[17.7]	沈殿文。單脚斜腹 式R.L.	砂粒(白)	良好	褐(7.5YR4/3)・ 白(10YR6/4)	織文時代中期 大木B式。	
182	2	東民坂遺跡 (第4地点)	SK15	縄文土器	—	—	—	疊起文。單脚斜腹 式R.L.	砂粒(白多・ 透)	良好	灰(7.5YR3/2)・ 白(10YR3/2)	織文時代中期 後半・加賀型 E式。	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調(外面・内面)	備考	
					細別	口径	底径							
182	3	東北支遺跡 (第4地点)	SK15	縦文土器	—	—	—	単頭斜縞文R.L.	—	砂粒(白・透)	良好	灰・黄褐色(1070C- 1070E-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	4	東北支遺跡 (第4地点)	SK15	縦文土器	—	(10.0)	[15.0]	単頭斜縞文R.L.	底径 32%	砂粒(白・透)	良好	灰・黄褐色(1070C- 1070E-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
183	1	東北支遺跡 (第4地点)	SK03	縦縞文	縦文土器	—	—	—	透底口縫、隠起縫 文?	—	砂粒(白・黒)	普通	浅黄褐(10YB8-4)	縄文時代中期後半? 加賀利 式
	2	東北支遺跡 (第4地点)	SK06	縦文土器	—	—	—	透底口縫、沈縫 文?	—	骨粒多、砂 粒(黒)	良好	黑褐色(10YR8-1) 灰・黄褐色(10YB8-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	3	東北支遺跡 (第4地点)	SK06	縦文土器	—	—	—	直腹縫、单頭斜 縞文L.	—	砂粒(白)	良好	灰褐色(10YB8-2/ 10YR8-1)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	4	東北支遺跡 (第4地点)	SK10	縦文土器	—	(9.2)	[14.9]	単頭斜縞文R.L.	底径 62%	骨粒、砂粒 (白多・黒多)	良好	褐(7.5YR7-6) — 黑(7.5YR2-1)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	5	東北支遺跡 (第4地点)	SK19	縦文土器	—	—	—	開底縫文、沈縫文、 单頭斜縞文R.L.	—	砂粒(白多)	良好	黑褐色(7.5YR5-6/ 7.5YR4-1)	縄文時代中期後半? 阿豆野 式、木下式	
	6	東北支遺跡 (第4地点)	SK20	縦文土器・深鉢 形土器	(27.6)	—	[21.6]	透底口縫、隠起縫 文、单頭斜縞文 L.	口径 20%	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	灰・黄褐色(10YR2-2/ 10YR3-1)	縄文時代中期後半? 加賀利 式、木下式	
	7	東北支遺跡 (第4地点)	SK22	縦文土器	—	—	(6.8)	透底縫文、单頭斜 縞文L.R.	—	骨粒	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	縄文時代中期後半? 加賀利 式、木下式	
	8	東北支遺跡 (第4地点)	SK23	縦文土器・深鉢 形土器	—	[14.5]	透底口縫、沈縫文、 单頭斜縞文L.R.	口径 19%	全、骨粒、 砂粒(白多)	良好	褐(10YR2-3/ 10YR2-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式		
	9	東北支遺跡 (第4地点)	SK23	縦文土器	—	—	—	直底縫文、单頭斜 縞文L.	—	骨粒多、砂 粒(黒多)	良好	灰・黄褐色(10YR2-3/ 10YR2-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式、木下式	
	10	東北支遺跡 (第4地点)	SK23	縦文土器	—	—	—	单頭斜縞文	—	骨粒、砂粒 (黒多)	良好	灰・黄褐色(10YR2-3/ 10YR2-2)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	11	東北支遺跡 (第4地点)	SK26	縦文土器	—	—	—	無頭斜縞文L.	—	砂粒(白・黒)	良好	褐(7.5YR4-4/ 7.5YR4-3)	縄文時代中期後半? 加賀利 式	
	12	東北支遺跡 (第4地点)	SK36	縦文土器	—	—	—	隠起縫文	—	全、砂粒 (白多)	良好	褐(7.5YR4-4/ 7.5YR4-3)	縄文時代中期後半? 大木下式	
153	1	周知外 (安東寺遺跡)	トレンチ	縦文土器	—	—	—	縦文、押引文	—	全、砂粒 (黒・透)	良好	灰・黄褐色(10YR3-3/ 10YR3-2)	縄文時代中期後半? 阿豆野 式	
	2	周知外 (安東寺遺跡)	トレンチ	縦文土器	—	—	—	单頭斜縞文L.	—	全、砂粒 (白)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4)	縄文時代中期	
	3	周知外 (安東寺遺跡)	トレンチ	縦文土器	—	—	—	直底縫文、单頭斜 縞文L.R.	—	砂粒(白・透)	良好	明褐色(7.5YR5-6)	縄文時代中期	
	4	周知外 (安東寺遺跡)	トレンチ	弥生土器	—	—	—	付加部有輪L.R. +2.8、縦文原体 による刺繍	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	奈良時代後期 二軒足式	
	5	周知外 (安東寺遺跡)	トレンチ	土師器・無台杯	(12.2)	(6.6)	3.3	輪底形成、系切底	底径 23%	砂粒(白・透)	良好	灰・黄褐色(7.5YR3-4/ 10YR3-4)	10世紀以前	
154	1	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S01	弥生土器	縦縫 6.1	—	[11.6]	複合底部文、複合 縫合部文、棒状土 器による押引文、 直底縫文、单頭斜 縞文(縫合部文と 直底縫文の間に 棒状土器)、外側に 民具の付着、内 側に民具の付 着、西面に单頭斜 縞文(5本)に 上毛な様子	径 95%	全多、砂粒 (白多)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	2	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ1	弥生土器	—	—	—	—	—	砂粒(白)	良好	褐(7.5YR6-6)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	3	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S01・02	弥生土器	—	—	—	—	—	砂粒(白)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	4	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S02	弥生土器	—	—	—	付加部有輪L.R. +2.8、縦文原体 による刺繍	—	砂粒(白)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	5	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S02	弥生土器	—	—	—	縦文を主とさせ、 其の上に斜縫文を 付す(縫合部文と 直底縫文の間に 棒状土器)	—	砂粒(白・透)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	6	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S03	弥生土器	—	—	—	縦文を主とさせ、 其の上に斜縫文を 付す(縫合部文と 直底縫文の間に 棒状土器)	—	砂粒(白・透)	普通	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	7	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2 S03	弥生土器	(6.4)	[2.7]	—	縦文を主とさせ、 其の上に斜縫文を 付す(縫合部文と 直底縫文の間に 棒状土器)	底径 17%	砂粒(白・透)	良好	褐(10YR4-1) — 灰(10YR4-2)	弥生時代後期 後半? 十三石方 式	
	8	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ1	土師器・甕	(13.0)	—	[5.8]	—	—	全多、砂粒 (白多・透)	良好	黑褐(7.5YR3-2)	8世紀後半	
	9	美工立遺跡 (第2地点2.3)	トレンチ2	土師器・甕	—	5.8	[2.1]	外側へ削り	底径 100%	砂粒(白・透)	良好	灰・黄褐色(10YR3-4/ 10YR3-3)	8世紀後半	



図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				細別	口径	底径	器高					
154	10 墓王室墓群 M903	トレンチ2 (第1地點第2段)	須恵器・有台环	—	(9.6) [22]	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 35%	砂粒(白多) 砂粒(白・黒)	褐色 褐色	褐色(10YR4/1) 9世紀後半
1	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・無台环	—	7.4	[3.3]	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 100%	砂粒(白・黒) 砂粒(白)	褐色 褐色	褐色(10YR4/1) 褐色(2.5YR4/2) 9世紀後半
2	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・無台环	—	6.8	[3.6]	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 100%	砂粒(白多) 砂粒(白)	褐色 褐色	褐色(10YR5/4) 9世紀後半
3	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・無台环	—	(8.0) [1.4]	—	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 42%	砂粒(白多) 砂粒(白)	褐色 褐色	褐色(7.5YR7/1) 褐色(7.5YR6/1) 9世紀前半
4	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・無台环	—	(8.2) [3.4]	—	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 27%	骨灰多、砂 粒(白多)	褐色 褐色	褐色(2.5YR4/2) 9世紀前半
155	5 平ナ山窯跡群 表探	須恵器・有台环	(17.8)	—	[5.6]	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	口径 4%	骨灰、砂粒 (白)	褐色 褐色	褐色(7.5YR6/1) 9世紀前半
6	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・有台环	—	(7.0) [2.0]	—	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	底径 53%	砂粒(白)	褐色 褐色	褐色(2.5YR5/2) 9世紀前半
7	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・有台皿	—	(11.6) [2.4]	—	—	—	クロコ水挽き成形	底径 50%	骨灰(白、 50%黒多)	褐色 褐色	褐色(2.5YR6/1) 9世紀後半
8	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・有台皿	(19.4)	10.2	4.4	—	—	クロコ水挽き成形	口径 14% 底径 69%	砂粒(白多)	褐色 褐色	褐色(5YR5/1) 9世紀後半
9	平ナ山窯跡群 表探	須恵器・有台皿	—	(10.2) [3.2]	—	—	—	クロコ水挽き成形	底径 37%	砂粒(白多)	褐色 褐色	褐色(C5NS/1) 9世紀後半
156	1 中河内遺跡 (第3地點)	トレンチ 土師器・碗	(17.0)	(10.8)	6.9	—	—	内面黑色處理	口径 37% 底径 49%	骨灰多、骨灰 普通	褐色 褐色	褐色(3.5YR7/6) 褐色(5Y4/1) 8世紀末～9 世紀前半
2	中河内遺跡 (第3地點)	トレンチ 須恵器・無台环	(14.6)	(8.4)	5.5	—	—	クロコ水挽き成形	口径 31% 底径 43%	骨灰、砂粒 (白多)	褐色 褐色	褐色(3.5YR6/4) 褐色(5Y4/1) 8世紀末～9 世紀前半
3	中河内遺跡 (第3地點)	トレンチ 須恵器・無台环	(12.6)	(7.6)	4.4	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	口径 8% 底径 32%	骨灰、砂粒 (白)	褐色 褐色	褐色(5Y5/1) 褐色(5Y6/1) 8世紀後半
4	中河内遺跡 (第3地點)	トレンチ 須恵器・有台环	(15.6)	(10.0)	5.8	—	—	クロコ水挽き成形 底面にテラコッタ記 号あり	口径 4% 底径 43%	骨灰、砂粒 (白)	褐色 褐色	褐色(5Y5/1) 褐色(5Y6/2) 8世紀中葉
157	1 古内遺跡 (第2地點第2段) 土工	トレンチ4 須恵器・長颈瓶	—	(8.4)	[4.4]	—	—	クロコ水挽き成形、 内面に白粉着 あり	口径 21%	砂粒(白)	褐色 褐色	褐色(5Y4/1) 褐色(5Y3/1) 平安時代
2	古内遺跡 (第2地點第2段)	トレンチ 土工	土器・内耳罐	(32.0)	—	[5.8]	—	粗縫口クロコ水挽 き成形、内面に白粉 着あり	口径 7%	骨灰、砂粒 (白・透)	良好	橙(SYR6/6) 中世以降
3	古内遺跡 土工	トレンチ 土工	土器・鉢	(22.6)	—	[2.9]	—	クロコ成形、外面 に旋削仕上げ	口径 11%	金多、骨灰 砂粒(白多)	褐色 褐色	褐色(2.5Y3/1) 褐色(2.5Y4/1) 近世以降

*括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

*「胎」の記号には、次の記号を使用する。

「金」：余色を有する強化した黒窯跡片（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「銀」：銀色を有する強化した白色窯片（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「骨灰」：白色灰陶質とも云われる海綿骨灰（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「白」：白色不透明で長石あるいは石英を考えられる粒子（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「黒」：黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「透」：透明で石英と考えられる粒子（さらには、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）



第12表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ			重量 (g)	備考
						(mm)	(mm)	(mm)		
51	7	分道跡(第1地点第1次)	旧耕作土中	砥石	粘板岩	10.3	2.1	2.2	73	
54	2	分道跡(第13地点)	遺物貯	安山岩	10.9	7.3	3.9	444	縄文時代	
66	11	前光内遺跡(第3地点第3次)	マンホールNo.10-11 (トレンチ6)	砥石	不明	9.4	4	1.5	118	
157	4	今内遺跡(第2地点第3次)	トレンチ4 高土	砥石	粘板岩	9.4	3.6	1.7	65	
185	1	東尻坂遺跡(第4地点)	SR01 ピット1	鉈	珪質白石(久慈川産)	3.55	2.3	0.6	435	先土器時代
	2	東尻坂遺跡(第4地点)	SR01下部 磨文土坑	石鏟	チャーフト	2.7	2.3	0.5	17	縄文時代
	3	東尻坂遺跡(第4地点)	SR01下部	石鏟	チャーフト	2.35	1.6	0.3	0.92	縄文時代
	4	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07下部	磨製石斧	不明	6.85	2.6	0.7	2096	縄文時代
	5	東尻坂遺跡(第4地点)	SK11	磨製石斧	ホルンフェルス	10.3	5.2	2.3	202	縄文時代
	6	東尻坂遺跡(第4地点)	SK12	磨製石斧未製品	砂炒刃	19.1	7.8	5.4	952	縄文時代
	7	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07	遺物貯	石斧	17.4	7.1	5.2	984	縄文時代
	8	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07	遺物貯	安山岩	11.5	0.4	5	858	縄文時代
	9	東尻坂遺跡(第4地点)	SK06	石鏟	石斧	20	13.9	5.8	2.550	縄文時代
	10	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07上部	石鏟	安山岩	25.1	16.6	5.4	3.950	縄文時代
	11	東尻坂遺跡(第4地点)	SK10 A区 No.10	鉈	ホルンフェルス	7.7	12.55	3.8	286	縄文時代
	12	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07 B区	石鏟	チャーフト	3.4	3.8	2.55	42	縄文時代
	13	東尻坂遺跡(第4地点)	SK19 No.2	石鏟	ホルンフェルス	12.3	10.25	11.2	1.793	縄文時代
	14	東尻坂遺跡(第4地点)	SK07 No.52	遺物貯	石斧未製品	10.3	6.4	3.6	355	縄文時代
	15	東尻坂遺跡(第4地点)	SK08 No.9	遺物貯	安山岩	13.4	12	4.05	1.044	縄文時代
	16	東尻坂遺跡(第4地点)	SK17 No.4	遺物貯	安山岩	11.5	11	5.9	1.038	縄文時代。全面が赤化。

第13表 金属器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ			重量 (g)	備考
						(mm)	(mm)	(mm)		
66	12	前光内遺跡(第3地点第3次)	マンホールNo.10-11 (トレンチ6)	鉄矛	鉄	8.0	9.4	2.0	204	

第14表 銭貨観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	銭名・銭種	初鋳造年 (鋳造年)	外径			重量 (g)	備考
						(mm)	(mm)	(mm)		
8	1	西門小学校遺跡(第2地点)	—	實木遺寶(新實本) 寛文8(1668)年	2.3	0.6	0.15	3.0	銅一枚銭	

*計測値は、残存する状態での最大値である。



引用・参考文献

- 渥美賢吾 2011 「3~4 軍民坂遺跡（第4地点）」『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦 2018 「黒色磨研土器からみた常陸における古代土器の様式転換とその背景」『斐良岐考古』第40号 斐良岐考古同人会
- 渥美賢吾・色川順子・川口武彦 2011 「2~27 台渡里遺跡（第43次）」『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 渥美賢吾・川口武彦 2011 「台渡里3~平成19~21年度長者山地区範囲確認調査概報一』水戸市教育委員会
- 石丸歎史・渥美賢吾編 2009 「大鶴町遺跡（第8地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 堀遺跡一住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大鶴町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大鶴町遺跡発掘調査会
- 1990 『葉王院東遺跡・千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市葉王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本賛子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 小川和博・大瀬津志編 2006 『台渡里遺跡一集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 川口武彦 2011 「軍民坂遺跡（第3地点）出土の墨書き土器」『茨城県考古学協会誌』第23号
- 川口武彦・新垣清貴・渥美賢吾・色川順子 2007 「3~2 台渡里廃寺跡（第26次）」『平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011 『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴編 2005 「大鶴町遺跡 グランディ・ビルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木雄進・間口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 「大鶴町遺跡（第3地点）一市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 佐々木雄進・林 邦夫編 2008 「台渡里遺跡（第39次調査）一公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 2013 「木製下窓跡群須恵器有台环・有台杯蓋・有台盤の編年」『斐良岐考古』第35号 斐良岐考古同人会
- 高野浩之・米川暢敬編 2011a 「台渡里5~市道常磐123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第60次）一』水戸市教育委員会
- 2011b 「赤塚遺跡（第5地点）一河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』水戸市教育委員会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 「水戸市山田窯跡群認定調査報告」『茨城県考古学協会誌』第10号 茨城県考古学協会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡一内原町遺跡分布調査報告書一』内原町史編さん委員会



報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅういちねんどみとしないいせきはくつちようさほうこくしょ						
書名	平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書						
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第105集						
編著者名	末川暢敬・瀬美賀音・色川順子・坂本幸子・関口慶久・川口武彦						
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111(代)				
発行年月日	2019(平成31)年3月22日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
酒門小学校跡 (第2地点)	酒門町千束1436.3の一部	08201 004	36° 24' 38" E 140° 24' 34"	2010.3.10	8.64	個人住宅建築	
大里町遺跡 (第11地点)	元古田町字狐岸2341-13, 2342-8, -13	08201 011	36° 21' 45" E 140° 29' 54"	2009.11.12	27	個人住宅建築	
谷田古墳群 (第11地点)	酒門町 587.5, 589.4, -6	08201 069	36° 20' 58" E 140° 29' 54"	2009.8.25	37	共同住宅建築	
吉田古墳群 (第7地点第1次)	元古田町 84-10	08201 072	36° 21' 29" E 140° 26' 15"	2009.8.12	15	宅地造成工事	
吉田古墳群 (第8地点)	元古田町 102-1	08201 072	36° 21' 29" E 140° 26' 15"	2009.9.24 ~ 9.25	74	宅地造成工事	
豊野外 (吉田古墳群遠接)	元古田町境内 市道駒山寺有線	08201 —	36° 21' 35" E 140° 26' 25"	2009.5.25	2.9	側溝設施工事	
福井古墳群 (第3地点)	米沢町 429-7	08201 074	36° 21' 10" E 140° 27' 55"	2009.4.16	6	個人住宅建築	
福井古墳群 (第4地点)	米沢町 429-1, 4-, 8-, -10	08201 074	36° 21' 12" E 140° 27' 55"	2009.6.9 ~ 6.10	132.5	共同住宅建築	
福井古墳群 (第5地点)	米沢町 421-1, -3	08201 074	36° 21' 09" E 140° 27' 52"	2009.6.8	12.6	個人住宅建築	
福井古墳群 (第8地点)	米沢町字組 420-1	08201 074	36° 21' 07" E 140° 27' 54"	2009.11.12	28.5	個人住宅建築	
新井間東遺跡 (第2地点第3次)	元古田町字東畠 573-2	08201 128	36° 21' 27" E 140° 28' 38"	2009.12.16	142.5	宅地造成工事	
愛宕町遺跡 (第1地点)	元古田町 645-6, -3	08201 140	36° 21' 03" E 140° 28' 24"	2009.6.1	9.75	個人住宅建築	
若林遺跡 (第1地点第3次)	見和3丁目 1389-1	08201 016	36° 22' 55" E 140° 25' 35"	2009.7.21	6	個人住宅建築	
若林遺跡 (第1地点第4次)	見和3丁目 1389-6 ~ -10, -15	08201 016	36° 22' 17" E 140° 25' 23"	2009.7.28 ~ 7.29	36	宅地造成工事	
青原遺跡 (第2地点)	見和町 2563-212	08201 167	36° 21' 27" E 140° 27' 37"	2009.7.21	6	個人住宅建築	
青原遺跡 (第4地点)	見和町 2570-1, -4	08201 167	36° 21' 35" E 140° 27' 45"	2010.1.21	41.25	宅地分譲	
高木原遺跡 (第2地点)	河和田1丁目 1541-2	08201 014	36° 22' 25" E 140° 25' 03"	2010.2.19	9.35	土地調査	
印遺跡 (第11地点第1次・2次)	河和田1丁目 2430-1, 2431, 2432, 2433, 2435	08201 015	36° 22' 25" E 140° 24' 44"	1次 2009.6.18 ~ 6.19 2次 2009.9.2	1次 50.25 2次 43	土地調査 築地4種類地點	
印遺跡 (第13地点)	河和田1丁目 1637-1, 1638	08201 015	36° 22' 26" E 140° 24' 45"	2010.2.10	12.8	共同住宅建築	
赤坂遺跡 (第5地点第2次)	河和田3丁目 2536	08201 042	36° 22' 38" E 140° 24' 58"	2009.6.16 ~ 18	274.3	共同住宅建設	
河和田城跡 (第11地点)	河和田町 486-1, -3, 485-1, -3, 484-1, -3	08201 102	36° 21' 50" E 140° 24' 57"	2009.5.18 ~ 5.20	216	宅地造成工事	
河和田城跡 (第12地点)	河和田町字中野 3810-1, 5, 3810-4の一部	08201 102	36° 21' 49" E 140° 24' 52"	2010.2.19	12.6	個人住宅建築	
豊野外 (河和田城跡遠接)	河和田町 2898-4, -10	08201 102	36° 20' 52" E 140° 24' 45"	2009.5.12	—	公園整備計画引取調査	
仙波古墳群 (第3地点第2次・3次)	飯塚町内	08201 120	36° 23' 24" E 140° 23' 44"	2次 2009.6.23 3次 2009.7.6 ~ 7.10	57.03	排水路新設工事	
丹下ノ牧野馬土手跡	河和田町 101-9	08201 331	36° 21' 55" E 140° 25' 38"	2009.10.19 ~ 12.2	12.8	宅地造成工事	
南郷町遺跡 (第5地点)	知念町字元山 341-6, 349-1	08201 117	36° 22' 10" E 140° 24' 41"	2009.6.4	30	商事所兼工場建設	

所取道路名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	道跡番号					
新田道跡	今里町（市道1号開拓工事地内第1地点近接地）	08201	212	36°25'45"	140°23'37"	2009.6.4	—	現地踏査
般若寺道跡	木葉下町内地	08201	282	36°25'16"	140°21'54"	2009.11.19	—	現地踏査
文京1丁目道跡（第1地点）	文京1丁目1808号外3番	08201	023	36°24'14"	140°22'36"	2009.8.26～8.27	112	土地調査
西原道跡 (第1地点)	渡里町 3387-50, -131	08201	026	36°24'38"	140°22'57"	2009.10.23	5.4	個人住宅建築
御道跡 (第14地点)	御町字馬場兼 3422-2, -3	08201	064	36°24'33"	140°23'25"	2009.4.27	13	個人住宅建築
御道跡 (第19地点)	御町 293-1, -8	08201	064	36°24'29"	140°25'16"	2009.10.23	12.24	個人住宅建築
御道跡 (第20地点)	福町字前ノ内 395-1	08201	064	36°24'26"	140°24'14"	2009.11.24	38	共同住宅建築
御道跡 (第21地点)	渡里町字野竹 3287-1, -10, -31	08201	064	36°24'23"	140°25'39"	2009.12.15	10.5	個人住宅建築
西原古墳群 (第4地点)	渡里町字野木 3387-31 外（市道御野33号線）	08201	080	36°24'38"	140°25'24"	2009.4.1	3.4	道路拡幅・側溝建設工事
久我町道跡 (第10地点) (竹原里第53 点)	渡里町字前原 2819-1	08201	121	36°24'27"	140°24'13"	2009.7.13～7.15	90	共同住宅建築
白瀬里官街御道跡 (台辺里第43次)	渡里町 3009-1	08201	276	36°24'45"	140°25'03"	2009.6.11	—	個人住宅・浄化槽設置工事
アヤヤ道跡 (台辺里第55次)	渡里町 2953-1	08201	024	36°24'55"	140°25'45"	2009.7.16	23	個人住宅建築
白瀬里寺坂跡 (台辺里第57次)	渡里町字御屋敷 3001-3, 2994-8	08201	098	36°24'34"	140°25'58"	2009.10.23, 11.17～11.18	11.5	個人住宅建築
アヤヤ道跡 (台辺里第59次)	渡里町 2953-1	08201	024	36°24'32"	140°25'46"	2009.12.15～2010.1.13	119.5	個人住宅建築
白瀬里寺坂跡 (台辺里第61次)	渡里町字前原 2844-2	08201	098	36°24'25"	140°25'05"	2010.1.25	21.75	共同住宅建築
白瀬里道跡 (第2地点)	上国井町字阿川用 4079-2	08201	036	36°26'45"	140°26'18"	2009.4.28	8	個人住宅建築
大井古墳群 (第1地点)	御町町 3516-1～3482	08201	089	36°25'28"	140°24'48"	2009.9.10	13	狹い入り道整備工事
馬場町道跡	御町町 (大井神社境内)	08201	147	36°25'28"	140°24'53"	2009.6.25	—	現地踏査
大井平太郎御跡 (第1地点)	御町町 3621-1	08201	208	36°25'44"	140°24'44"	2009.9.10	6	個人住宅建築
三ノ井道跡 (第1地点)	渡里 2,8,51 (酒平茅庭駅地帶)	08201	292	36°22'22"	140°29'31"	2009.6.22～6.26	52.5	鷹之巣駅周辺の埋立地に伴う地盤造成調査
高安塚 (京野川源)	當麻町 1-5977, 5999	08201	324	36°22'35"	140°24'08"	2009.10.27	12.58	現地変更申請
上平道跡	栗崎町内地	08201	193	36°20'39"	140°31'48"	2009.4.28	—	現地踏査
高根御道跡 (第3地点)	大堀町 1101-1	08201	247	36°19'51"	140°21'41"	2009.4.2	8.8	個人住宅建築
下入野山山道跡 (第1地点)	下入野町字谷上山 2013-1	08201	270	36°18'29"	140°31'13"	2009.7.6～7.8	12.5	土砂採取
達白御道跡 (第4地点)	杉崎町 721-3	08305	002	36°22'56"	140°27'03"	2009.4.10	14	個人住宅建築
舟原古墳群 (第1地点)	大庭町舟原 1290-2	08305	006	36°22'18"	140°21'44"	2010.3.29	10	個人住宅建築
田原古墳群 (第1地点)	二聖輪町 98-2 大庭町 1526-1, 1508	08305	007	36°23'54"	140°21'41"	2010.3.15～3.18	33.4	荒川川沿岸農業水利事業
猪俣道跡 (第1地点第2次)	牛伏町 181-1	08305	069	36°23'33"	140°24'45"	2009.4.9	24	個人住宅建築
良賀町道跡 (第1地点)	舞瀬町 1119-2, 1124	08305	132	36°23'46"	140°22'38"	2009.6.4	12	個人住宅建築
昭和2年 (安楽寺道跡延長)	元吉田町 2056	08201	—	36°21'27"	140°29'06"	2009.2.2	12	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東工院東遺跡 (第2地点第2次)	元治町字御子732-10-12	08201	128	36°21'25"北	140°25'42"東	2009.1.28	82.5	宅地造成工事
平子山遺跡群	木葉下町789-1~外	08201	291	36°25'20"北	140°21'02"東	2009.1.9	—	砂利の石採取に伴う周辺踏査
中河内遺跡 (第3地点)	中河内町字伴194-1, 3~6	08201	065	36°24'25"北	140°22'24"東	2009.2.13	7.5	個人住宅建築
寺内遺跡 (第2地点)	大足町字寺前1189-3~5, 1190-1~2	08305	071	36°24'15"北	140°22'01"東	1次 2008.10.29 ~ 10.30 2次 2009.1.13 ~ 1.14	185.95	墓地造成
里見坂遺跡 (第4地点)	上須井町358-1	08201	046	36°26'35"北	140°26'24"東	2009.1.22 ~ 3.19	66	個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
酒門小学校跡 (第2地点)	集落跡	縄文				鉄鉢(資源池)		
大足町遺跡 (第11地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	壁穴建物跡1(古墳)、溝路1			縄文土器、土器底、埴輪器、土師器土器、かわらけ		
谷田古墳群 (第11地点)	古墳群	古墳				土師器		
吉田古墳群 (第7地点第1次)	古墳群	弥生・奈良・平安	溝路1, ピット2			弥生土器、埴輪器		
吉田古墳群 (第8地点)	古墳群	奈良	壁穴建物跡1(奈良)、ピット1			埴輪器		
菅原寺 (吉田古墳群近傍)	包囲地	中世	溝状遺構1(中世)			土師器		
福岡古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳				土師器		
福岡古墳群 (第4地点)	古墳群	近世	溝路1(近世以前)					
福岡古墳群 (第5地点)	古墳群	中世・近世				磁器、かわらけ		
福岡古墳群 (第8地点)	古墳群	縄文・近世	溝路1(近世以前の段)			縄文土器		
東工院東遺跡 (第2地点第3次)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安				弥生土器、土師器、埴輪器		
東工院東遺跡 (第1地点第3次)	集落跡	平安・近世				土師器、埴輪器、瓦質土器		
若林遺跡 (第1地点第3次)	集落跡	縄文	土坑2(縄文)			縄文土器		
若林遺跡 (第1地点第3次)	集落跡	縄文	壁穴住居跡1、土坑11、柱穴1、ピット1			縄文土器		
高木遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳	土坑1、ピット2					
吉澤遺跡 (第4地点)	集落跡	古墳	壁穴建物跡1、土坑2、ピット3、不明遺構1			土師器		
高木遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳	溝状遺構1(古墳)			土師器		
片瀬跡 (第11地点第1次・2次)	集落跡	縄文・古墳・近世	土坑1			縄文土器、陶器		
片瀬跡 (第13地点)	集落跡	縄文・古墳・近世	溝状遺構1、土坑3			縄文土器、瓦質土器、礫石、骨石		
赤堀遺跡 (第5地点第2次)	集落跡	丸土1・圓土1・春生・古墳・奈良・平安・近世	溝路5、溝状遺構1、土坑2、ピット4			埴輪器、かわらけ		
河和田城跡 (第11地点)	城跡	中世・近世	溝状遺構2(中世)、土坑2、ピット群45(近世)			瓦質土器、鉄剣		
河和田城跡 (第12地点)	城跡	中世				土師器		
周知寺 (河和田城跡遺伝)	包囲地	縄文・近世				縄文土器、海老形土製品		
佐伯内遺跡 (第3地点第2次・3次)	集落跡	弥生・古墳・奈良				土師器、埴輪器、瓦質土器・瓦口・砾石		



所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
丹下ノ久牧野土手跡	野馬土手跡	縄文・近世	土壁・堰	縄文土器、瓦質土器、陶器、磁器	
南御守遺跡 (第5地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	溝跡1(平安)、ビット2(平安)	土崩路、須恵器	
新田跡	集落跡	縄文		縄文土器	
般若寺遺跡	集落跡	奈良・平安		須恵器、瓦塔	
文京寺門跡 (第1地点)	集落跡 古墳	縄文・弥生・古墳	土坑10(縄文)、古墳周辺、性格不明遺構4	縄文土器、埴輪	
西原遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安		土崩路、須恵器	
駒道跡 (第14地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	土坑4、ビット4	土師器、須恵器	
駒道跡 (第19地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1、ビット5(奈良・平安)	須恵器	
駒道跡 (第20地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	ビット1	須恵器	
駒道跡 (第21地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		土師器、須恵器	
西原古墳群 (第14地点)	古墳群	弥生・古墳・奈良・平安	獨立柱建物跡1、土坑1	土師器	
西原古墳群 (第10地点(石室第53号))	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	溝跡2、土坑2、井戸跡1、ビット7	縄文土器、須恵器、瓦質土器、平瓦	
白瀬里官衙跡 (台地第43次)	官衙跡	縄文・古墳・奈良・平安		土師器、須恵器	
アヤサ遺跡 (台地第55次)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	溝跡1、ビット9	土師器	
古瀬里官衙跡 (台地第59次)	官衙跡	縄文・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1(奈良・平安)、土坑1、ビット4	縄文土器、土師器、須恵器、瓦	
アヤサ遺跡 (台地第61次)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	獨立柱建物跡1、土坑5、溝跡3、ビット44、性格不明遺構2	土師器、須恵器、瓦(古代)	
白瀬里官衙跡 (台地第61次)	官衙跡	縄文・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1	須恵器	
前田遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1、土坑1	土崩路、須恵器	
大井古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳		土師器、須恵器	
馬場尻遺跡	集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・近世		縄文土器、須恵器、瓦質土器	
大部平太郎跡遺跡 (第1地点)	城塁跡	奈良・平安	堅穴建物跡1(古代)	須恵器	
三町野遺跡 (第1地点)	集落跡	土坑1(近世)		土崩路、陶器、磁器、かわらけ、ガラス瓶、瓦瓦	
朝安塚 (遺跡付属)	廻廊	近世		陶器、磁器	
上平遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安		平瓦	
高原遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・近世		縄文土器、土師器、須恵器	
下入野畠山口遺跡 (第1地点)	集落跡 古墳	弥生・古墳	堅穴建物跡2(平安)	土師器	
達行遺跡 (第4地点)	古墳跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・山形		土師器	
舟底古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳周辺		
田島古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳周辺(24号墳・28号墳)、堅穴建物跡3、溝跡1	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪	
一體塚遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1、溝跡遺構1、土坑1	土師器、須恵器	
見附山遺跡 (第1地点)	伝筑地	縄文・中世		土師器	



所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
周知外 (安楽寺遺跡群)	古墳地	縄文		縄文土器、土師器	平成 20 年度調査（追加報告）
美玉殿古跡 (第 2 地点第 2 次)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	竪穴建物跡 4	弥生土器、土師器、須恵器	平成 20 年度調査（追加報告）
平ナ山奈良郡	窓跡群	奈良・平安		須恵器	平成 20 年度調査（追加報告）
中河内遺跡 (第 3 地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器、須恵器	平成 20 年度調査（追加報告）
寺内遺跡 (第 2 地点)	古墳地	縄文・弥生・奈良・平安・中世	複数 4、性格不明土坑 6、ピット 20	土師器、須恵器、砾石	平成 20 年度調査（追加報告）
里尻坂遺跡 (第 4 地点)	集落跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安・中世	竪穴建物跡 1 (古墳)、竪穴柱建物跡 5 (奈良 1, 中世以降 4)、土坑・ピット 45 (縄文 37, 古代以降 8)	縄文土器、土器片、磨製石斧、石組、縄文貝、石器、劍坪、石核、土師器、須恵器	平成 20 年度調査（追加報告）

※北緯・東経は世界測地系による。



水戸市埋蔵文化財調査報告 第105集

平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成31年3月28日

発行 平成31年3月28日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 茨城青写真製本株式会社

〒310-0061 水戸市北見町6番31号

TEL 029-225-3951



『平成 21 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書一』正誤表

ページ	訂正前	訂正後
120～129	第 11 表 図版番号 82・89・96・99・104・ 110・113・119・122・125・126・127・128・ 131・133・136・139・146・151・164・171・ 172・173・174・175・176・177・178・179・ 180・181・182・183	第 11 表 図版番号 83・90・97・100・105・ 111・114・120・123・126・127・128・129・ 132・134・137・140・147・152・165・172・ 173・174・175・176・177・178・179・180・ 181・182・183・184
129～130	第 11 表 図版番号 153・154・155・156・ 157	第 11 表 図版番号 154・155・156・157・ 158